

かながわの考古学

2006.3

財団法人 かながわ考古学財団

かながわの考古学

2006.3

財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

今年度も、各時代の研究プロジェクトチームから提出された共同研究の成果を7本掲載することができました。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の各研究プロジェクトチームは設定したテーマの継続研究を 続けております。

いずれの研究プロジェクトチームも限られた時間のなかで収集した、膨大なデータの蓄積があります。その情報を合理的にまとめ、この紀要の限られた紙面の中で反映しています。各研究課題については、それぞれの目標に沿って検討を進めています。

今後ともこうしたグループの共同研究を進めることによって、職員 の資質向上が図られ、皆様にその成果が還元できるようであれば、幸 いです。

また、これら研究成果を通して、私たちの郷土かながわの先人たちの足跡をたどり、歴史を学ぶ一助となることを期待して刊行の言葉とさせていただきます。

刊行にあたりまして、関係各位にご指導をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

2006年3月

財団法人 かながわ考古学財団 理事長熊田節郎

目 次

神奈川県における旧石器時代の遺構	等(その5) - L3層以降- 旧石器時代研究プロジェクトチーム1
神奈川県における縄文時代文化の変 -後期初頭期 称名寺式土器文化期の	逐圏Ⅲ の様相 その1 主要遺跡の集成・一括出土事例- 縄文時代研究プロジェクトチーム 11
宮ノ台式土器の研究(5)	弥生時代研究プロジェクトチーム 27
考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌路	亦(3) -通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介- 古墳時代研究プロジェクトチーム41
神奈川県内における奈良・平安時代	Cの農具 奈良・平安時代研究プロジェクトチーム57
神奈川県内の「やぐら」集成(4)	- 「やぐら」出土の土器・陶磁器類について- 中世研究プロジェクトチーム 75
近世民家の集成 (3)	近世研究プロジェクトチーム

例 言

- 1. 本書は、財団法人かながわ考古学財団および神奈川県教育庁教育部生涯学習文化財課の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに計画的に共同研究を行った結果を掲載する。
- 2. 各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである (五十音順)。
 - ・旧石器(先土器・岩宿)時代研究プロジェクトチーム 井関文明・大塚健一・加藤勝仁・栗原伸好・鈴木次郎・砂田佳弘・畠中俊明・三瓶裕司・御堂島 正 吉田政行
 - ・縄文時代研究プロジェクトチーム 阿部友寿・天野賢一・井澤 純・井辺一徳・岡 稔・小川岳人・恩田 勇・長岡文紀・松田光太郎
 - ・弥生時代研究プロジェクトチーム 飯塚美保・池田 治・伊丹 徹・櫻井真貴・新開基史・谷口 肇・渡辺 外
 - ・古墳時代研究プロジェクトチーム 上田 薫・植山英史・柏木善治・須藤智夫・谷 正秋・近野正幸
 - ・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム 大上周三・加藤久美・河野喜映・小林耕一・冨永樹之・中田 英・西谷俊廣・宮井 香・村上吉正 依田亮一・渡辺清史
 - ・中世研究プロジェクトチーム 宍戸信悟・鈴木庸一郎・服部実喜・宮坂淳一
 - ・近世研究プロジェクトチーム 市川正史・木村吉行・永井 淳・桝渕規彰・柳川清彦

神奈川県における旧石器時代の遺構(その5)

-L3層以下-

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、1994年以来、県内における旧石器時代遺跡の石器群について集成・分析を実施してきた。'94年から'99年までの6回は、「・・・石器群の諸問題」と題して、出土した主な石器の特徴、器種・石材組成・石器製作工程等の検討を中心として層位ごとに集成し、各時期における石器群の様相を捉えようとした。2001年度以降は、主に旧石器時代の遺構(住居状遺構、土坑、礫群、配石、炉跡、炭化物集中、デポなど)を層位ごとに集成し、5年目の今年度は、相模野基本層序におけるL3層以下の層位より検出された遺構を集成し、当該期の特徴を把握しようと試みた。集成の結果、当該期の遺構数は非常に少なく、遺構種別としては、礫群、配石、炭化物集中、土坑が集成された。これらのうち打木原遺跡から発見された土坑群は特に注目される遺構として捉えられよう。今回も例年どおり、報告者の見解を優先して集成を行い、各遺構ごとにその特徴を述べる。

なお、本稿では、前年度に集成したB2層の遺構のうち、前号において頁数の関係で掲載できなかった柏 ヶ谷長ヲサ遺跡B2層の礫群について第5表として掲載した。

L3層以下出土の遺構について

a)礫 群

対象層位からは12遺跡15文化層から34基の礫群を集成した。層位別ではL3層では2遺跡2文化層から2基、B3層では9遺跡10文化層で25基、B4層では2遺跡2文化層から4基、出土層位に幅のある場合、B4~L5層では1遺跡1文化層で2基、L3~B4層では1遺跡1文化層から1基である。こうしてみるとB3層から出土した礫群の数が圧倒的に多い。礫群の規模は最も多いB3層出土礫群を対象とすると、長軸平均1.64m、短軸平均1.24m(長短軸規模の判明している12基対象)、構成礫数としては平均17点(礫数の判明している23基対象)である。最大規模は台山遺跡Ⅳ文化層1号礫群の4.2×3.4mの礫群である。最小で柏ヶ谷長ヲサ遺跡XⅡ文化層礫群6で0.2×0.1mである。構成礫数は古淵B遺跡4文化層20号礫群の201点が最も多く、対して県営高座渋谷団地内遺跡や代官山遺跡で出土した礫群に構成礫2点の礫群がある。出土状態は概ね散漫ないし分散しているが、比較的構成礫数の多い礫群は集中ないし密な状況で出土している。礫の遺存状態は全てが完形礫の例が若干あるが、多くは完形礫と破損礫から構成され、その比率は礫群によって様々である。礫の多くは赤化しているものの、スス等の付着は少数である。使用石材はB2層で特徴的な凝灰岩系石材とは異なり、安山岩・砂岩・チャートなどの石材が用いられる傾向が窺えた。

b)配 石

本遺構は柏ヶ谷長ヲサ遺跡 B 3 層下底部、第 Ⅲ文化層から 3 基の配石に限られる。構成礫は 1 点ないし 2 点であり、これらは石器ブロックや複数の礫群と重複して出土しているので、礫群の構成礫なのか、石器製作に伴う台石なのか、あるいは、他の機能を持った配石として単独で認定すべき遺構なのかは意見の分かれ

るところである。ここでは報文どおり配石として扱うが、今後の事例増加を待って特徴を抽出することとな ろう。

c)炭化物集中

橋本遺跡 L 3~B 4 層第 W 文化層から 1 基のみ確認され、出土事例は非常に乏しい。2.5×2.0mの範囲に 炭化物が集中し、報文では礫群と部分的に重複しているが、炭化物集中として単独で扱っている。

d) 土 坑

打木原遺跡 B 3 層から11基検出されている。規模は直径 1 m前後が 5 基、1.5m未満が 6 基、平面形は全て円形の土坑で、深さは1.65mが最も深く、不明な 1 基を除き 1 m以上の深さを持つ土坑である。掘り込みは概ね逆台形状に掘られ、底面で径50~60cm程となる非常に規格性に富んだ形状である。これらの土坑は陥穴状土坑として報告され、検出状況では若干の規則性が見いだされている。SK01~04・09のまとまりと、SK05~08のまとまりに捉えられ、等高線にほぼ直行する南北ライン上に並んで掘られているよう見える(第 1図)。これらの規模、検出状況は愛鷹山麓の土坑群と共通性が認められるが、県内においては、今後の事例増加を待ちたい。

以上、L3層以下の遺構について概観したが、礫群以外の配石、炭化物集中、土坑は、その出土事例が非常に乏しい。しかし事例数が乏しい反面、その僅少さ故に非常に重要な遺構であり、今後の事例増加における基礎資料とすべきである。

また、礫群についてもより微視的な観察に基づいた分析も必要であり、他の時期との比較検討も今後必要であろう。 (大塚健一)

引用参考文献

金山喜昭·土井永好·武藤康弘 1984 「第V章第6節第VI文化層」 『橋本遺跡 先土器時代編』 相模原市橋本遺跡調査会

堤 隆 1997 「第 XII 文化層」 『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』 柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団

麻生順司 1988 「第4節第Ⅳ文化層(B3中部)」 『台山遺跡 発掘調査報告書』 玉川文化財研究所

小池 聡・細井佳浩 1994 「第2節第II文化層」 『上和田城山遺跡 第4次調査』 大和市上和田城山遺跡調査会 砂田佳弘・上田 薫 1986 「第V章先土器時代の遺構と遺物」 『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査 報告11 神奈川県立埋蔵文化財センター

松井 泉 1990 「"第Ⅱ章第6節第4文化層の遺構と遺物"」 『古淵B遺跡』 相模原市古淵B遺跡発掘調査団

小池 聡 1995 「第7節」「第8節」 『県営高座渋谷団地内遺跡』 県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団

麻生順司・戸田哲也・相原俊夫・河合英夫・橋本真紀夫 1987 「第 \square 章第 $2 \sim 4$ 節」 『藤沢市根下遺跡発掘調査報告書』 玉川文化財研究所

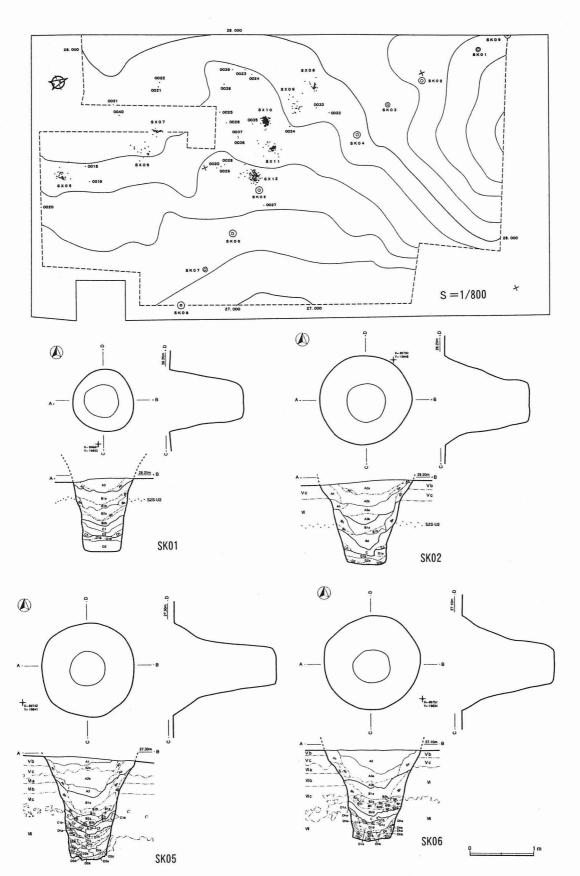
関根唯巳 1996 「第Ⅳ章第1節3. 第Ⅱ文化層 (B4層下部~B5層上部)」 『吉岡遺跡群』 吉岡遺跡発掘調査団麻生順司・赤間和重・戸田哲也 1997 「Ⅲ. 検出された遺構と遺物」 『神奈川県藤沢市No48遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』 藤沢市No48遺跡発掘調査団

佐藤明生 2002 「旧石器時代の遺構と遺物(3) - 姶良Tn火山灰降灰以前の陥穴状土坑群-」 『打木原遺跡』 横 須賀市教育委員会

佐藤明生 1990 「第Ⅳ章先土器時代の遺構と遺物」 『長井台地遺跡群』 横須賀市教育委員会

小池 聡 1997 「(6)第V文化層」 『神明若宮地区内遺跡』 神明若宮地区内遺跡発掘調査団

鈴木忠司他 1996 「下原遺跡の陥穴状土坑とその周辺」 『下原遺跡Ⅱ』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書 第72集



第1図 L3層~B3層の遺構 (土坑:打木原遺跡B3層)

第1表 礫 群

							新 I 丞				r
遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備 考 (共伴遺物等)
55	橋本遺跡	L3~BB4	VI	礫群26	2.60	1.70	30 (27)	and the same of	接合前(完形:6、 破損24) 接合後(完形:8、 破損19)赤化21	砂岩: 28、チャート: (珪岩) 2	炭化物集中と部分的に重複 か。 調査区 (B4区) の全体に礫 が分散する中の小礫群。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	XII	礫群1	1.50	1.50	19	分散	完形: 3、破損: 1 6、赤化: 1		1号ブロック、礫群2、配 石1・2と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	XII	礫群 2	0.70	0.50	4	分散	完形: 0、破損: 4、 赤化:なし		1号ブロック、礫群1、配 石1・2と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	XII	礫群3	1.20	0.80	9	分散	完形: 4、破損: 5、 赤化: 3		2 号ブロック、礫群 4 · 5 · 6、配石 3 と分布が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	XII	礫群 4	0.70	0.60	15	分散	完形:7、破損:8、 赤化:1		2 号ブロック、礫群 3 · 5 · 6、配石 3 と分布が重 なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	XII	礫群 5	2.50	2.00	28	集中	完形:10、破損: 18、赤化:10		2 号ブロック、礫群 3 · 4 · 6、配石 3 と分布が重 なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	XII	礫群 6	0.20	0.10	3	分散			2 号ブロック、礫群 3 · 4 · 5、配石 3 と分布が重 なる。
84	台山	BB3m	IV	1号礫群	4.20	3.40	14	分散	完形: 8、破損: 6 赤化:11	砂岩:5、閃緑岩:3、 安山岩:2、碟岩:1、 ホルンフェルス:1、そ の他:2	
90	上和田城山(4次)	BB3m	П	第1号礫群			5 (1)	分散	破損:5、赤化:5		礫の石材種記述無し。
109	代官山	L3	VIII .	礫集中1~ 6			計46点	散漫	完形:34 (3,074.66 g)、破損:12 (290.4g)	4	1地点の構成礫は10個前後 に留まる。「大きな一群と して把握されよう」との記 載あり。
109	代官山	BB31	IX	碟集中1			6		完形:3、破損:3		但し、礫の総点数は52点
109	代官山	BB31	IX	碟集中2			7		完形:5、破損:2		(約2.6kg)、内訳は完形:38 点(2,199.26g)、破損:1
_	代官山	BB31	IX	碟集中3			2		完形:2、破損:0		4点 (378.3g) との記載あ
_	代官山	BB31	IX	礫集中4			18		完形:16、破損:2		り。また、礫集中2~5は、 大きく1地点としてまとま
	代官山	BB31 BB31	IX IX	礫集中5 礫集中6			3		完形: 0、破損: 2 完形: 2、破損: 1		るとの記載もあり。
	代官山	BB31	X	碟集中1			3		完形:3、破損:1		但し、礫の総点数は13点
	代官山	BB31	Х	礫集中2					完形:1、破損:3		(約1 kg)、内訳は完形: 9 点(895.3 g)、破損: 4点 (113.7 g) との記載あり。
157	古淵B遺跡	BB3m	4	21号礫群	1.20	0.90	8		接合なし。 完形:3、破損:5 赤化:5、スス付着: 5、タール付着:1	砂岩: 4、チャート: 3、 安山岩: 1	石器集中との重複はない。
157	古淵B遺跡	BB3m	4	26号礫群	0.90	0.50	4 (1or2)	密?	破損のみ。赤化:1	チャート:1	接合する3点はまとまって出土。
157	古淵B遺跡	BB3u	4	20号礫群	3.00	2.60	201 (200)	密	完形: 99、 赤化: 160、 スス付着: 23、 タール付着: 6	チャート: 138、安山岩 20、砂岩: 43	35号ユニットと重複。 B3上部と中部で分離される可能性あり。 配石状の遺構も認められる。
185	県営高座渋谷団 地内	L3uu	VI	第1号礫群	2.20	1.40	13	集中	破損:13、赤化: 13		礫の石材種記述無し。
185	県営高座渋谷団 地内	BB3u	VII	第1号礫群	3.60		2	散漫	破損:2、赤化:2		礫の石材種記述無し。
185	県営高座渋谷団 地内	BB3u	VII	第2号礫群	0.50		2	散漫	破損:1(2)、赤 化:2		礫の石材種記述無し。
283	根下	BB3l	П	1号礫群	1.40	0.80	18	比較的密	完形 (ほぼ完形):	2、砂岩・チャート・礫	平均長:8.8cm、平均幅:6.4 cm、平均厚:4.9cm。総重量:7,679g、平均重量: 427g。
283	根下	BB3u	П	2号礫群	-	-	3 (4)	散漫	完形 (ほぽ完形) : 3、破損:1。赤 化:2、スス:1。		平均長:13.0cm、平均幅: 6.8cm、平均厚:5.1cm。総 重量:5,116g、平均重量: 1,279g。
283	根下	BB3間	Ш	1号礫群	2.20	1.20	15 (11)	_		岩·安山岩質凝灰岩:各	平均長:8.2cm、平均幅: 5.5cm、平均厚:3.2cm。総 重量:3,810g、平均重量: 532g。

神奈川県における旧石器時代の遺構(その5)

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備 考 (共伴遺物等)
283	根下	BB4u	IV	1号礫群	2.70	1.60	17 (14)	比較的密	9、破損:8。赤 化:12。	砂岩:3、ホルンフェル	平均長:10.0cm、平均幅: 6.3cm、平均厚:4.0cm。総 重量:9,050g、平均重量: 532g。
345	吉岡	BB4l ~L5u	П	第1号礫集 中部	3.20	2.20	22点 (813.1 g/平 均:37 g)		14、3/4・1/2:各1、	珪質頁岩:5、頁岩:2、 凝灰質頁岩・火山礫凝灰	少量の炭化物を伴う。完形 (ほぼ完形) 礫の平均重量 は53.1g、平均長さ4.35cm。
345	吉岡	BB4l ~L5u	П	第2号礫集 中部	1.60	1.60	11点 (409.2 g/平 均:37. 2g)	散漫		山礫凝灰岩・砂岩:各2、	出土層位は第1号礫集中部 より全体的に低位であり、 時期的により古い可能性あ り。完形(ほほ完形)の平 均重量:49.4g、平均長 さ:3.97cm。
346	藤沢市No48	BB4	-	3基あり							B区より検出
348	神明若宮地区内	BB3m	V	礫群	0.90		2	散漫	破損:2、赤化:2		礫の石材種記述無し。

第2表 配 石

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数	分布	礫の	状 態	石材組成	備 考 (共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3ll	VII	配石 1	0.2	0.2	1	単独	完形:1			1号ブロック、礫群1・2、配石2と分布 が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB311	VII	配石 2	1.3	0.2	2	分散	完形:1、	破損:1		1号ブロック、礫群1・2、配石1と分布 が重なる。
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB3ll	VII	配石 3	1.0	0.2	2	分散	完形:1、	破損:1		2号ブロック、礫群3・4・5・6と分布 が重なる。

第3表 炭化物集中

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	備 考 (共伴遺物等)
55	橋本遺跡	L3?~ BB4	VI	炭化物片集 中箇所	約2.5	約2.0	1箇所検出。礫群26と部分的に重複か。コナラ放射孔材?と樹種同定。

第4表 土 坑

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸	短軸	深さ	平面形態	断面形態	備考
347	打木原	B B 3		土坑 SK01	0.97	0.93	1.15	円形	逆台形	年代25,270±300
347	打木原	B B 3		土坑 SK02	1.42	1.39	1.35	円形	逆台形	
347	打木原	B B 3		土坑 SK03	1.00	0.98	1.10	円形	逆台形	年代30,780±230
347	打木原	B B 3		土坑 SK04	1.43	1.40	1.35	円形	逆台形	
347	打木原	B B 3		土坑 SK05	1.46	1.42	1.60	円形	逆台形	年代23,820±130
347	打木原	B B 3		土坑 SK06	1.48	1.46	1.45	円形	逆台形	,
347	打木原	B B 3		土坑 SK07	1.04	0.95	1.20	円形	逆台形	底面やや丸い逆台形
347	打木原	B B 3		土坑 SK08	1.45	1.45	1.65	円形	逆台形	
347	打木原	B B 3		土坑 SK09	1.42	1.42	1.60	円形	逆台形	底面やや丸い逆台形、年代21,020±90
347	打木原	B B 3		1号土坑	0.95	0.95	1.50	円形	逆台形	
347	打木原	B B 3		2号土坑	0.86	0.62	-	-	_	

第5表 礫 群(補遺:BB2柏ヶ谷長ヲサ)

遺跡	HREES, H	確認				長軸	短軸	礫数										備考
No.	遺跡名	層位	文化層	遺構	名	(m)	(m)	接合後数	分布	礫の) ;	犬 態	礫	群	石杉	打 組	成	(共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群1		3.10	2.00	23	集中	完形:3 赤化:2		破損20、						1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群 2		1.60	0.80	18	集中	完形:2. 赤化:18	、破	損:16、						1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群3		2.20	0.60	21	集中	完形: 15、赤(6、							1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群4		2.00	0.90	17	集中	完形:7. 赤化:16	、破							1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群 5		4.20	2.00	13	分散	200 0000	、破	損:11、						2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群 6		4.60	2.80	54	集中	完形:1 42、赤f	2,							2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群7		2.60	1.10	12	分散		、有							2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Luu	VI	礫群8	1	2.80	1.60	18	分散	1000 1000 10 10	、破	摄:18、						2号ブロックと重複、配石 1と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群1 a	a	3.60	2.40	315	集中		54、							1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群 1 h)	2.20	1.60	98	集中	完形:1	2,	破損:						1号ブロックと重複、配石
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群2 a	a	2.60	1.40	124	集中	86、赤1	20.	破損:						1 と重複 1 号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群 2 b)	2.20	1.40	21	集中	104、赤	、破							1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群3		1.20	1.00	43	集中	赤化:2	11,							1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群4 a	a	2.20	1.40	21	集中	32、赤化 完形:4	、破	0.00						1号ブロックと重複、配石
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群4 b)	1.60	1.40	102	集中	赤化:2	16,							3 と重複 1 号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群40	2	1.60	1.60	46	分散		、破	(202)						1号ブロックと重複、配石
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群 5	\dashv	1.60	1.20	40	集中	赤化:40		損:36、						2と重複 1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群 6	\dashv	0.60	0.40	14	集中	赤化:40 完形:1		損:13、						1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群 7	-	1.00	0.80	18	分散	赤化:14	4		_					1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群8	\dashv	0.20	0.10	3	分散	赤化:18 完形:0		皮損:3、			-			2号ブロックと重複
	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群 9	-	1.20	0.80	6	分散	赤化:3						1		2号ブロックと重複
	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群10		2.40	1.20	17	集中	赤化:6			_					2号ブロックと重複
	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	礫群11	4	1.40	0.20	6	分散	赤化:1	7							3号ブロックと重複
	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VII	碟群1	_		2007-61		3.5.75.00	赤化:6	1.50							3 ダブロブブ 2 単核
74	相が分長プリ	DDZLU	VIII.	保証		1.50	1.00	5	分散	完形:0 赤化: 着:1								
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群2 a	a	1.00	0.60	31	集中	完形:8 赤化:3	、破31、	議損:23、 スス付						2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群21	2	2.00	1.60	14	集中	着:1 完形:3								2号ブロックと重複
	THE PERSON NAMED IN COLUMN 1	DDDDa		PAUL 2 .		2.00	1.00	11	* 1			スス付	,					
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群20	c	1.00	0.20	4	集中	完形:2 赤化:4		皮損:2、						2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群3		4.80	2.00	44	集中	着:1、	11,	i損:39、 スス付 ール付						1号ブロックと重複、構成 礫中に磨石1あり
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群 4	-	0.40	0.30	6	集中	着:1 完形:0		皮損:6、						1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群 5		1.10	0.50	29	集中		、破	遺: 26、		-			-	1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群 6		1.30	0.90	28	分散		、破							1号ブロックと重複
74	的な父月コル	ppor	VIII	2		1 50	0.00	90	525 Ale	着:1		スス付						1 早プロックと街墳
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu		礫群7		1.50	0.90	89	密集	赤化:8	6							1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群 8		0.40	0.40	18	集中	完形:2 赤化:7		2加,16、						1号ブロックと重複、配石 1と重複、構成礫中に磨石 1(2)あり
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群 9		1.90	1.60	44	分散	完形:1 赤化:4		技損:43、						1号ブロックと重複、配石 2と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群10		1.60	1.00	6	分散	完形:0 赤化:5)、有	皮損:6、						5号ブロックと重複

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構	名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫	Ø	状	態	礫群石材系	且成	備 考 (共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群11		0.70	0 .20	4	分散	完形:		破	員:2、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群12		1.20	0.70	6	分散		: 1,	破	損:5、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群13		1.70	0.90	75	密集		6、 : 75	, .	員:69、 スス付			7号ブロックと重複、配石 3と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群14		2.50	1.50	38	集中	完形:	5、		1:33			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lu	VIII	礫群15	5	0.80	0.80	16	集中	220 300	2,	破拍	1: 14	多孔質安産岩: 4		7号ブロックと重複、配石 4と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群1		1.00	0.60	6	分散	-	: 0,	破	員:6、			24号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 2		2.00	1.80	51	集中	完形:	8,	破打	: 43、			1号ブロックと重複、配石 3と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群3		2.60	1.10	20	分散	完形:	4,	破拍	: 16、			1号ブロックと重複、配石 4と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 4		2.20	1.00	11	分散	完形:	1,	破扎	: 10	8		1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 5		2.40	0.50	7	分散	完形:	: 2,	破	損:5、			2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 6		0.50	0.20	3	分散	完形:	: 0、	破	員:3、)		2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 7		3.00	2.00	122	集中	完形: 5、赤	7、					2号ブロックと重複、配石 5と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群8		0.30	0.10	3	集中	完形:	: 0,					2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 9		2.30	1.30	50	集中	完形:	1,	破技	1:49、			2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群10		1.80	1.40	33	分散		6,	破損	: 26、			3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群11		1.50	0.90	29	集中	完形:	7、	破損	: 22、			3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群12a		1.70	1.00	20	分散		4,	破損	: 16、			3・4号ブロックと重複、 配石6と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群 12b)	2.50	1.60	44	分散	1900 Meson	5、	破損	1:39、			3・4号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群12c		2.60	1.70	71	集中	完形:	8,	破損	1:63、			3・4号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群13		0.90	0.90	18	集中	完形:	2,	破技	: 16、			3号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群14		0.50	0.40	4	集中	完形:	: 0,	破	員:4、			号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群15		2.00	0.80	18	分散	完形:	4,	破技	: 14、			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群16		2.20	1.20	40	集中	完形: 0、赤	10.		損:3			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群17		0.20	0.20	3	集中	完形:	0,	_	員:3、			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群18		0.30	0.15	3	集中	完形:	: 0、	破技	員:3、			4号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群19		2.30	2.40	17	分散		2,	破損	: 15,			4 · 7号ブロックと重複、 配石7と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群20		1.10	0.40	5	分散	完形:	: 0,	破技	員:5、			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群21		2.00	1.90	31	分散	完形:	5、	破損	1:26、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群22		1.90	1.50	24	分散	完形:	3、	破損	: 21,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群23		2.50	1.10	23	分散	完形:	3、	破損	: 20、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群24		1.50	0.60	10	集中	完形:	0,	破扎	1:10.			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群25		1.30	0.90	16	分散	完形:	2,	破損	: 14、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群26		2.50	0.90	11	分散		3、	破技	員:8、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群27		2.60	1.50	34	分散	完形:	4,	破損	1:30,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群28		3.00	0.90	22	分散		2,	破損	1:20,			5 号ブロックと重複、配石 58と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群29	1	2.40	1.00	18	分散	110 1150	0,	破損	: 18、	安山岩: 1		5号ブロックと重複、配石 14と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群30		1.20	1.00	23	集中	完形:	2,	破損	1:21,			5号ブロックと重複、配石 9と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群31	\forall	2.30	1.00	19	分散		4、	破損	1:17、	安山岩: 1		5号ブロックと重複

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構	名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の	状	態	礫群石林	才組 成	備 考 (共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群32	7	0.90	0.80	14	集中	完形:3、 赤化:13	破損	: 11,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群33		2.80	2.00	34	分散		破損	: 28,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群34		1.90	0.90	31	集中	完形:4、 赤化:30	破損	: 27,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群35a		3.50	1.60	152	集中	完形:14、 38、赤化					5号ブロックと重複、配石 11と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群35b		0.60	0.60	20	集中	完形:2、 赤化:20				2	5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群35c		1.90	1.10	65	集中	完形:8、 赤化:65	破損	: 57、			5 号ブロックと重複、配石 10と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群35d		2.40	1.80	45	分散	THE RESERVE OF THE PARTY OF THE	破損	: 41,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群36		2.10	1.30	11	分散		破損	1:7、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群37		1.40	1.10	10	分散	25 10 EUX	破損	1:8,			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群38		1.40	1.10	17	集中	完形:4、 赤化:17	破損	: 13、			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群39		2.40	1.20	59	集中	完形:6、 赤化:59	破損	: 53、		N =	5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群40	7	3.40	2.60	140	集中	完形:6、 4、赤化:	破損	1:13		-	5 号ブロックと重複、配石 13・12と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群41		1.00	0.90	10	分散						5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群42		3.05	1.90	37	分散			損:2			5号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群43	1	0.70	0.70	6	分散			1:4,			5号ブロックと重複、配石 15と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群44		2.40	0.80	6	分散		破扎	1:3,			5号ブロックと重複、配石 16と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群45		0.40	0.20	10	集中	完形:3、 赤化:10	破打	員:7、			5・6号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群46		2.00	1.40	17	分散	9821100000000000000000000000000000000000	破損	: 12,			5・6号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群47		1.75	0.80	10	分散	000000000000000000000000000000000000000	破打	員:9、			5・6号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群48		2.60	0.90	7	分散		破打	員:6、			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群49		1.10	0.80	12	集中	完形:1、 赤化:12	破損	: 11,			7号ブロックと重複、配石 17と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群50		0.30	0.10	3	集中	完形:1、 赤化:3	破打	員:2、			7号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群51		4.10	1.50	14	分散	200000000000000000000000000000000000000	破拍	員:9、		11	8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群52		2.70	1.60	38	集中	完形:7、 赤化:38	破損	: 31,			8号ブロックと重複、配石 19と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群53		0.90	0.80	6	分散	完形:1、 赤化:6	破打	員:5、			8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群54		2.70	1.30	19	分散	完形:3、 赤化:19	破損	: 16、			8号ブロックと重複、配石 21と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群55		1.10	0.50	5	分散		破打	員:2、			8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群56		2.30	1.20	15	分散		破損	: 14、			8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群57		0.80	0.30	12	集中	31.0	破打	員:7、			8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群58		1.90	0.70	11	分散		破打	員:9、			12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群59		3.10	1.30	16	分散		、破技	損:6、			12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群60		1.80	1.20	9	分散		破打	員:7、	1		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群61		2.10	1.60	45	分散	100 miles 1 miles	破損	l: 37.			12号ブロックと重複、配石 24・25と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群62		1.10	0.30	4	分散		破技	員:2、	8	N.	12号プロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群63		2.80	2.10	59	集中	7.0 0.00 0.00	破損	: 51,	1,78%		12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群64		1.10	1.00	14	分散			員:9、	- 1	3	12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群65		0.40	0.30	3	分散	完形:1、 赤化:3		員:2、			12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群66		0.70	0.30	10	集中	The second second		員:7、			8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群67		1.20	1.20	12	集中			1:11.			8号ブロックと重複

遺跡 No.	遺跡	名	確認層位	文化層	遺構	名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫(カ	状	態	礫群石材組成	備 考 (共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群68		0.60	0.40	4	分散	完形:(赤化:4		破	損:4.	多孔質安山岩: 4	8号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群69		1.70	0.90	7	分散	完形:(0,	破技	損:7.		9・12号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	Eヲサ	BB2Lm	IX	礫群70		3.10	2.00	16	集中	完形:1	l, i	破技	員:15。		11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ミヲサ	BB2Lm	IX	礫群71		6.00	3.00	34	分散		1, 1	破技	員:30、		9・11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群72		0.50	0.30	3	分散	完形:	1,	破技	損:2.		9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ミヲサ	BB2Lm	IX	礫群73		0.90	0.50	5	分散	完形:	1,	破技	損:4、		9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ミヲサ	BB2Lm	IX	礫群74		1.90	0.40	12	分散	200000000000000000000000000000000000000	ι, ί	破損] :11.		9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ミヲサ	BB2Lm	IX	礫群75		3.50	2.70	86	集中	完形:	13、		損:7		9号ブロックと重複、配28と重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群76		0.80	0.90	9	分散	70.0	1,		損:8.	多孔質安山岩: 1	9号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群77		1.70	0.90	9	分散		1,	破技	損:8、		11号ブロックと重複、配 31が近接
74	柏ヶ谷長	ラサ	BB2Lm	IX	礫群78		0.60	0.20	5	集中	300	0,	破技	損:5、	多孔質安山岩: 1	11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群79		1.90	1.60	15	集中	221 (197)	l, i	破技	II: 14.	多孔質安山岩: 2	11号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群80		0.60	0.50	24	密集	完形:	12、 比:	破24	損:1	1	10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群81		3.50	2.50	22	分散	完形:2 赤化:2	2, 7		1:20		10・11号ブロックと重複 配石33と重複
74	柏ヶ谷長	ラサ	BB2Lm	IX	礫群82		4.10	2.90	64	集中		13、		損:5		10号ブロックと重複、配
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群83		1.20	1.10	14	分散	完形:3	3,]:11.		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群84		1.90	1.20	16	分散	完形:(), i	破技	E : 16		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ラサ	BB2Lm	IX	礫群85		0.80	0.50	14	集中	完形:1	l, i	破技	13.		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群86		1.30	0.80	12	集中	完形:3	3、	破技	損:9、		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群87		0.90	0.70	8	分散	完形:4	4,	破技	損:4、		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群88		0.30	0.10	3	集中	完形:(0,	破技	損:3、		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群89		0.50	0.30	7	集中	完形:	1,	破技	損:6、		10号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群90		2.00	1.20	12	分散	完形:	7,	破技	損:5、		16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群91		2.20	1.30	17	分散	17 27 17 Maria 12 14	5, 1	破損	: 11	多孔質安山岩: 3	16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群92		1.40	1.30	10	分散		3,	破技	損:7、	多孔質安山岩: 1	16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群93		0.70	0.30	4	分散	完形:(0,	破技	損:4、		15・16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群94		1.90	0.60	12	分散	完形:3	3、	破技	損:9、		15・16号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群95		2.20	1.10	36	集中		3, 7	破損	: 28		15号プロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群96		0.55	0.20	5	集中	完形:3	3、	破技	損:2、		14号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群97		1.60	0.80	9	分散		1,	破技	損:8、		14号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群98		2.30	1.40	19	集中		3, 3	破損	: 16	多孔質安山岩: 3	13号ブロックと重複、配7 35と重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群99	7.	4.80	2.90	110	集中		7,			多孔質安山岩: 1	14号ブロックと重複、配る 36と重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群100		1.00	0.50	8	分散		1,				14号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群101		2.00	1.20	12	分散	完形:1 赤化:9	. 1	破損	: 11,		18号ブロックと重複、配る 37に近接
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群102		2.80	1.10	8	分散	完形:3	3、	破技	損:5、		20号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群103		3.10	1.70	39	集中	完形:5 赤化:3	5, 1	破損	: 34		20号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群104		1.30	1.40	18	集中	完形:5 赤化:1	5, 1	破損	: 13,		20号ブロックと重複、配ね 42と重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群105		0.90	0.70	26	集中	完形:7 赤化:2	7, 1	破損	: 19,		20号ブロックと重複、配7 43と重複
74	柏ヶ谷長	ヲサ	BB2Lm	IX	礫群106		2.00	1.00	17	分散		', 1	破損	: 10		20号ブロックと重複

遺跡	遺跡名	確認	文化層	遺構名	長軸	短軸	礫数	分布	礫の	状 態	礫 群 石 材 組 成	備考
No.		層位			(m)	(m)	接合後数		- 2	14:10. 010.	3 Sept. 1964 7949 0031 7513 79430	(共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群107	2.40	1.60	26	分散	完形:4、 赤化:26	= 1379.6		20号ブロックと重複、配石4
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群108	0.90	0.50	9	集中	完形:1、 赤化:9	破損:	8.	21号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群109	2.40	0.80	37	集中	完形:2、 赤化:37	破損:3	35、	21号ブロックと重複、配石 46と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群110	1.80	1.10	33	集中	完形:5、 赤化:33	破損:2	28,	21号ブロックと重複、配石 47と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群111	2.20	1.00	19	分散	完形:2、 赤化:19	破損:	17,	21号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群112	1.00	0.80	12	集中	完形:2、 赤化:12	破損:	10,	21号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群113a	1.55	0.70	20	集中	完形:1、 赤化:20	破損:	19,	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群113b	1.40	0.80	27	集中	完形:1、 赤化:27	破損:2	26、	23号ブロックと重複、配石 48と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群113c	0.50	0.50	13	集中	完形:1、 赤化:13	破損:	12,	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群114	1.90	1.00	21	集中	完形:6、 赤化:21	破損:	15,	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群115	0.90	0.40	8	集中	完形:3、 赤化:8	破損:	5、	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群116	1.55	0.80	15	分散	完形:1、 赤化:15	破損:	14.	23号ブロックと重複、配石 49と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群117	0.40	0.30	6	集中	完形:0、 赤化:6	破損:	6,	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群118	3.55	1.10	21	分散	完形:6、 赤化:21	破損:	15.	23号ブロックと重複、配石 50と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群119	0.90	0.35	14	集中	完形:2、 赤化:14	破損:	12,	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群120	0.70	0.90	8	集中	完形:2、 赤化:8	破損:	6.	23号ブロックと重複、配石 52と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群121	0.50	0.45	22	密集	完形:3、 赤化:22	破損:	19、	23号ブロックと重複、配石 53と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群122	4.00	2.80	93	集中	完形:5、 赤化:93	破損:8	38、	23号ブロックと重複、配石 54・55・56・57と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群123	0.60	0.20	4	集中	完形:0、 赤化:4	破損:	4,	23号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群124	1.00	0.40	10	密集	完形:1、 赤化は不明		9.	22号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2Lm	IX	礫群125	1.90	1.30	27	分散		破損:2	23、	22号ブロックと重複、配石 59と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	Х	礫群1	2.60	1.20	8	分散			7.	0万と 単核
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群2	1.00	0.20	4	分散		破損:	3,	
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群3	1.40	0.40	8	分散	完形:4、 赤化:8	破損:	4.	
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群4	1.60	0.70	17	集中	完形:1、	破損:	16、	配石4と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群 5	0.50	0.20	4	分散		破損:	2,	
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群 6	1.60	0.40	10	分散		破損:	7,	2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群 7	1.45	0.70	10	分散		破損:	6,	2号ブロックと重複、配石 6と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	Х	礫群8	1.00	0.90	11	分散		破損:	8,	2号ブロックと重複、配石 7と重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	Х	礫群 9	0.95	0.35	5	分散		破損:	4.	2号プロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	Х	礫群10	2.80	2.50	18	分散		破損:	14、	2号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	Х	礫群11	2.30	1.90	12	分散		破損:	12、	2号ブロックと重複、配石
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群12	1.30	1.20	7	分散		破損:	5,	8 に近接 1 号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群13	2.00	1.00	11	分散	赤化:7 完形:4、	破損:	7,	1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	Х	礫群14	1.30	0.40	6	分散		破損:	4.	1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群15	3.45	1.40	15	分散		破損:	11,	1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群16	0.80	0.55	4	分散	赤化:15	破損:	2,	1号ブロックと重複
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB2L1	X	礫群17	0.40	0.30	3	分散		破損:	3,	1号ブロックと重複
									赤化:3			

神奈川県における縄文時代文化の変遷™

-後期初頭期 称名寺式土器文化期の様相 その1-

-主要遺跡の集成・一括出土事例-

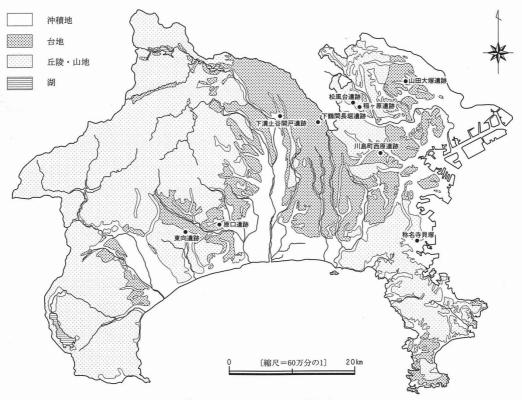
縄文時代研究プロジェクトチーム

I. はじめに

今年度から後期初頭期・称名寺式土器文化期の様相をめぐる研究を開始した。該期を特徴づける称名寺式 土器は言うまでもなく、横浜市金沢区称名寺貝塚の出土土器を基準にして1960年に設定された土器型式であ る(吉田格1960『横浜市称名寺貝塚』)。当初は発見例が少ないため存在を疑問視されたりもしたが、現在で は関東一円に広く存在する後期初頭の土器という位置付けが定着し、数段階の変遷も認識されるに至ってい る。(研究史は横浜市埋蔵文化財センター1990『調査研究集録7』等に詳しく書かれている。)

今年度は該期研究の第一年目にあたる。次年度以降に予定している土器編年作業・文化要素研究の前提作業として、県内の基礎的資料の収集、データーシート・データーベースの作成を行った。その集成成果の全てを本稿に掲載することは紙面の関係上不可能であるため、称名寺式土器出土主要遺跡地名表及び参考文献を掲載すると共に、一括出土事例中で良好と思われるものを図示し、紹介することにした。 (松田光太郎)

Ⅱ. 一括出土事例

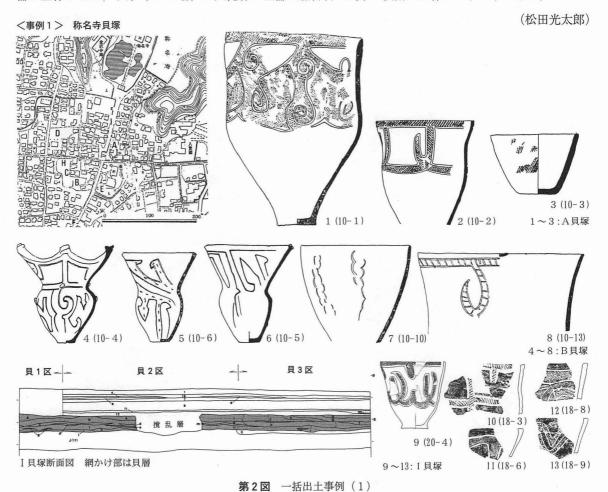


第1図 一括出土事例掲載遺跡

〈事例1〉 称名寺貝塚(第2図1~13)

横浜市金沢区称名寺境内一帯に所在する小貝塚群。標高約5mの砂丘上にあり、現在A~I貝塚の9ヶ所の貝塚の存在が確認されている。A貝塚は称名寺山門内に所在し、1932年に赤星直忠氏、1951年に日本考古学協会縄文部会(吉田格氏)が調査した地点、B貝塚はA貝塚の南西70~80m付近に所在し、1951年に前出の縄文部会、1957年に武蔵野文化協会(吉田氏)が調査した地点、C貝塚はB貝塚の北西30m付近に所在し、1957年に武蔵野文化協会(吉田氏)が調査した地点である。D貝塚は1963年に横浜市立大学(和島誠一氏)、1966年に武蔵野文化協会が調査した地点、E貝塚は薬王寺内に所在し1947年に赤星氏が調査した地点、H貝塚は1977年、I貝塚(称名寺参道)は1983年にそれぞれ横浜市埋蔵文化財調査委員会が調査した地点である。F貝塚は1956年に横浜市史編纂室が調査した中世の貝塚、G貝塚は1957年に調査された近世の貝塚である。

第2図1~8は1951・1957年の吉田氏発掘資料で、称名寺式土器の型式提唱の基準になった資料である。 第2図1~3はA貝塚資料。報告書で称名寺式土器第一群土器、加曽利E式直後とされた土器である。1・ 2とも太い沈線でJ字状文を描き、沈線間に縄文を施文している。同図4~8はB貝塚資料で、称名寺式土 器第二群土器、堀之内式へ続くとされた土器である。4~6は縄文をもたず沈線でJ字状文等を描いたもの で、5は列点をもっている。本地点は堀之内1式土器も出土している。同図9~13はI貝塚資料。貝1・2 区は貝層上部(a・b層)で9・10を含む太沈線の土器が出土し、下部(c・i層)で加曽利E式第Ⅳ段階が 出土した。貝3・4区は貝層上で列点をもつ土器(13)が出土。貝層上部(a・m層)では11・12のような土 器が主体をなし、下部(n・o層)は太沈線の土器と加曽利E式第Ⅳ段階が主体をなすようである。

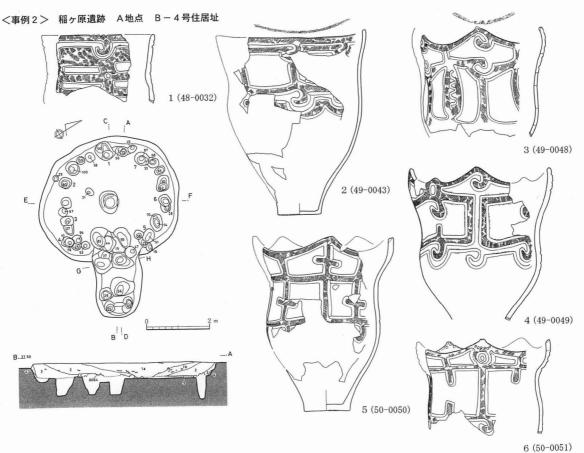


-12-

〈事例2〉稲ヶ原遺跡 A地点 B-4号住居址(第3図)

稲ヶ原遺跡は横浜市緑区(現在青葉区)さつきが丘8の3番地外に所在する。この付近は、多摩丘陵の一部に含まれ、鶴見川の支流である恩田川・谷本川・早渕川により開析された丘陵地形を形成している。本遺跡は、恩田川・谷本川に挟まれ、小支谷により開析された、一段低位の台地の西辺部に位置している。小学校建設に伴う発掘調査で、縄文時代の竪穴住居址・土坑・炉穴・集石・配石遺構・ピットなどが検出されており、縄文時代中期末~後期初頭の遺構としては、竪穴住居址・土坑・集石遺構がある。

B-4号住居址は、調査区の南側に位置している。ローム層を掘り込んだ柄鏡形のプランを呈しており、床面には大型の礫が敷かれた敷石住居址である。本住居址の時期は、加曽利E式第IV段階であるが覆土の最上層から称名寺式の最も古い時期と見られる土器が多量に出土している。住居址出土土器として図示した6点は、すべて覆土最上層からの出土土器である。1は深鉢で口唇部に刻みが施される。沈線により長方形・円形区画を形成する。地文にはLRの縄文が施文されている。2は口唇部に縄文を施した深鉢である。平行する沈線によりJ字状の文様や懸垂文等を描き、沈線間の帯状部にLRの縄文を充填している。3は5単位の波状口縁を有する深鉢である。口唇部には縄文が施され、波状口縁の波頭部には刻みを有する。沈線によりJ字状の文様や懸垂文・紡錘文等が施され、LRの縄文を充填している。4は大小4対の波状口縁を有する深鉢である。沈線区画を巡らし、J字状の文様等を施文し、LRの縄文が充填される。6は5単位の波状口縁の深鉢で、波頭部に刻みや刺突文が施される。沈線によりJ字状の文様や懸垂文等が描かれ、LRの縄文を充填している。



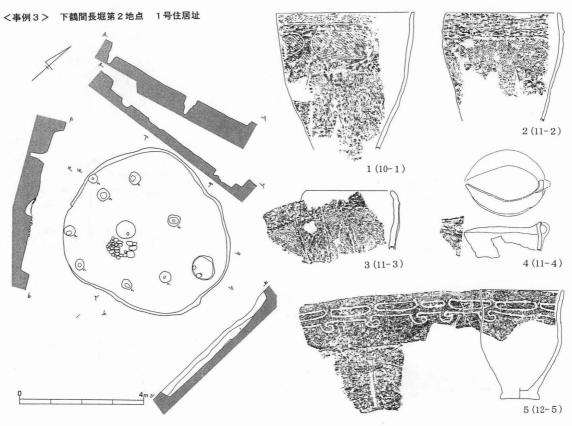
第3図 一括出土事例(2)

〈事例3〉 下鶴間長堀遺跡 第2地点 第1号住居址 (第4図1~5)

下鶴間長堀遺跡は相模野台地の東側に位置し、台地東縁を流れる境川に向けて開口する長堀と呼称される 奥行き2.5kmほどの支谷に接する痩せ尾根上に立地している。調査面積はごく小さく、竪穴住居址1軒、土坑 1基が検出されたにとどまっている。

第1号住居址は富士黒土層下部で検出された不整楕円形の住居址である。8本の柱穴が円形にめぐり、出土遺物がこの範囲に集中することから、壁際に柱穴をめぐらす柄鏡形住居であったと想定されている。床面上には礫が配されているが、配石炉なのか、敷石の一部であるのか判然とはしない。

住居址出土土器としては図示した5点が報告されている。1は深鉢で、口縁直下に沈線をめぐらせ区画し、また沈線で楕円形区画を描いて、ともに区画内に縄文を施している。胴下半には、楕円形区画文の接点になる位置を頂点にあてる山形に沈線を描きその頂部にのみ縄文を施す。報告者は牛蛭式の要素を持つ加曽利E系の土器としている。2と3は口縁部に無文帯と断面三角の微隆起線を有する加曽利E系の深鉢である。3は口縁部の微隆起線から、胴部にむけて同様の微隆起線を垂下させ、一部微隆起線間を磨り消して無文化しているが、無文部の配置は規則的ではなく、微隆起線間が必ずしも磨り消されるわけではない。4は2・3同様の加曽利E系の鉢で、把手を有し、その対になる部分が注ぎ口状になる。口縁を内側に屈曲させ、無文帯を形成している。5は口縁部に楕円形の枠状区画を配し、さらにJ字のモチーフを垂下させ、枠状区画内に縄文を充填した深鉢である。同じく沈線を使用した1の土器が、口縁部の楕円形区画内に縄文を充填するのに対し、枠状区画に縄文を施している点で異なり、また沈線は深くしっかりしている。報告者は中津式系の称名寺式土器としている。



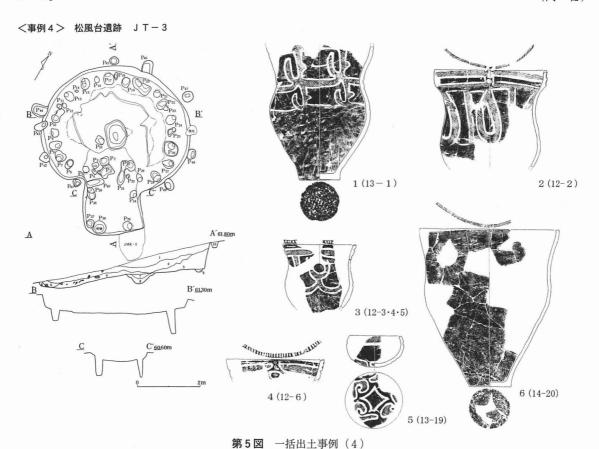
第4図 一括出土事例(3)

〈事例 4〉 松風台遺跡 JT-3 (第5図)

松風台遺跡は横浜市緑区(現在青葉区)松風台23-1番地外に所在する。遺跡の南約1㎞を鶴見川の支流である恩田川が東流し、南西約0.7㎞では恩田川と、恩田川の支流である奈良川が合流している。恩田・奈良の両河川の合流点付近から北東へ入り込む谷と、東急田園都市線青葉台駅付近から北西に延びる谷によって挟まれるように北東~南西方向に延びる丘陵頂部から南東向き斜面にかけて遺跡は立地している。宅地造成に伴う発掘調査で、縄文時代の竪穴住居址・土坑・集石・屋外埋甕などが検出されている。該期の遺構としては、竪穴住居址1軒がある。

JT-3は遺跡中央部に位置するC区西側の南東向き斜面で見つかった。プランは $4.8 \times 3.8 \text{m}$ の楕円形に近い主体部に幅1.75 m、長さ1.6 mの張出し部が接続する柄鏡形である。壁際と張出し部には石が置かれる、いわゆる柄鏡形の敷石住居である。張出し部の先端には埋甕が設置されていた。

住居址出土土器として6点を図示した。1は口縁部を欠く埋甕の深鉢である。体部上半には突起のあるJ字状の文様を2段施し、上端の区画とJ字状の文様の間には縄文帯、下位には沈線が施される。下位の沈線はJ字の部分で開放している。2は口唇部に縄文が施された深鉢である。口縁部文様帯は長方形の区画文で、区画文間には縦位に2箇所の押圧が加えられる。胴部には紡錘文と懸垂文が交互に繰り返される。3は口唇部に刻みが施される深鉢である。胴部には懸垂文が施され玉抱文が見られる。4は口唇部に刻みを施し口縁部の区画文間に竹管による刺突が施される。5は小形の鉢で沈線によりJ字状の文様が施される。6は粗製の深鉢で口唇部には縄文が施される。口縁部には縄文帯を巡らし、ここから縦に縄文を約5㎝間隔で施文している。



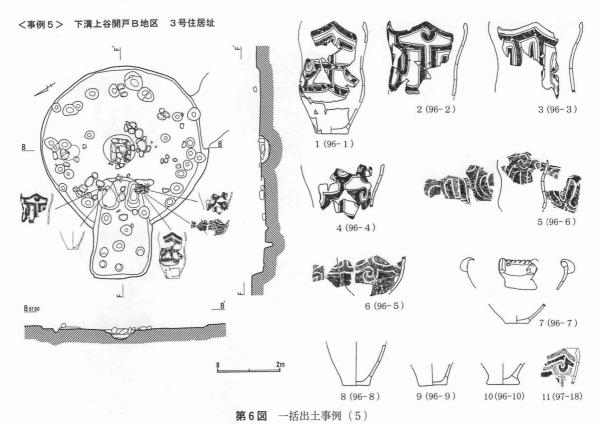
-15-

〈事例 5〉 下溝上谷開戸遺跡 B地区 第3号住居址 (第6図1~11)

下溝上谷開戸遺跡は相模野台地の西縁、田原面の段丘上に位置する。遺跡の直下では、鳩川が南東側にかけて大きく蛇行して南下し、鳩川に向けて張り出した舌状の地形を形成している。

B地区第3号住居址(以下第3号住居址)は上述した舌状の地形の基部で検出されている。柄鏡形を呈する住居址で、炉は石囲炉となり、床面上には部分的に敷石が施されていた。

出土土器のうち破片を含め73点が報告され、このうち11点を図示した。 1~5 は波状口縁を呈する深鉢である。沈線による区画内に縄文を充填した帯縄文で、文様モチーフを描く。 1 は口縁に沿って帯縄文を施すもので、文様はJ字文を上下二段に配し、J字文は無文部で描出する。J字文は上段を波状口縁の波頂部に対応させ、下段は波底部に配する。またJ字文に沿う帯縄文を縦横に連結させている。 2 は口縁に沿った帯縄文から直接J字文を垂下させる。文様は二段構成をとり、上段は波頂部にJ字文、波底部には下段の文様と縦に繋ぐ帯縄文が施される。下段は、上段に比較して幅広にとられ、波底に対応した角張った縦長のJ字文が配される。 3 は口縁直下が無文となり、文様の構成は一段となる。口縁に並行する帯縄文から縦長のJ字文が改頂部から波底部に対応して配される。 4 も波状口縁に沿って帯縄文を施す。文様は二段で構成し、波頂部下に無文部でJ字文を描出する。波底部には口縁部の帯縄文から円形の帯縄文を垂下させる。下段は波頂部に対応して帯縄文を十字に、波底部に対応して上段同様のJ字文を配する。 5 は文様が不規則で、他のような二段構成をとらない。波頂部にJ字文、波底部に円形文を配する。胴部には縦位に弧状の帯縄文を施す。 6 は深鉢の胴下半部で、帯縄文を二段に配するものと想定される。 7 は鉢形土器、8~10は深鉢の底部である。11は 1 同様の波状口縁深鉢の破片である。



〈事例6〉 山田大塚遺跡 21号住居址・27号土壙(第7図)

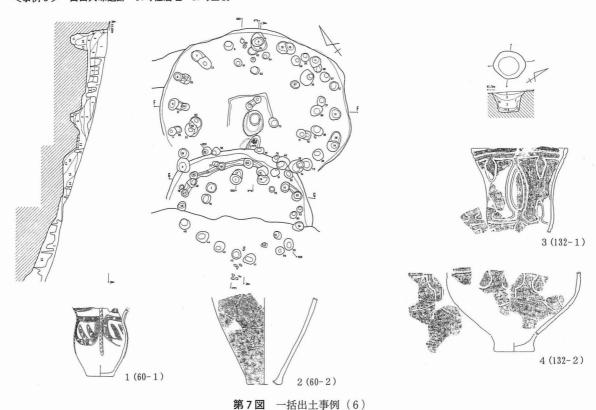
山田大塚遺跡は港北ニュータウン地域内の北端に位置し、下末吉台地西部に相当する台地上にある。遺跡の北に横浜市と川崎市の市境近くを流れる有間川により形成された沖積地を望む。同じ港北ニュータウン地域内に後期前葉を中心とする川和向原遺跡がある。

山田大塚遺跡で発見された縄文時代の遺構は住居址44軒、掘立柱建物8棟、炉穴164基、土壙85基を数え、このうち称名寺式期に帰属する遺構は住居址2軒、土壙15基である。21号住居址および27号土壙から該期の復元土器が複数個体出土している。

21号住居址は隣接する19号住居址(堀之内1式)に切られる。斜面に構築されているため半分ほどが流出しており、炉の発見もなかった。もともと炉がなかった可能性があるという。復元個体のほかに少量の土器片を除いて出土遺物はない。報告書に床面出土の復元図2点が掲載されている(第7図1・2)。1は頸部以下の完存するもので、垂下する縦位の隆帯により区画された中に上下二段の方形基調の区画文が施される。2は細かな単節LR縄文の施された粗製深鉢胴下半部である。

27号土壙は楕円形に近い平面形を呈し、壁に若干の傾きを有す貯蔵穴である。覆土中にかなり多量の土器 片が含まれるが、いずれも称名寺式であるという。報告書には復元図2点、破片図8点が掲載されている (第7図3・4)。3は深鉢胴部下半を欠損するもので、強く深めに施され裏面に顕著に突出した沈線で、縦 位の紡垂文や縦長のスペード文が配される。縄文は無節Rの充填手法をとる。4は胴部下半部のみをのこし、 二段構成の文様帯の下半部分で、その下端も単一沈線によって連結されている。3と異なり沈線による裏側 への突出はみとめられない。

<事例 6 > 山田大塚遺跡 21号住居址・27号土壙

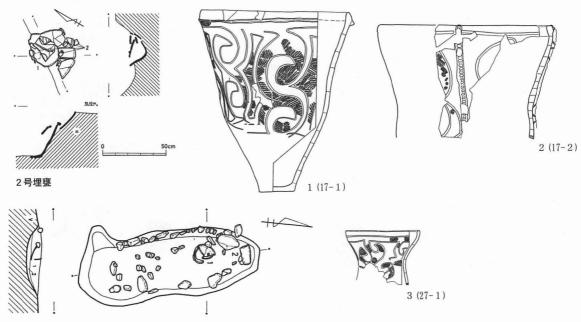


〈事例7〉 川島町西原遺跡 2号埋甕・配石遺構(第8図1~3)

川島町西原遺跡は横浜市保土ヶ谷区川島町1,505番地他、帷子川中流域右岸の台地上に所在する。市営住宅建て替えに伴う発掘調査で、縄文時代の土坑・集石・埋甕・焼土址・ピット・配石遺構などが検出されており、該期の遺構としては、土坑・埋甕・配石遺構がある。

2号埋甕は調査区北側で見つかったもので、広がりは約42×38cm、高さ35cmの規模をもつ。西半分は土坑が重複し、欠損している。大形の深鉢形土器1個体(1)が正位の状態で埋設されており、その中に深鉢形土器の大きめの破片(2)が口縁部を上にして入っていた。その他明らかに時期の異なる堀之内1式土器の小破片が1点入っていたらしい。埋甕の周りには明確な掘り込みは認められなかった。1・2は2号埋甕出土土器。1は深鉢形土器で、器体の約1/2が残存する。口径39.1cm、器高47.5cm、底径9.2cm。口縁部下に1条の隆帯を水平に巡らし、以下に2条の平行する沈線で上下に連なるJ字状の文様を数個垂下させ、J字状文間にはJ字状文に平行してJ字状文にかみ合うようなS字状の文様を描き出している。そしてS字状文部分は縄文(LR、RL)を施文し、隣のJ字状文部分は無文のまま、というように、2条の線で挟まれた帯状部が互い違いに縄文部と無文部となるよう縄文を充填し、文様のコントラストをつけている。2は口縁下に単沈線を水平に巡らし、刻み付隆線を垂下させている。垂下隆線で分割された器面には2条の沈線で縦に連なるJ字状の文様を垂下させ、2条の沈線間の帯状部に縄文(LR)を充填している。

配石遺構は調査区南側で検出された。配石は約1.5×0.6mの範囲で広がっており、西側の配石は規則的に並ぶが、東側の配石は散在している。長軸線上やや北寄りに、深鉢形土器(3)がほぼ正位の状態で埋置され、更に北側隅で石棒の基部破片が出土している。配石下には掘り込みがあり、その規模は2.0×0.7m、深さは0.21mであった。3は胴部下半を欠損する深鉢形土器。口径19.2cm、器高14.5cm(現存)。口縁下に2条の沈線と充填縄文LRによる縄文帯を水平に巡らし、以下に単沈線によるJ字状文様を数個垂下させ、J字状文内には文様の走行方向に合わせるようにして、縄文LRが充填施文されている。本資料では土器は1個体のみであるが、先の2号埋甕と同じ遺跡から出土しているので掲載した。 (松田光太郎)



第8図 一括出土事例(7)

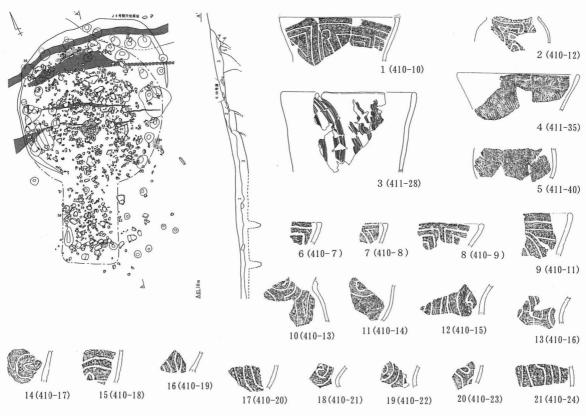
〈事例 8〉 原口遺跡 J 2号敷石住居址 (第 9 図)

原口遺跡は北に金目川流域を望む大磯丘陵の北端に位置する。加曽利B式期の集落址として金目川をはさんだ北金目台地に王子ノ台遺跡、秦野盆地に曽根吹上遺跡、同じく秦野盆地で称名寺式期の住居址が発見された東向遺跡がある。

原口遺跡では縄文時代中期末~後期初頭を中心とした遺構が発見され、縄文時代の竪穴住居址68軒中1軒、敷石住居址9軒中2軒、埋設土器33基中2基が称名寺式期に帰属する。該期の復元土器を複数個体出土する遺構としてJ1号敷石住居址、J2号敷石住居址がある。J1号敷石住居址で出土した復元個体には、縄文帯による渦巻文をもつもの(復元図2個体)と列点を配した沈線帯でJ字状文を描くもの(復元図4個体)が、床面から浮いた状態で一緒に出土している。そのため一括性が乏しいと判断し今回の集成からはずした。

J2号敷石住居址からは早期中葉から後期の土器411点が出土し、うち称名寺式が17.3%を占める。本遺溝から出土した土器として、報告書に復元図4点、破片図15点が掲載されている(第9図1~21)。1は、緩い波状口縁をなし、波頂部口唇に上方から円形刺突が施される。縄文帯でJ字状文のモチーフを描く。2は、頸部に屈曲をもつ鉢形土器と思われ、胴部にやはり縄文帯によるJ字状文もしくは渦巻文が施される。3は櫛歯状文、4は単節RL縄文、5は無節L縄文が施された粗製土器である。6~21は縄文帯でJ字状文等のモチーフが描かれる。5割程が中期末から後期の縄文や櫛歯状文をもつ粗製土器であること、縄文帯によるJ字状文をモチーフとした大型破片が目立つことから、本住居はいわゆる称名寺1式期に帰属するとされる。住居は地割れにより床面に多くの段差が生じている。

<事例8> 原口遺跡 J2号敷石住居址



第9図 一括出土事例(8)

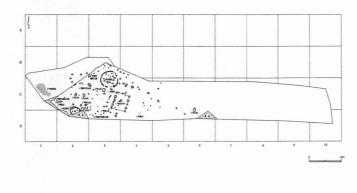
〈事例9〉 東向遺跡 3号屋外埋設土器 (第10図)

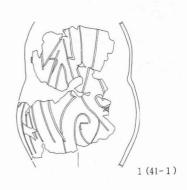
東向遺跡は、足柄上郡中井町に所在する遺跡で、中村川水系藤沢川の右岸に展開する丘陵上に立地している。遺跡の立地している丘陵は大磯丘陵北西部にあたり、遺跡立地面は標高140m程の緩斜面となっている。第一東海自動車道改築工事に伴う発掘調査が実施され、中期末~後期初頭期を主体とする集落址であることが明らかになった。該期の遺構は、住居址2軒、配石遺構1基、焼土址1基、土坑2基、屋外埋設土器3基が検出されているが、このうち、該期の深鉢2個体が併置された3号屋外埋設土器を事例として取り上げた。

3号屋外埋設土器は居住域と目される区域の南東端に占地するもので、正位で埋設された深鉢2個体が接した状態で検出されたものである。土器を埋設するための掘り込みは検出されていないが、本来は掘り方を有していたものと推察されている。検出時の状態は深鉢2個体が併置された様相を呈しているが、報告書では、第10図に掲載した2の土器を埋設する際に1の土器を破壊しているため、新旧2基の切り合いとされている。従って、本事例は、一括出土事例というよりも重複事例として捉えた方が良いだろう。

埋設されていた土器は、いずれも口縁部と底部を欠損する深鉢で、底部は埋設時に意図的に打ち欠かれたものと推測されている。第10図1は先に埋設されていたとされる個体である。胴部中位に緩やかな括れを有し、口縁部にむかってやや窄まりをみせる瓢状のプロポーションをとるもので、注口土器の可能性があると指摘されている。文様は縦位基調の沈線のみで描出されている。懸垂文のモチーフはJ字・逆J字・クランク状等を基調とするが、間隙に施された弧状の側線が重複施文されており、やや入り組んだ様相を呈している。2は後に埋設されたとされる個体で、胴部中位に緩やかな括れを有し、口縁部にむかって直線的にひらくプロポーションを呈している。文様は縦位基調の沈線のみで描出されている。幾分崩れた逆J字状懸垂文が胴部上位から下位まで貫かれたかたちで配されており、モチーフの下端はすべて開放されている。各々のモチーフが重複せず、独立して配されており、1にみられたような入り組んだ様相は認められない。(井辺一徳)

<事例9> 東向遺跡 3号屋外埋設土器









2 (41-2)

第10図 一括出土事例(9)

神奈川県内 後期初頭土器出土主要遺跡地名表

(1)この表は、神奈川県内における縄文時代後期初頭の主要な遺跡をまとめたものである。掲載にあたっては、当該期の遺構(住居址・土坑・埋設土器など)が発見された遺跡の他、遺物包含層などから土器の出土が報告されている遺跡を対象とした。なお、以下の場合は都合によりデータから除外している。①遺跡台帳や遺跡地図で後期初頭土器の出土が記載されているのみの遺跡。②県史・市区町村史、年報・概要集などで後期初頭土器の出土が報じられているが、まとまった出土量が見込まれない遺跡。③正確な位置や内容が把握できない遺跡。(2)この表は、土器編年の基礎資料を集成するためにまとめたものであり、時期細分などについては次年度以降明らかにする予定である。(3)作成にあたっては分担して集成し、データーベース化した。なお、表の編集は天野が担当した。

1 受地でいやま連絡 疾患町270他	No.	遺跡名	所在地	文献Na	No.	遺跡名	所在地	文献Na
2 国際地産選渉 在田町 127 127 127 137								145
3 小池連称					50			65
3 小池遺跡 上自県町 46 機運作業区 1 機工作業区 1 機工作業区 1 機工作業区 1 機工作業別区 5 日向単連体 音田町 6 6 会元文庫遺跡 音田町 6 6 会元文庫遺跡 金元町工3 47 日本産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産産			荏田町	127	51			129
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本								57
4 中村宮 / 予遊跡 同津町字宮 / 奈2598他 87	3	小池遺跡	上白根町	46			松風台23-1番地外	76
4 中村宮 / 予遊跡 同津町字宮 / 奈2598他 87	横浜	市泉区			川崎	市麻生区		
1 日			岡津町字宮ノ谷2598他	87		岡上No 4 遺跡第 2 地点	岡上字栗畑745他	191
5 目向根遺跡 管田町 6								130
横長西金沢区			杏田町	6				130
6 会沢文庫遺跡 会沢町1142他 会沢町113 2 2 2 2 2 2 2 2 2			ТЕШЫ	0				13
7 株名寺具塚 会沢町213 47 大浦町第 大浦町第 × 木77-3-4 47 横浜市港南区 日野町桜戸 14 14 横浜市連市区 14 14 14 14 14 14 15 15			◇沿町1/24h	62] 同	10
接属方地産 大龍町室ノ木77-3-4 11 接面清速区 11 接面清速区 12 14 接面方地区 14 接面方地区 14 接面方地区 15 5 新作り入電力温跡 新作字池ノ谷 5 新作り入電力温跡 新作り上窓2 1 14 接面方面を 15 14 接面方面を 15 15 15 15 15 15 15 1							# III 1 405 1	207
接海市 (復戸第 1 遺跡 1 日野町榎戸 14 14 横浜市連北区 10 公団篠原団地内真塚 篠原町72と他 563 新作2、原遺跡 新作3.23 他 新作3.23 他 新作3.23 他 新作3.25 他 12 篠原町72と他 212 新音田町 128 東山田町2015他 75 横浜市運豚 上倉田 35 江上倉田遺跡第1遺跡 長尾合町 23 大熊町892他 仲町63丁目16 179 125 計本町133 125							开田1485-1	207
9 計画台(複戸等) 遺跡) 野町棋戸			八用町至ノ木/7-3-4	11			#r //- # > /->	
10 公司様家 原 団 地内貝塚	傾 洪	巾港南区	□ programme lost ===		59	新作小局台遺跡		44
10 公田篠原団地内具塚			日野町榎戸	14				3
11 市営音田住宅地内遺跡 採原丁ワ-2他 212 213 湿屋の上遺跡 新刊4550他 7 16 旧田下北遺跡 東山田町2015他 7 16 旧田下北遺跡 東山田町2015他 7 17 上倉田遺跡第11遺跡 上倉田 35 汲沢字細田 28 長尾合町 23 長屋の上遺跡 大熊町802他 12 大熊町9158 大北町1170他 8 大北町1018時 大北町11700 8 大北町1018時 大北町11700 8 大北町11700 8 大北町1018時 大北町11700 8 大北町1018時 大田町1180 大				1			新作3-1282	119
22 経原下ア2-2他 12 13 景屋の上遺跡 新日田町 12 13 景屋の上遺跡 新刊第5 9 遺跡 新刊第5 9 遺跡 新刊第5 9 遺跡 新刊第5 9 遺跡 東山田町2015他 7 横浜市戸塚区 17 上倉田遺跡第11遺跡 上倉田遺跡第11遺跡 上倉田遺跡第11遺跡 上倉田遺跡第11遺跡 上倉田遺跡 上台田 上田 上				63				
13	11	市営菅田住宅地内遺跡	小机町325他	64			長尾7-12	180 • 193
13 昼屋の上遺跡 新吉田町 28 新羽条9 遺跡 新羽4550他 74 16 山田大塚遺跡 東山田町2015他 75 16 山田大塚遺跡 東山田町2015他 75 17 上倉田遺跡第11遺跡 上倉田 23 長尾台町 23 長尾台町 23	12	篠原大原遺跡	篠原町72-2他	212	63	西菅遺跡第3地点	菅仙谷2-5他	15
14 新河第9 遺跡 新河4550他 74 15 16 11 11 11 12 12 15 16 11 11 12 12 13 15 14 14 14 15 14 15 14 15 16 16 16 16 16 16 16	13	畳屋の上遺跡		128				
15 師岡打逸遺跡 師岡町265色 74 横浜市戸塚区 1日 上倉田遺跡等 遺跡 上倉田 35 18 細田遺跡 浸尾合遺跡 提尾合町 23 接尾合遺跡 提尾合町 23 接展合遺跡 上倉田 35 67 日戸遺跡 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸前1250番地 日戸豊戸市町原理が 日戸町町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町72日9 日戸町7日9 日戸7日9 日戸							萱 生 1-1 他	37
16 山田大塚遺跡 東山田町2015他 75 横浜市戸塚区 17 上倉田遺跡第 直部 上倉田 35								01
「持足の							去世字上去世67.1/m	131
17 上倉田 遺跡 正倉田 35 初沢字細田 28 18 細田遺跡 長尾台遺跡 長尾台町 23 長尾台遺跡 長尾台町 23 長尾台遺跡 大熊町1734他 12 横浜市総区 20 池辺等4 遺跡 中町台3丁目16 179 大熊町133 大藤町2030他 77 大熊町133 大本町1170他 8 大藤町2030他 76 其田小原遺跡 上吉沢市場1530-1他 日崎らの市産 日崎らの下水田町 18 日崎の下水田町 18 日崎らの下水田町 18 日崎の下水田町			米田田町2015世	13	50.50			
18 細田遺跡 汲沢字細田 28 18 長尾台声跡 長尾台町 23 接展市経区 20 池辺郭4遺跡 池辺町734他 12 接展市都筑区 12 上の川遺跡 大熊町892他 株町白3丁目16 179 大熊町892他 作町台3丁目16 179 大木町13遺跡 折本町1170他 8 大米本町尾遺跡 折本町1170他 8 大米本町尾遺跡 折本町12030地 75 相模剛崎城跡 同崎宇城山15416番地他 上吉沢市場1530-1地 同崎宇城山15416番地他 上吉沢市場1530-1地 同崎宇城山15416番地他 上子八名遺跡 同崎宇城山15416番地他 上子八名遺跡 同崎宇城山15416番地他 24 大本町屋遺跡 川和白25 111 112 28 華厳台南遺跡 上東沢市場150区 北金目享跡 上東沢市場150区 北金目字大久保 27 北川具塚南遺跡 大丸11 160 160 29 小丸遺跡 大丸11 160 160 20 29 小丸遺跡 大丸11 160 160 20 23 下表目遺跡 川和町2047他 43 花見山遺跡 川和町2047他 43 花見山遺跡 川和町2047他 43 花見山遺跡 川和台33 111 112 23 原出上 上市沢1617番地外 上市田下315-18世間 接近市 上市沢1617番地外 上市田下315-18世間 上市沢1617番地外 上市バ617番地外 上市沢1617番地外 上市バ617番地外 上市沢1617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市沢1617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市バ617番地外 上市が1			1.00	0.5	10.50			131
19 長尾台遺跡 長尾台町 23 69 吉井垓山遺跡 吉井字下吉井735他 1 横浜市緑区 1 20 池辺第4 遺跡 池辺町734他 12 横浜市都筑区 大熊町892他 仲町台37 目 16 179 大水町1170他 8 73 上吉沢市場近る30他 上吉沢市場1530-1他 同崎 阿崎 阿崎 阿崎 阿崎 阿崎 四崎 四崎 四					8.8.			101
横浜市線区 12						三足谷遺跡		131
12 大熊町892他 大熊町892地 大熊町893丁目16 179 大木町1170地 8 大木町1170地 8 大木町1170地 7 大木町111 100 7 大丸11 100 7 大丸11 100 7 7 八十八八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十			長尾台町	23			吉井字下吉井735他	163
横浜市都筑区	横浜	市緑区						
横浜市都筑区	20	池辺第4遺跡	池辺町734他	12	70	王子ノ台遺跡		82
上の山遺跡								102
22 大熊仲町遺跡 竹本町137目16 179 73 上吉沢市場1530-1他 179 175			大能町892他	88			片岡字宮ノ前1250番地他	66
23 折本第13遺跡 (折本貝塚) 折本町1170他								181
24 折本第16遺跡 折本町2030他 75 打本町2030他 76 其田北金目遺跡群15D区 111 126 27 北川貝塚南遺跡 平渕3丁目 128 華厳台南遺跡 在田南1丁目20 97 29 小丸遺跡 大丸11 160 160 170 1								19
5 折本西原遺跡 折本町								
11 11 11 12 12 13 14 14 15 14 15 14 15 15								49
27 北川貝塚南遺跡 早渕3丁目 128 華厳台南遺跡 花田南1丁目20 97 160 179 山王久保遺跡 高間原947番1号他 180 三の九遺跡 川和町2047他 43 180					0.000			268
28 華蔵台南遺跡 荏田南1丁目20 97 29 小丸遺跡 大丸11 160 30 三の丸遺跡 川和町2047他 43 31 花見山遺跡 花見山15~35 112 32 原出口遺跡 川和台33 111 33 水窪遺跡 川和台33 111 34 数根不動原遺跡 中川町1529他 52 34 数根不動原遺跡 ※ 27 横浜市保土ケ谷区 ※ 27 35 帷子峯遺跡 川島町1,505他 70 37 常盤台遺跡 川島町1,505他 70 38 仏向遺跡 山局町352他 29・48 39 南原遺跡 川島町1,505他 89 39 南原遺跡 川島町1,505他 89 40 稲荷山貝塚 山合町の大田銀町 199・18 41 横浜市直2号線No 4 式掘遺跡 山合56他 南太田4丁目 42 横浜市道2号線No 6 - I 遺跡 古、田太田4丁目 92 43 稲ヶ原遺跡へお進島 さつきが丘8の3番地外 90 42 横浜市道2号線No 6 - I 遺跡 大熊町924他 9 43 稲ヶ原遺跡へお地点 さつきが丘8の3番地外 90 43 稲ヶ原遺跡へお地点 大熊町924他 9 45 茂藤 4 遺跡 大熊町907他 10 </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>209</td>								209
29 小丸遺跡	1,000,000				78			77
30 三の丸遺跡					79			78
30 三の丸遺跡	29	小丸遺跡	大丸11	160	80	高間原遺跡	高間原947番1号他	4
花見山遺跡 花見山15~35 112 32 原出口遺跡 川和台33 111	30	三の丸遺跡	川和町2047他	43	81	根岸B遺跡	万田鳴子谷戸402番外地	164
32 原出口遺跡	31	花見山遺跡			82			200
33 水窪遺跡 中川町1529他 52 34 薮根不動原遺跡 ※ 27 横浜市保土ヶ谷区 ※ 27 横浜市保土ヶ谷区 ※ 29-48 36 川島町西原遺跡 川島町1,505他 70 37 常盤台遺跡 出島町252他 出島町973他 197-198 ※ 27 ※ 29-48 39 南原遺跡 川島町973他 197-198 ※ 29-48 ※								59
34 薮根不動原遺跡 ※ 27 横浜市保土ヶ谷区 ※ 29・48 36 川島町西原遺跡 川島町1,505他 70 常盤台遺跡 出島町25世 195・198 197・19					0.545			193 • 201
横浜市保土ヶ谷区 19 18 18 18 18 18 18 18								132
株子峯遺跡			A	21				
川島町西原遺跡 川島町1,505他 常盤台遺跡 常盤台横浜国立大学構内 36 38 仏向遺跡 仏向町1352他 川島町973他 197-198 横浜市南区			收公口町250 144	20.40			上口八十 円井原	91
7							明公台台)是1504年1	
38 仏向遺跡 仏向町1352他 89 197-198 197-198 横浜市南区 199 199-198 横浜市南区 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194 199 194								53
197-198 大庭字二番構5686他 197-198 大庭字二番構5686他 大庭字二番構5686他 大庭字二番構5686他 大庭字二番構5686他 大庭字二番構5686他 大庭字二番構5686他 大庭字可根沢5119-1他 大庭字可根沢5119-1他 大庭字可根沢5119-1他 大庭子可根沢5119-1他 持浜市道2号線№4は調節 南太田4丁目 30 大庭字可根沢5119-1他 持浜市道2号線№6-1遺跡 南太田4丁目 30 大庭字可根沢5119-1他 長後1894他 西富月塚(藤沢市№46遺跡 西富子光徳467他 四富字光徳467他 四富字光徳467他 四富字光徳467他 四富字光徳467他 日本年 大熊第5遺跡 大熊町924他 5大熊町924他 5大熊第4遺跡 大熊町907他 大熊町907他 大熊町907他 大熊町907他 大熊町907他 大熊町907他 大熊町907世 東本郷6丁目1193-1他 161 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118 大田原市						-		Nu sa
横浜市南区 90 遠藤貝塚(西部217地点) 40 稲荷山貝塚 山谷56他 199 41 横浜市道2号線№4試掘遺跡 南太田3丁目320-1 25 42 横浜市道2号線№6-I遺跡 南太田4丁目 30 横浜市線区 43 稲ヶ原遺跡A地点 さつきが丘8の3番地外 90 44 大熊第5遺跡 大熊町924他 95 藤沢市№322遺跡 用田字御手洗水738他 45 大熊第4遺跡 大熊町907他 10 46 宿根南遺跡 東本郷6丁目1193-1他 161 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118					88		, , , , , ,	31
横浜市南区 40 稲荷山貝塚 山谷56他 199 41 横浜市道2号線№4試掘遺跡 南太田3丁目320-1 25 42 横浜市道2号線№6-I遺跡 南太田4丁目 30 横浜市海区 市太田4丁目 30 43 稲ヶ原遺跡A地点 さつきが丘8の3番地外 外の大熊町924他 94 藤沢市№322遺跡 用田字御手洗水738他 44 大熊第5遺跡 大熊町924他 96 藤沢市№322遺跡 用田字御手洗水738他 45 大熊第4遺跡 大熊町907他 10 46 宿根南遺跡 東本郷6丁目1193-1他 161 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118	39	南原遺跡	川島町973他	197 · 198	89	西部209地点遺跡	大庭字二番構5686他	83
40 稲荷山貝塚 山谷56他 199 41 横浜市道2号線№4試掘遺跡 南太田3丁目320-1 25 42 横浜市道2号線№6-I遺跡 南太田4丁目 30 横浜市緑区 七官山遺跡 長後1894他 43 稲ヶ原遺跡 A 地点 さつきが丘8の3番地外 90 44 大熊第5遺跡 大熊町924他 96 藤沢市№322遺跡 用田字御手洗水738他 1 45 大熊第4遺跡 大熊町907他 10 97 南鍛冶山遺跡 石川205番地 1 46 宿根南遺跡 長津田町字住撰 118 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118					90	遠藤貝塚 (西部217地点)		98
41 横浜市道2号線No 4 試掘遺跡 42 横浜市道2号線No 6 - I 遺跡 南太田4丁目 南太田4丁目 25 30 92 善行遺跡 代官山遺跡 93 代官山遺跡 94 西富貝塚 (藤沢市No46遺跡) 95 藤沢市No322遺跡 75 大熊第 5 遺跡 46 大熊第 4 遺跡 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 か田原市 41 横浜市道2号線No 6 - I 遺跡 南太田4丁目 25 30 92 善行遺跡 93 代官山遺跡 94 歴高貝塚 (藤沢市No46遺跡) 95 藤沢市No322遺跡 96 藤沢市No431遺跡 97 南鍛冶山遺跡 98 用田鳥居前遺跡 18 田田字御手洗水738他 10 97 南鍛冶山遺跡 98 用田鳥居前遺跡 118 1			山谷56他	199	1000		大庭字羽根沢5119-1他	84
42 横浜市道2号線No 6 - I 遺跡 南太田4丁目 30 横浜市緑区 43 稲ヶ原遺跡A地点 さつきが丘8の3番地外 90 44 大熊第5遺跡 大熊町924他 96 藤沢市No322遺跡 藤沢市No431遺跡 白旗3-2580-2他 10 45 大熊第4遺跡 大熊町907他 宿根南遺跡 宿根南遺跡 長津田町字住撰 161 月205番地 118 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118					1000			103
横浜市緑区 43 稲ヶ原遺跡 A 地点 さつきが丘8の3番地外 90 44 大熊第 5 遺跡 大熊町924他 9 45 大熊第 4 遺跡 大熊町907他 10 46 宿根南遺跡 東本郷6丁目1193-1他 161 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 18 94								58
43 稲ヶ原遺跡 A 地点 さつきが丘8の3番地外 90 44 大熊第 5 遺跡 大熊町924他 9 45 大熊第 4 遺跡 大熊町907他 10 46 宿根南遺跡 東本郷6丁目1193-1他 161 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118 95 藤沢市No322遺跡 月田字御手洗水738他 1 96 藤沢市No431遺跡 石川205番地 1 98 月田島居前遺跡 月田655他 2 小田原市			IIIIWIII II					210
44 大熊第 5 遺跡 大熊町924他 9 6 9 9 6 0 <td>1975年</td> <td>和と国場所 Λ W F</td> <td>インチがこのの3米世出</td> <td>00</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td>	1975年	和と国場所 Λ W F	インチがこのの3米世出	00	1			
45 大熊第4遺跡 大熊町907他 10 97 南鍛冶山遺跡 石川205番地 1 46 宿根南遺跡 東本郷6丁目1193-1他 161 98 用田鳥居前遺跡 用田655他 2 47 長津田町字住撰 118 小田原市								165
46 宿根南遺跡 東本郷6丁目1193-1他 161 98 用田鳥居前遺跡 用田655他 2 47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118 小田原市				- 22				182
47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118 小田原市					(0)			113
47 長津田遺跡群住撰遺跡 長津田町字住撰 118 小田原市				161	98	用田鳥居前遺跡	用田655他	202
	47	長津田遺跡群住撰遺跡	長津田町字住撰	118				Real Property
30		長津田遺跡群宮之前遺跡	長津田町字宮ノ前	162	99	御組長屋遺跡	南町1丁目	194

No.	遺跡名	所在地	文献Na	No.	遺跡名	所在地	.oN/舖文
	久野一本松遺跡	久野1282他	203	161	三ノ宮·下谷戸遺跡 (No14)	三ノ宮字下谷戸1100他	185
101	久野丘陵	久野1267	54	162	下北原遺跡	日向字下北原	20
102	久野諏訪ノ原清掃工場建設予定地遺跡	久野諏訪ノ原3768	32	163	咳止橋遺跡	上粕屋字咳止橋	154
103	森上遺跡第Ⅰ地点	久野字森上1654番地7他	146	164	田中·万代遺跡	田中字万代431-1他	195
茅ヶ			134 80		坪ノ内·宮ノ前遺跡 (No17)	坪ノ内字宮ノ前87他	186
	臼久保遺跡	芹沢字臼久保4222他	166		長竹遺跡	西富岡982-5外	94
	遠藤貝塚(西部217地点)		98		No160遺跡	西富岡11・73~80	187
	芹沢配水池関連遺跡群大島仲ノ谷遺跡		133		日向南新田遺跡	日向字南新田469他	60
逗子			100	海老	名市	日刊于出初 田刊3 医	00
	池子遺跡群No 1-A地点	池子	167		上浜田遺跡	大谷字上打越他	22
	池子遺跡群No 1 - A東地点		168		望地遺跡	望地1丁目4-2番地他	155 · 172
	池子遺跡群Na 1-B地点	池子	104	座間		主地1 日4-2 田地地	100-112
	池子遺跡群No.1-C地点	池子	120			栗原3029-1番地	10
					・	未以3029-1省地	40
	池子遺跡群Na 6 地点	池子	134			要压 1051至 11 11	2
	池子遺跡群No 7 地点東地区		134		中原·加知久保遺跡	栗原4274番地他	51
	桜山うつき野遺跡	桜山8丁目2038他	213		山ノ上遺跡		73
相模					柄市		
	相原八幡前遺跡	相原4-176-1他	205		塚田遺跡		173
	東原遺跡	当麻1358番地他	92	綾瀬			
116	勝坂遺跡	磯部字勝坂1667-1他	33·34· 104·121	176	早川天神森遺跡	早川字天神森655-5他	45
117	上中丸遺跡	下溝字上中丸406他	106		宮久保遺跡	早川字新堀淵2031番地他	61
118	相模原市No76遺跡	古淵4	169	178	吉岡遺跡群 A地点	吉岡字蟹ヶ谷858他	139
	塩田遺跡	田名字下塩田	21		吉岡遺跡群 B地点	吉岡字蟹ヶ谷887他	139
	下中丸遺跡 (A地区)	下溝字下中丸661他	93	大磯			
	下溝上谷開戸遺跡	下溝1266-1	147		石神台遺跡		95
	下溝鳩川遺跡	下溝字溝開戸737-1他	107		大磯小学校遺跡	東小磯3番地	16
100000000	新戸遺跡	新戸2607番2他	67		城山遺跡	西小磯	41.55
	当麻遺跡	田名ヶ谷1045他	17	中井		四八八次	41 00
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	当麻亀ノ甲・西原遺跡	当麻490-2ほか	205		東向遺跡 (No33)	境字東向1620-1他	156
	田名花ヶ谷戸遺跡		100000000000000000000000000000000000000				
		田名花ヶ谷戸10456-1他	99		松本大久保台遺跡	松本字大久保台	174
	四ッ谷、作ノ口遺跡	上溝4392他	68	大井		140 th = 15000 1 ft	1.10
三浦		一林町上個件点司王1001 1世	014		矢頭遺跡 (No.35)	柳字下矢頭396-1他	140
	油壺遺跡	三崎町小網代字戸張1201-1他		山北		144 D m	10
	間口東洞穴	南下浦町松輪	135		尾崎遺跡	神尾田	18
秦野		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1.10	愛川		West days a Change William	
	今泉峰遺跡	秦野市今泉877番地	148		臼ケ谷遺跡	半原字臼ケ谷3831番地2	215
	今泉峰台遺跡	今泉953番地	148		半原屈中原遺跡	半原5371-1他	188
	今泉向原遺跡	今泉822番地	148		半原向原遺跡	5434他	196
	寺山金目原遺跡	寺山字金目原11番	183	清川			
	小南遺跡(No28)	南矢名字小南上2155-1他	136		煤ケ谷原遺跡	煤ケ谷2251番4他	80
135	下大槻峯遺跡(No30)	下大槻664他	137	191	宮ケ瀬遺跡群馬場(Na3)遺跡	宮が瀬字馬場1447他	124
136	砂田台遺跡	南矢名165-1	71	192	宮ヶ瀬遺跡群上原 (No 13) 遺跡	宮ヶ瀬字大和台900他	141
137	曾屋吹上遺跡	曽谷字浄屋682番	216	193	宮ヶ瀬遺跡群上村 (No1) 遺跡	宮ヶ瀬字上村66他	81
138	秦野市No143地点	渋沢町486-1他	72	194	宮ヶ瀬遺跡群表の屋敷 (No.8) 遺跡	宮ヶ瀬字馬場1370他	142
139	秦野市No19寺山遺跡	寺山485番地外	122		宮ヶ瀬遺跡群北原 (No 9) 遺跡		109
140	波多野城址		85		宮ヶ瀬遺跡群北原 (No 11) 遺跡		109
	平沢同明遺跡	平沢1168番地	6.38		宮ヶ瀬遺跡群北原 (No 10・11 北) 遺跡		157
厚木			000		宮ヶ瀬遺跡群久保ノ坂(No4)遺跡		158
	御屋敷添遺跡	愛甲275-5外	149-152		宮ヶ瀬遺跡群馬場(No6)遺跡		116.175
	恩名沖原遺跡	恩名字沖原1582-3他	184		宮ヶ瀬遺跡群馬場(Na7)遺跡		143
100000000000000000000000000000000000000			104	1 400		I NOOT WAS AND TOOM IR	140
			151			宣ヶ瀬空里提1500州	125
1/15	下荻野山中遺跡	下荻野字山中249-5番地外	151	201	宮ヶ瀬遺跡群南 (Na2) 遺跡	宮ヶ瀬字馬場1500他	125
	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神	152	201 城山	宮ヶ瀬遺跡群南 (Na 2) 遺跡 町		
146	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡	下荻野字山中249-5番地外		201 城山 202	宮ヶ瀬遺跡群南 (No.2) 遺跡 町 風間遺跡	川尻字風間5294他	216
146 大和	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他	152 108	201 城山 202 203	宮ヶ瀬遺跡群南(No2)遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他	216 %·176·189
146 大和 147	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡)	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2	152 108 79·114·138	201 城山 202 203 204	宮ヶ瀬遺跡群南(No2)遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1	216 %·1%·189 190
大和 147 148	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相/原遺跡第V地点 (No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他	152 108 79·114·138 86	201 城山 202 203 204 205	宮ヶ瀬遺跡群南(No2)遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他	216 %·176·189
大和 147 148 149	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点 (No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地	152 108 79·114·138 86 26	201 城山 202 203 204 205 津久	宮ヶ瀬遺跡群南(No2)遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他	216 %·1%·189 190 126
大和 147 148 149 150	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1	79·114·138 86 26 100	201 城山 202 203 204 205 津久 206	宮ヶ瀬遺跡群南(No2)遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青根上野田遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他	216 %·1%·189 190 126
大和 147 148 149 150 151	下获野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9	79·114·138 86 26 100 69	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207	宮ヶ瀬遺跡群南 (No2) 遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青根上野田遺跡 青野原ババス関連遺跡群明日庭遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他	216 %·1%·189 190 126 110 117
大和 147 148 149 150 151 152	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目	79·114·138 86 26 100 69 50	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208	宮ヶ瀬遺跡群南 (No2) 遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青根上野田遺跡 青野原バイバス関連遺跡群用田庭遺跡 青野原バイバス関連遺跡群大地開戸遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他 青野原字大地開戸3284他	216 %·1%·189 190 126 110 117 117
146 大和 147 148 149 150 151 152 153	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大和市No 2 地点遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9	79·114·138 86 26 100 69	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209	宮ヶ瀬遺跡群南 (No2) 遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青根上野田遺跡 青野原バイバス関連遺跡群用田庭遺跡 青野原バイバス関連遺跡群大地開戸遺跡 青山開戸遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他	216 %·1%·180 190 126 110 117 117 144
大和 147 148 149 150 151 152	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大和市No 2 地点遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目 下鶴間2563	79·114·138 86 26 100 69 50	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209	宮ヶ瀬遺跡群南 (No2) 遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青根上野田遺跡 青野原バイバス関連遺跡群用田庭遺跡 青野原バイバス関連遺跡群大地開戸遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他 青野原字大地開戸3284他	216 %·1%·189 190 126 110 117 117
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大和市No 2 地点遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目	79·114·138 86 26 100 69 50	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211	宮ヶ瀬遺跡群南 (No.2)遺跡 町 風間遺跡 ※ 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青野原ババス関連遺跡群明日庭遺跡 青野原ババス関連遺跡群 サル関戸遺跡 青町開戸遺跡 県営三ケ木団地内遺跡 道志導水路関連遺跡青根引山遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他	216 %·1%·180 190 126 110 117 117 144
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢	下荻野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相ノ原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大和市No 2 地点遺跡 原市	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 で書りるシ野3丁目 下鶴間2563 池端242他	79-114-138 86 26 100 69 50 39	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211	宮ヶ瀬遺跡群南 (No.2)遺跡 町 風間遺跡 ※ 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青野原ババス関連遺跡群明日庭遺跡 青野原ババス関連遺跡群中日庭遺跡 青町川戸遺跡 県営三ケ木団地内遺跡 道志導水路関連遺跡青根引山遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他	216 %·1%·189 190 126 110 117 117 144 177
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢 154 155	下获野山中遺跡 子ノ神遺跡 東谷戸遺跡 市 相/原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間甲一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 ち鶴間長堀遺跡 台黒川東岸遺跡 大和市No 2 地点遺跡 原市 池端・椿山遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目 下鶴間2563 池端242他 上粕屋369-1外	79-114-138 86 26 100 69 50 39	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211 212	宮ヶ瀬遺跡群南 (No.2)遺跡 町 風間遺跡 ※ 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青野原ババス関連遺跡群明日庭遺跡 青野原ババス関連遺跡群明日庭遺跡 青町川開戸遺跡 県営三ケ木団地内遺跡 道志導水路関連遺跡青根引山遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬波N2遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他 青根字馬渡1676-1他	216 %·16·180 190 126 110 117 117 144 177 178
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢 154 155 156	下获野山中遺跡 東谷戸遺跡 市 相/原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間半一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大面市No 2 地点遺跡 原市 池端・椿山遺跡 伊勢原上粕屋団地内遺跡 粕上原遺跡	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目 下鶴間2563 池端242他 上粕屋369-1外 東大竹字粕上原946-1他	79-114-130 86 26 100 69 50 39 214 123 170	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211 212 213	宮ヶ瀬遺跡群南 (No.2)遺跡町町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡中村遺跡 井町 青野原バイバス関連遺跡群 明日庭遺跡 青野原バイバス関連遺跡群 大地開戸遺跡 県営三ケ木団地内遺跡 道志導水路関連遺跡青根男波心 2 遺跡 直志導水路関連遺跡青根馬波心 2 遺跡 直志導水路関連遺跡青根馬波心 3 遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他 青根字馬渡1676-1他 青根字馬渡1698-1他	216 %·1%·180 190 126 110 117 117 144 177 178 178 178
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢 154 155 156 157	下获野山中遺跡 東谷戸遺跡 市 相/原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間半一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大東市 地端・椿山遺跡 伊勢原上粕屋団地内遺跡 粕上原遺跡 上粕屋・上尾崎遺跡(No10)	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目 下鶴間2563 池端242他 上粕屋369-1外 東大竹字粕上原946-1他 上粕屋字上尾崎656他	79-114-138 86 26 100 69 50 39 214 123 170 171	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211 212 213 214	宮ヶ瀬遺跡群南 (No 2) 遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青野原バイバス関連遺跡群 用田遺跡 青野原バイバス関連遺跡群大地開戸遺跡 青川開戸遺跡 直志導水路関連遺跡青根房ill遺跡 道志導水路関連遺跡青根房ikla 3 遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬渡№ 2 遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬渡№ 3 遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他 青根字馬渡1676-1他 青根字馬渡1698-1他	216 %·1%·180 190 126 110 117 117 144 177 178 178
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢 154 155 156 157 158	下获野山中遺跡 東谷戸遺跡 市 相/原遺跡第V地点(Nc207遺跡) 下鶴間平一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大面市No 2 地点遺跡 原市 池端・椿山遺跡 伊勢原上粕屋団地内遺跡 柏上原遺跡 上粕屋・上尾崎遺跡(No 10) 上粕屋・川上遺跡(No 5)	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目 下鶴間2563 池端242他 上粕屋369-1外 東大竹字粕上原946-1他 上粕屋字上尾崎656他 上粕屋字川上161他	79-114-138 86 26 100 69 50 39 214 123 170 171 153	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211 212 213 214	宮ヶ瀬遺跡群南 (No 2) 遺跡町 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青野原バイバス関連遺跡群明日庭遺跡 青野原バイバス関連遺跡群大地開戸遺跡 青山開戸遺跡 県営三ケ木団地内遺跡 直志導水路関連遺跡青根馬波№ 2 遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬波№ 2 遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬波№ 3 遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他 青根字馬渡1676-1他 青根字馬渡1698-1他 青根字馬渡1632-2他	216 %·1%·180 190 126 110 117 117 144 177 178 178 178 178
146 大和 147 148 149 150 151 152 153 伊勢 154 155 156 157 158 159	下获野山中遺跡 東谷戸遺跡 市 相/原遺跡第V地点(No207遺跡) 下鶴間半一号遺跡 下鶴間浅間社遺跡 下鶴間長堀遺跡 台山遺跡 目黒川東岸遺跡 大東市 地端・椿山遺跡 伊勢原上粕屋団地内遺跡 粕上原遺跡 上粕屋・上尾崎遺跡(No10)	下荻野字山中249-5番地外 戸室字子ノ神 上荻野430番地他 つきみ野3-28-2 下鶴間甲一号100-1他 つきみ野8丁目14番地 下鶴間2839-1 下鶴間乙三号2047-9 つきみ野3丁目 下鶴間2563 池端242他 上粕屋369-1外 東大竹字粕上原946-1他 上粕屋字上尾崎656他 上粕屋字川上161他	79-114-138 86 26 100 69 50 39 214 123 170 171	201 城山 202 203 204 205 津久 206 207 208 209 210 211 212 213 214 相模 215	宮ヶ瀬遺跡群南 (No 2) 遺跡 町 風間遺跡 川尻遺跡※ 川尻石器時代遺跡 中村遺跡 井町 青野原バイバス関連遺跡群 用田遺跡 青野原バイバス関連遺跡群大地開戸遺跡 青川開戸遺跡 直志導水路関連遺跡青根房ill遺跡 道志導水路関連遺跡青根房ikla 3 遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬渡№ 2 遺跡 道志導水路関連遺跡青根馬渡№ 3 遺跡	川尻字風間5294他 川尻字谷ヶ原792-2他 川尻小字谷ヶ原769-1 向原2丁目1225-1他 青根字上野田1770他 青野原字明日庭3150他 青野原字大地開戸3284他 青山3179-3 青根字上野1729-7他 青根字馬渡1676-1他 青根字馬渡1698-1他	216 %·1%·180 190 126 110 117 117 144 177 178 178 178

神奈川県における縄文時代文化の変遷 「

文献目録(文献Noは表中文献Noと一致)

- 1 1960 吉田格『横浜市称名寺貝塚』
- 寺村光晴『蟹ケ澤 鈴鹿遺跡 座間における1962・64年の考古学的調査 』神奈川県座間町文化財調査報告 第二集 座間町 2 1966 文化財保護委員会
- 3 1967 伊東秀吉ほか『川崎市末長遺跡発掘調査報告』川崎市教育委員会
- 4 1996 秋田かな子『東海大学校地内遺跡調査団報告』 6 東海大学校地内遺跡調査団
- 5 1969 杉山博久ほか「神奈川県秦野市平沢同明遺跡の調査」『古代』第52号
- 井上義弘「横浜市金沢区富岡町長昌寺前横穴群発掘調査報告、横浜市神奈川区菅町日向根遺跡発掘調査報告」「昭和46年度 横浜 6 1971 市埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 伊藤郭ほか「早淵川南岸地域における埋蔵文化財の予備調査」『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化財調査報告 (I)』 7 1971 横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 坂上克弘ほか「早淵川北岸地域および周辺地域における埋蔵文化財の予備調査」 『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化 8 1971 財調查報告Ⅱ』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 坂上京弘ほか「早淵川北岸地域および周辺地域における埋蔵文化財の予備調査| 『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化財 9 1971 調査報告Ⅱ』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 10 1971 伊藤郭ほか「早淵川南岸地域における埋蔵文化財の予備調査」 『昭和45年度 港北区ニュータウン地域内文化財調査報告 (I)』 横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 赤星直忠ほか『横浜市室ノ木遺跡』横須賀考古学会 11 1973
- 坂本彰ほか『東方第7遺跡・東方第9遺跡・池辺第4遺跡・荏田第10遺跡』港北ニュータウン地域内文化財調査報告 Ⅳ 港 12 1973 北ニュータウン埋蔵文化財調査団
- 伊東秀吉ほか「川崎市多摩区高石字弦巻遺跡発掘調査報告」川崎市文化財調査集録 第10集 川崎市教育委員会 13 1975
- 川上久夫ほか『港南台横浜市港南台土地区画整理事業に伴う調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 9 神奈川県教育委員会 14 1976
- 持田春吉ほか『西菅遺跡第三地点発掘調査報告』日本住宅公団西菅地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査 日本住宅公 15 1976 団首都圏宅地開発本部
- 16 1976
- 17 1977 県教育委員会
- 岡本孝之ほか『尾崎遺跡 酒匂川総合開発事業にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 13 神奈川県教育委員会 小島弘義ほか『上ノ入A遺跡発掘調査報告』平塚市博物館資料 No10 平塚市博物館 18 1977
- 19 1978
- 鈴木保彦ほか『下北原遺跡 伊勢原市下北原所在の縄文時代配石遺構の調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 14 神奈川県教 20 1978 育委員会
- 21 1979 青木豊ほか『下塩田遺跡』下塩田遺跡調査団
- 22 1979 國平健三ほか『上浜田遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告 15 神奈川県教育委員会
- 23 1980 平子順一ほか『昭和55年度 長尾台遺跡調査報告書』文化財シリーズ 55-2 横浜市教育委員会
- 24 1980 石井寛ほか『折本西原遺跡第2次・3次調査 横浜市都市計画道路新横浜元石川線 折本地区埋蔵文化財発掘調査報告書』横浜 市埋蔵文化財調査委員会
- 岡田威夫ほか『横浜市道高速2号線埋蔵文化財試掘報告書』横浜市道高速2号線埋蔵文化財試掘調査団 25 1980
- 伊東秀吉ほか『大和市文化財調査報告書』第4集 大和市教育委員会 26 1980
- 須山幸雄ほか『藪根不動原遺跡発掘調査報告』市立都田西小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 横浜市埋蔵文化財調査委 27 1981 員会
- 白石浩之ほか『細田遺跡県立汲沢高等学校建設にともなう調査』神奈川県埋蔵文化財調査報告 23 神奈川県教育委員会 28 1981
- 佐々木藤雄ほか『帷子峯遺跡 横浜新道三ツ沢ジャンクション建設予定地内遺跡第1次発掘調査報告書』横浜新道三ツ沢ジャ 29 1981 ンクション遺跡試掘調査団/横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡調査会
- 岡田威夫ほか『横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘調査報告書 No 6 遺跡-I 1980年度』横浜市道高速2号線埋蔵文化財発掘 調查団
- 寺田兼方ほか『西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書 (1977~1980)』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団 31 1981
- 山内昭二『小田原市久野諏訪ノ原清掃工場建設予定地遺跡発掘調査報告書』小田原市文化財調査報告書 第11集 小田原市教 32 1981 育委員会
- 33 1981 江藤昭ほか『勝坂遺跡範囲確認緊急調査報告書』勝坂遺跡第21次発掘調査団
- 青木豊ほか『勝坂遺跡』相模原市教育委員会 34 1981
- 35 1982 高杉博章ほか『横浜市上倉田遺跡』高杉博章/明治学院大学上倉田遺跡調査団
- 岡本勇『常盤台遺跡 横浜国立大学構内における埋蔵文化財発掘調査の概報』横浜国立大学 36 1982
- 竹石健二ほか『川崎市高津区菅生水沢遺跡発掘調査報告書 川崎市中央卸売市場北部市場建設に伴う調査』竹石健二/日本大 37 1982 学文理学部史学研究室
- 杉山博久ほか『秦野市同明遺跡』秦野市教育委員会 38 1982
- 39 1982
- 和田薫ほか『大和市文化財調査報告書』第10集 大和市教育委員会 金子皓彦ほか『上栗原D遺跡調査報告書』座間市文化財調査報告書 第8集 座間市教育委員会 40 1982
- 41 1982 鈴木一男『城山・北ノ端 中堰・坊地 大磯町における沖積段丘上の遺跡発掘調査報告書』大磯町文化財調査報告書 第23集 大 磯町教育委員会
- 42 1982 田中悟道『寸嵐一号遺跡調査報告書』相模湖町教育委員会

- 42 1982 田中语道「り風」「夕通沙剛日報行音』 相模の叫教育委員会 43 1983 倉沢和予信か『三の丸遺跡発掘調査報告書』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 VI 横浜市埋蔵文化財調査委員会 44 1983 増予章二ほか『新作小高台遺跡発掘調査報告書 本編・論考編』川崎市教育委員会 45 1983 岡本孝之ほか『早川天神森遺跡 都市計画道路早川本蓼川線建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 2 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 國平健三『小池遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 7 神奈川県立埋蔵文化財センター 岡本勇ほか『称名寺 I 貝塚発掘調査報告』称名寺貝塚発掘調査団/横浜市埋蔵文化財調査委員会 46 1984
- 47 1984
- 佐々木藤雄ほか『帷子峯遺跡 横浜新道三ツ沢ジャンクション建設予定地区遺跡発掘調査報告書』横浜新道三ツ沢ジャンクシ ョン遺跡調査団/同調査会
- 中村康二郎ほか『相模岡崎城跡 遺跡詳細分布確認調査概要報告書』平塚市教育委員会
- 村澤正弘『大和市文化財調査報告書』第16集 大和市教育委員会 50 1984
- 金子皓彦・浅野寛『中原・加知久保遺跡発掘調査報告書』座間市文化財調査報告書 第10集 座間市教育委員会/中原・加知 久保遺跡調査会
- 石井寛ほか『水窪遺跡 茅ケ崎町遺跡群』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 W 港北ニュータウン埋蔵文化財調 52 1985 查団/横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 53 1985 永井正憲『関谷島ノ神西遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
- 田尾誠敏ほか『久野丘陵詳細分布調査報告書』小田原市文化財調査報告書 第17集 小田原市教育委員会 54 1985
- 55 1985 鈴木一男『城山遺跡Ⅱ』大磯町文化財調査報告書 第26集 大磯町教育委員会
- 56 1986 重久淳一ほか「No11地点 受地だいやま遺跡」 『奈良地区遺跡群 I 発掘調査報告』 奈良地区遺跡調査団

縄文時代研究プロジェクトチーム

- 57 1986 山本暉久ほか『東耕地遺跡 県立みどり養護学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 14 神奈川 県立埋蔵文化財センター
- 58 1986 上田薫ほか『代官山遺跡 県立長後高等学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 11 神奈川県立 埋蔵文化財センタ
- 青地俊郎ほか『日向岡遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ 5 平塚市教育委員会 59 1987
- 服部実喜ほか『日向南新田遺跡 神奈川能力開発センター建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 16 60 1987 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 長岡文紀『宮久保遺跡 I 県立綾瀬西高等学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 15 神奈川県 立埋蔵文化財センター
- 山本暉久ほか『金沢文庫遺跡 県立金沢文庫新築予定地内遺跡 (国指定史跡「称名寺境内」) の調査』神奈川県立埋蔵文化財セ ンター調査報告 19 神奈川県立埋蔵文化財センタ
- 中村若枝『公団篠原団地内貝塚資料 横浜市港北区』中村若枝
- 橋本昌幸『市営菅田住宅地内遺跡発掘調査報告 市営菅田住宅建替に伴う埋蔵文化財調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員
- 林原利明ほか『西之谷大谷遺跡 東洋英和女学院横浜校地造成にかかる発掘調査概要報告書』相武考古学研究所
- 青地俊郎『昭和61年度発掘調査 高林寺遺跡ほか8ヶ所』平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書 1 平塚市教育委員会
- 御堂島正ほか『新戸遺跡 県立新磯高校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 17 神奈川県立埋蔵 67 1988 文化財センター
- 68 1988 江藤昭ほか『四ッ谷、作ノ口遺跡』相模原市四ッ谷、作ノ口遺跡調査団
- 69 1988
- 70 1989
- 宍戸信悟ほか『砂田台遺跡 I 県立秦野精華園建替えに伴う調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 20 神奈川県立 71 1989 埋蔵文化財センタ
- 72 1989 江藤昭『秦野市No143地点』神奈川県秦野市No143遺跡調査団
- 73 1989
- 大上周三「山ノ上遺跡 I」 神奈川県文作財調査報告書 第48集 神奈川県教育庁 戸田哲也ほか『師岡打越遺跡発掘調査報告書 横浜市港北区』(仮称)大倉山マンション建設用地内遺跡発掘調査団/玉川文化 74 1990 財研究所
- 石井寛ほか『山田大塚遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XI 横浜市埋蔵文化財センター 75 1990
- 76 1990 渡辺務『横浜市緑区 松風台遺跡』日本窯業史研究所 77 1990 秋田かな子『真田大原遺跡』東海大学校地内遺跡調査団
- 78 1990
- 青地俊郎『山王久保遺跡 岡崎76号線道路建設に伴う発掘調査』平塚市埋蔵文化財シリーズ 17 平塚市西田泰民ほか『月見野遺跡群相ノ原遺跡』大和市文化財調査報告書 第38集 大和市教育委員会 79 1990
- 80 1990
- 近藤英夫『煤ケ谷原遺跡』煤ケ谷原遺跡発掘調査団 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群 I 上村遺跡・半原向原遺跡 宮ケ瀬ダム建設に伴う発掘調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調 81 1990 春報告 21 神奈川県立埋蔵文化財センター 秋田かな子「王子ノ台遺跡」 東海大学校地内遺跡調査団報告 2 東海大学校地内遺跡調査団 寺田兼方ほか「西部209地点遺跡」『西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団 寺田兼方ほか「西部225地点遺跡」『西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
- 82 1991
- 83 1991
- 84 1991
- 石丸熙『波多野城址発掘調査報告書 第一次調査から第七次調査までの記録』秦野の文化財 第27集 秦野市教育委員会 高杉博章『下鶴間甲一号遺跡』下鶴間甲一号遺跡調査団 85 1991
- 86 1991
- 呉地英夫ほか『中村宮ノ谷遺跡発掘調査報告書 横浜市泉区』中村宮ノ谷遺跡発掘調査団/相模鉄道(株) 87 1992
- 88 1992
- 坂上克弘ほか『上の山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XII 横浜市埋蔵文化財センター 岡本勇ほか『仏向遺跡 横浜市保土ケ谷区所在の縄文時代遺跡』(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 89 1992
- 平子順一ほか『稲ヶ原遺跡A地点 発掘調査報告ー横浜市さつきが丘小学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告ー』財団法人横浜 90 1992 ふるさと歴史財団
- 91 1992 長岡文紀『向原遺跡Ⅱ (3次) 県企業庁平塚配水池建設に伴う平塚市上吉沢所在遺跡の調査』神奈川県立埋蔵文化財センタ -調査報告 25 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 三ツ橋勝『神奈川県相模原市東原遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会 92 1992
- 93 1992 岡本勇ほか『神奈川県相模原市下中丸遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
- 高杉博章ほか『神奈川県伊勢原市 長竹遺跡 一般県道上粕屋厚木線交通安全施設等整備工事にともなう調査』上粕屋厚木線 94 1992 発掘調査団
- 95 1992 鈴木一男『石神台』大磯町教育委員会
- 御堂島正ほか『川尻遺跡 県道相模原津久井線川尻バイパス建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 23 96 1992 神奈川県立埋蔵文化財センタ
- 石井寛『牛ケ谷遺跡・華蔵台南遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XV (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文 97 1993 化財センター
- 98 1993
- 99 1993
- 寺田兼方ほか『遠藤貝塚(西部217地点)』藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団 滝澤亮ほか『田名塩田原地区遺跡群 田名花ヶ谷戸遺跡』田名塩田原地区埋蔵文化財調査団 相田薫ほか『下鶴間長堀遺跡第2地点』大和市文化財調査報告書 第57集 大和市教育委員会 100 1993
- 野内秀明『田戸遺跡 海上自衛隊2号宿舎建設に伴う事前調査』横須賀市埋蔵文化財調査報告書 第4集 横須賀市教育委員 101 1994
- 田尾誠敏『大久保遺跡』『東海大学校地内遺跡調査団報告』 4 東海大学校地内遺跡調査団 102 1994
- 103 1994 戸田哲也ほか『善行遺跡発掘調査報告書』善行遺跡調査団
- 山本暉久ほか『池子遺跡群I Na 2 地点・Na 1 B 地点 池子米軍家族住宅建設に伴う調査』神奈川県立埋蔵文化財センター 104 1994 調査報告 27 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 土井永好『勝坂遺跡の調査~その回顧と展望~』相模原市教育委員会 105 1994
- 岡本勇ほか『神奈川県相模原市上中丸遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会 106 1994
- 戸田哲也ほか『下溝鳩川遺跡発掘調査報告書』下溝鳩川遺跡調査団 107 1994
- 108 1994 迫和幸ほか『神奈川県厚木市東谷戸遺跡発掘調査報告書』上荻野東部土地区画整理事業区域内遺跡発掘調査団
- 109 1994 市川正史ほか『宮ケ瀬遺跡群 IV 北原(Na 9)遺跡 (2)、北原(Na11)遺跡 宮ケ瀬ダム建設に伴う発掘調査』神奈川県立埋蔵 文化財センター調査報告 21 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 河野喜映ほか『青根上野田遺跡 国道413号線青根バイパス搬入路建設に伴う調査』かながわ考古学財団調査報告 2 (財) かながわ考古学財団
- 111 1995 石井寛『川和向原遺跡 原出口遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XIV (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化
- 112 1995 坂本彰ほか『花見山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XIV (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
- 113 1995 小林謙一ほか『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書』藤沢市教育委員会
- 114 1995 滝澤亮ほか「月見野遺跡群相ノ原遺跡第V地点」『大和市文化財調査報告書』第61集 大和市教育委員会
- 115 1995 小林義典ほか『神奈川県伊勢原市 神成松遺跡発掘調査報告書』神成松遺跡発掘調査団

神奈川県における縄文時代文化の変遷™

- 116 1995 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群V 馬場 (No 6) 遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 4 (財)かながわ考古学財団
- 117 1995 井澤純ほか「明日庭遺跡・大地開戸遺跡」『青野原バイパス関連遺跡 国道413号線青野原バイパス建設に伴う調査』かながわ 考古学財団調査報告 5 (財)かながわ考古学財団
- 井澤純ほか『長津田遺跡群Ⅱ 住撰遺跡 長津田地区特定土地区画整理事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 12 118 1996 (財)かながわ考古学財団
- 碓井三子ほか『川崎市高津区 薬師院裏遺跡 発掘調査報告書』薬師院裏遺跡発掘調査団
- 桝渕規彰ほか『池子遺跡群Ⅲ No 1 C 地点 (1) 池子米軍家族住宅建設にともなう調査』かながわ考古学財団調査報告 11 (財)かながわ考古学財団
- 吉田寿ほか『勝坂遺跡第47次調査』相模原市市道磯部30号ほか1道路改良事業地内遺跡調査団
- 122 1996 後藤喜八郎『秦野市No19寺山遺跡発掘調査報告書』No19寺山遺跡発掘調査団
- 123 1996 高杉博章ほか『神奈川県伊勢原市 伊勢原上粕屋団地内遺跡』伊勢原上粕屋団地内遺跡調査団
- 富永樹之『宮ケ瀬遺跡群 W 馬場(No 3)遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 ※ (財) 124 1996 かながわ考古学財団
- 125 1996 近野正幸ほか『宮ケ瀬遺跡群Ⅲ 南 (Na 2) 遺跡・馬場 (Na 5) 遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財 団調査報告 10 (財)かながわ考古学財団
- 吉田浩明ほか『神奈川県城山町 中村遺跡発掘調査報告書』城山町№6遺跡発掘調査団 126 1996
- 127 1997
- 128 1997 蔵文化財発掘調査報告書』(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
- 小宮恒雄『能見堂遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告22 (財) 横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 129 1997
- 碓井三子ほか「宮添遺跡・No10遺跡 (縄文編)」『川崎市麻生区 黒川地区遺跡群報告書』 W 黒川地区遺跡調査団 130 1997
- 玉口時雄ほか『吉井・池田地区遺跡群 I 吉井池田土地区画整理事業に伴う調査報告書 三足谷遺跡・青池遺跡・上吉井北遺跡・上吉井南遺跡・西谷遺跡・No33地点』吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団 131 1997
- 田尾誠敏『水尻遺跡』東海大学校地内遺跡調査団 132 1997
- 所部友寿ほか 『芹沢配水池関連遺跡群 行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木坂遺跡 芹沢配水池送水管埋設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 28 (財)かながわ考古学財団 133 1997
- う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 28 (財)かながわ考古学財団 山本暉久ほか『池子遺跡群 W No 6 地点・No 7 地点東地区・No 7 地点西地区・No15地点・No16地点・No17地点・No18地点 池子 米軍家族住宅建設にともなう調査』かながわ考古学財団調査報告 26 (財)かながわ考古学財団 川上久夫/野内秀明/剱持輝久/木暮慶明『神奈川県三浦市松輪 間口東洞穴遺跡ー急傾斜防災工事にともなう緊急調査ー』松 134 1997
- 135 1997 輪間口東海触洞穴遺跡調査団
- 村上吉正ほか『小南遺跡 (No28) ・東北久保・鳥居松遺跡 (No.29) 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査 136 1997
- 報告 1 秦野市内』かながわ考古学財団調査報告 23 (財)かながわ考古学財団 表上周三ほか『下大槻峯遺跡(No30)I 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告 2 秦野市内』かなが お考古学財団調査報告 24 (財)かながわ考古学財団 村澤正弘ほか『相ノ原遺跡第V地点第4次調査(大和市No207遺跡) 大和市文化財調査報告書 第65集 大和市教育委員会 137 1997
- 138 1997
- 砂田佳弘ほか『吉岡遺跡群Ⅲ 旧石器時代2 B 2 · L 2層の石器文化・縄文時代1 早期~後期 綾瀬浄水場建設にともなう発掘 139 1997 調査』かながわ考古学財団調査報告 20 (財)かながわ考古学財団
- 西川修一ほか『宮畑 (No34) 遺跡・矢頭 (No35) 遺跡・大久保 (No36) 遺跡 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に 140 1997 作う調査報告 3 大井町内』かながわ考古学財団調査報告 25 (財)かながわ考古学財団 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群 XII 上原 (No13) 遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 18
- 141 1997 (財)かながわ考古学財団
- 142 1997 近野正幸ほか『宮ケ瀬遺跡群 XII 第2分冊 縄文時代終末~弥生時代・縄文時代・付編 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』か 近野正学はか『宮ヶ瀬遺跡研究』第2分間編文時代終末でが至時代・編文時代・門編『宮ヶ瀬ヶ公建設にともなり発掘調査』がながわ考古学財団調査報告 19 (財)かながわ考古学財団 市川正史ほか『宮ヶ瀬遺跡群 XI 馬場(No.7)遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 17
- 143 1997 (財)かながわ考古学財団 服部実喜ほか『青山開戸遺跡 宮ケ瀬ダム・津久井導水路管理用道路建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 144 1997
- (財)かながわ考古学財団 伊丹徹ほか『長津田遺跡群IV 宮之前遺跡 長津田地区特定土地区画整理事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告
- (財)かながわ考古学財団
- 小林義典『神奈川県小田原市 森上遺跡第Ⅰ·Ⅱ·Ⅲ地点発掘調査報告書』小田原市No114遺跡発掘調査団
- 滝澤亮ほか『下溝上谷開戸遺跡』相模原市下溝上谷開戸 147 1998
- 増田精一『今泉遺跡 秦野市今泉台特定土地区画整理事業に伴う今泉地区遺跡群発掘調査報告書』今泉地区遺跡群発掘調査団 相原俊夫ほか『神奈川県厚木市 御屋敷添遺跡第1地点発掘調査報告書』愛甲御屋敷添遺跡発掘調査団
- 149 1998
- 西川修一ほか『御屋敷添遺跡第3 地点 (No 1) · 第4 地点 (No 2) · 第5 地点 (No44) · 高森・一ノ崎遺跡 (No37) 、高森・窪 150 1998 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告7厚木・伊勢原市内』かながわ考古学財団調査 谷遺跡 (Na 3) 報告 33 (財)かながわ考古学財団
- 香村紘一『下荻野山中遺跡 神奈川県厚木市一般国道412号本厚木・上荻野バイパス事業に伴う発掘調査報告書』IX 国道412 151 1998 号線遺跡発掘調査団
- 152 1998 山田不二郎ほか『子ノ神 (Ⅳ) 厚木市戸室所在子ノ神遺跡の調査』厚木市教育委員会
- テ戸信悟ほか『東宮岡・杉戸遺跡 (No 8) ・東宮岡・北三間遺跡 (No 4) ・上粕屋・川上遺跡 (No 5・6)・上粕屋・三本松遺跡 (No 7)・上粕屋・川上西遺跡 (No 8) 第一東海自動車道 (東名高速道路) 厚木〜大井松田間拡幅工事に伴う調査 8 伊 153 1998
- 高杉博章『神奈川県伊勢原市 咳止橋遺跡県道63号(相模原大磯線)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』伊勢原市No128 154 1998 遺跡調查団
- 伊東秀吉/碓井三子/長澤邦夫/相川薫/笹浪真理子/小林克利/守屋照代『神奈川県海老名市 望地遺跡-第4次調査- 国分尼寺北方遺跡-第12次調査-発掘報告書』望地遺跡発掘調査団/国分尼寺北方遺跡調査団/海老名市遺跡調査会 155 1998
- 村上吉正ほか『東向遺跡 (No33) 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告5 中井町内』かながわ考古 156 1998 学財団調査報告 31 (財)かながわ考古学財団
- 157 1998 市川正史ほか『宮ケ瀬遺跡群 XV 北原(No10・11北)遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 (財)かながわ考古学財団
- 恩田勇ほか『宮ケ瀬遺跡群 X VI 久保ノ坂(No 4)遺跡 宮ケ瀬ダム建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 42 158 1998 (財)かながわ考古学財団
- 159 1998 吉田浩明ほか『寸嵐二号遺跡発掘調査報告書』相模湖町No 6 遺跡発掘調査団
- 石井寛『小丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 25 (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター中山豊ほか『宿根南遺跡発掘調査報告書』宿根南遺跡発掘調査団 160 1999
- 161 1999
- 伊丹徹ほか『長津田遺跡群V 宮之前遺跡 長津田地区特定土地区画整理事業に伴なう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 162 1999 58 (財)かながわ考古学財団
- 163 1999 野内秀明ほか『吉井城山神奈川県指定史跡「吉井貝塚を中心とした遺跡」史跡整備事業に伴う確認調査の記録』横須賀市埋蔵 文化財調查報告書 第34集 横須賀市教育委員会

縄文時代研究プロジェクトチーム

- 164 1999 後藤喜八郎『平塚市No86根岸B遺跡発掘調査報告書』平塚市No86根岸B遺跡発掘調査団
- 165 1999 中村哲也『藤沢市No322遺跡発掘調査報告書』藤沢市No322遺跡発掘調査団
- 166 1999 松田光太郎ほか『臼久保遺跡 芹沢配水池建設にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 60 (財)かながわ考古学 財団
- 167 1999 山本暉久ほか『池子遺跡群 X № 1 - A 地点 池子米軍家族住宅建設にともなう調査』第二分冊 かながわ考古学財団調査報告 (財)かながわ考古学財団 46
- 168 1999 山本暉久ほか『池子遺跡群 IX No.1 - A 東地点・No.1 - A 南地点 池子米軍家族住宅建設にともなう調査』第一分冊 かながわ 考古学財団調査報告 45 (財)かながわ考古学財団 境雅仁『相模原市No76遺跡』相模原市遺跡調査会調査報告 1 相模原市遺跡調査会
- 169 1999
- 林原利明ほか『神奈川県伊勢原市粕上原遺跡発掘調査報告書』粕上原土地区画整理事業区域内遺跡埋蔵文化財発掘調査団 170 1999
- 宍戸信悟ほか『上粕屋・上尾崎遺跡 (No10) ・上粕屋・メ引北遺跡 (No11) ・上粕屋メ引西遺跡 (No12東) 171 1999 道(東名高速道路)厚木~大井松田間拡幅工事に伴う調査報告14 伊勢原市内』かながわ考古学財団調査報告 56 がわ考古学財団
- 172 1999 碓井三子ほか『海老名市望地遺跡-第6次調査-発掘調査報告書』望地遺跡発掘調査団
- 南足柄市郷土資料館『南足柄の縄紋時代-塚田遺跡を中心に-』郷土資料館調査報告書 第9集 南足柄市郷土資料館 高杉博章『神奈川県中井町松本大久保台遺跡』松本大久保台遺跡調査団 173 1999
- 174 1999
- 175 1999 鈴木次郎ほか『宮ケ瀬遺跡群 X W 馬場 (No 6) 遺跡 (2) ・北原 (No 9) (3) 宮ケ瀬ダム建設にともなう調査』かながわ 考古学財団調査報告 51 (財)かながわ考古学財団
- 176 1999 吉田浩明ほか『神奈川県城山町川尻遺跡(城山町No 1 遺跡)発掘調査報告書』城山町No 1 遺跡発掘調査団
- 177 1999 北平朗久ほか『県営三ケ木団地内遺跡発掘調査報告書』県営三ケ木団地内遺跡発掘調査団
- 平野裕久ほか『道志導水路関連遺跡 青根馬渡No.1・2・3・4・5遺跡・青根引山遺跡 宮ヶ瀬ダム関連事業に伴う発掘調 178 1999 香』かながわ考古学財団調査報告 59 (財)かながわ考古学財団 坂上克弘ほか『大熊仲町遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 26 (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財セ
- 179 2000
- 180 2000 浜田晋介ほか『下原遺跡 縄文時代晩期、弥生時代後期、古墳時代前期の集落址の調査』川崎市市民ミュージアム
- 181 2000 高杉博章ほか『神奈川県平塚市上吉沢市場地区遺跡群発掘調査報告』平塚市※
- 182 2000 寺田兼方ほか「藤沢市No431遺跡|『藤沢市文化財調査報告書』第35集 藤沢市教育委員会
- 霜出俊浩『秦野の文化財』第36集 183 2000
- 184 2000 迫和幸ほか『神奈川県厚木市恩名沖原遺跡発掘調査報告書』恩名沖原遺跡発掘調査団
- 宍戸信悟ほか『三ノ宮・下谷戸遺跡 (No14) Ⅱ 第一東海自動車道厚木・大井松田間拡幅工事に伴う調査報告 17 伊勢原市 185 2000
- 186 2000
- 後藤喜八郎『伊勢原市No160遺跡発掘調査報告書 県道63号(相模原大磯線)道路改良工事に伴う事前調査』伊勢原市No160遺跡 187 2000 発掘調查団
- 三瓶裕司ほか『半原屈中原遺跡 都市計画公園事業 あいかわ公園整備工事に伴う調査報告』かながわ考古学財団調査報告 95 188 2000 (財)かながわ考古学財団
- 加藤勝仁ほか『川尻遺跡Ⅱ 谷ケ原浄水場内事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 69 (財)かながわ考古学財団 189 2000
- 山本暉久ほか『国指定史跡川尻石器時代遺跡範囲確認調査報告書』神奈川県教育委員会・城山町教育委員会・(財)かながわ考 190 2000 古学財団
- 191 2001 呉地英夫『神奈川県川崎市麻生区岡上-4遺跡第2地点発掘調査報告書』岡上-4遺跡発掘調査団
- 192 2001 浜田晋介ほか『下原遺跡Ⅱ』川崎市市民ミュージアム
- 中村哲也ほか『神奈川県平塚市万田遺跡第6地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所 193 2001
- 小林義典ほか『神奈川県小田原市御組長屋遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ地点発掘調査報告書』都市計画道路小田原早川線改良工事遺 194 2001 跡発掘調査団
- 195 2001 恩田勇ほか『田中・万代遺跡 伊勢原郵便局庁舎増築その他工事に伴う調査報告』かながわ考古学財団調査報告 103 かながわ考古学財団
- 196 2001 新開基史ほか『半原向原遺跡・半原屈中原遺跡 都市計画公園事業 あいかわ公園整備工事に伴う発掘調査』かながわ考古学財 団調査報告 123 (財)かながわ考古学財団
- 小川岳人ほか『南原遺跡 県営南原団地建設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 129 (財)かながわ考古学財団 197 2002
- 中山豊ほか『横浜市保土ケ谷区南原遺跡発掘調査報告書』県営南原団地内遺跡発掘調査団 198 2002
- 199 2002 松田光太郎ほか『稲荷山貝塚 根岸米軍 (11) 法面整備工事に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 131 がわ考古学財団
- 200 2002 長岡文紀『原口遺跡Ⅲ縄文時代(第1分冊 本編1) 農業総合研究所建設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 134 (財)かながわ考古学財団
- 201 2002 大野悟ほか『万田遺跡・構之内遺跡 平成11・12年度公共下水道建設に伴う発掘調査』平塚市埋蔵文化財シリーズ 37 平塚市
- 栗原伸好ほか『用田鳥居前遺跡 県道22号 (横浜伊勢原) 線道路改良事業 (用田バイバス建設) に伴う発掘調査』かながわ考 202 2002 (財)かながわ考古学財団 古学財団調査報告 128
- 〒田哲也ほか『久野諏訪ノ原遺跡群』久野一本松・久野天野薮・久野坂下窪遺跡-市道0036号線道路改良工事に伴う埋蔵文化 財調査-』小田原文化財調査報告 第101集 小田原市教育委員会 203 2002
- 204 2002 香村紘一『相ノ原八幡前遺跡』相模原市相原地区遺跡調査団
- 大貫秀明『当麻亀ノ甲・西原遺跡』相模原市埋蔵文化財調査報告 26 相模原市教育委員会 205 2002
- 北原實徳ほか『神奈川県秦野市曽屋吹上遺跡-200102地点-』曽屋吹上遺跡発掘調査団 206 2002
- 今泉克巳ほか『神奈川県川崎市井田中原遺跡B地点』井田中原遺跡B地点発掘調査団 207 2003
- 河合英夫ほか『神奈川県平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書 4 10・15D・19~23・27・30B・31・33(A・D)区』平塚都市計画事業真田・北金目特定土地区画整理事業に伴う調査報告 都市基盤整備公団 若林勝司ほか『神奈川県平塚市 平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書 3 6 (D~K)・8 (A~D)・13・14・15 (A 208 2003
- 209 2003 ~C) ·25·28A区 第1分冊』平塚都市計画事業真田・北金目特定土地区画整理事業に伴う調査報告 都市基盤整備公団
- 寺田兼方ほか「西富貝塚(藤沢市No46遺跡)」『藤沢市文化財調査報告書』第38集 藤沢市教育委員会 210 2003
- 211 2003
- 須田英一ほか 「油壺遺跡ー個人専用住宅新築工事に伴う発掘調査ー」三浦市埋蔵文化財調査報告書 第11集 三浦市教育委員会 天野賢一ほか 『篠原大原遺跡 篠原団地 (先工区) 建て替え事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 175 (財) 212 2004 かながわ考古学財団
- 阿部友寿ほか『桜山うつき野遺跡 県道311号 (鎌倉葉山線) 道路改良事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告163 213 2004 (財)かながわ考古学財団
- 小川岳人ほか『池端・椿山遺跡 緊急地方道路整備事業(主要地方道路横浜・伊勢原線)に伴う発掘調査』かながわ考古学財 団調査報告 165 (財)かながわ考古学財団 214 2004
- 相原俊夫『神奈川県愛甲郡愛川町臼ケ谷遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所 215 2004
- 216 2005 松田光太郎ほか『風間北遺跡・風間遺跡 県道48号(鍛冶谷相模原線)緊急地方道整備事業に伴う発掘調査』かながわ考古学 財団調査報告 178 (財)かながわ考古学財団

宮ノ台式土器の研究(5)

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

前回は神奈川県内の宮ノ台式土器の段階設定基準資料について出土状態の検討、資料の一括性の検討を行ったのであるが、今回は従来の基準資料以外について、供伴事例の蓄積を目的として出土状態を検討し一括 性の確認を行った。

集成の対象は、神奈川県内の発掘調査報告書掲載資料で、竪穴住居址床面出土事例を基本として各種遺構の覆土中出土であっても遺物集中出土など複数の土器がまとまって出土している事例を含むこととした。集成の条件は、出土状況を確認できる図と説明があることを前提とし、器形がわかる実測個体が複数器種あることを条件とした。

本稿では、集成事例の中から供伴資料として良好な事例を提示する。従って、資料の時期的な偏りや対象 遺跡の分布については考慮していない。提示した事例は5遺跡10遺構である。図版は、遺物出土状況等の遺 構図と供伴事例と判断した遺物の図で遺構ごとに作成した。図の縮尺は、遺構図を1/120、遺物図を1/8で統 一した。遺物番号は新たに付け直したため、出典の各報告書とは異なっている。

事例集成および図版作成等は当財団勤務のメンバーで分担して行った。原稿執筆は分担して行い、各文末 に文責を記した。編集は伊丹が行った。 (池田 治)

1. 各住居の時期について

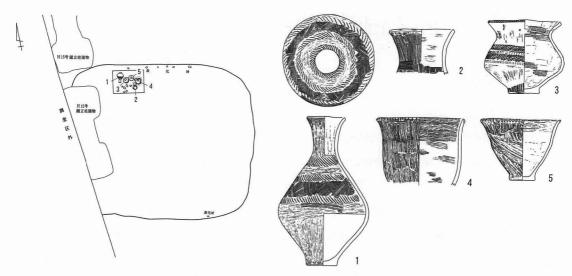
今回提示した資料は、県西部から横浜市域にかけての集落遺跡から竪穴住居址10軒を抽出した。いずれも宮ノ台式土器の中では中段階以降、従前の当弥生時代研究プロジェクトチームが提示した変遷案のうちⅢ~ V段階に属する(弥生時代研究プロジェクトチーム2001~04)。宮ノ台式の後半の様相は、壺・甕・鉢・高坏等の器種組成が確立し、全体的に無文化・簡素化し地域性が強まる傾向が指摘されている(安藤1990・91)。

壺は法量の幅が広がり、縄文帯を文様要素の基調としたものや、器面全体をハケおよびミガキで整形のみのものなど、簡素な土器が増加する。甕は台付甕がよく見られるようになり、全体をハケ整形するものが多くなる。また一部には器面にミガキを施されたものや、壺と同様に羽状縄文帯を頸部に巡らせたものも存在する。鉢は出土する量が最も少なく、器形は個体毎のばらつきが激しい。高坏はⅡ段階からみられる東海西部地域の系譜をひく鍔付のものが見られるが、鉢と同様に個体差が大きい。 (渡辺 外)

2. 遺物の出土状況

①下寺尾西方 A 遺跡 Y 1 号住居址 (第1図 井澤ほか2003)

この住居址は平面形確認のみ行い掘削調査をせずに埋設保存する予定のものであったが、精査した段階で 覆土中に完形土器が確認されたため、遺物保護の観点からその部分のみ掘削調査を実施した。このため、 炉・周溝・柱穴などの住居址内施設については詳らかでない。平面形は東西に長い、隅丸長方形を呈すると みられる。規模は5.55×4.90mを測るが、西壁付近を古代の掘立柱建物に切られ、一部は調査区外へ延びて いる。北壁際からは直立していると見られる炭化材が規則的に確認された。材の間隔は14~50cm、直径は1



第1図 下寺尾西方A遺跡Y1号住居址 〔遺構S:1/120 遺物S:1/8〕

 \sim 10cmとばらつきがある。確認状況から見て壁柱の可能性が高い。図示した 5 点の土器はいずれも北壁際の床面からまとまって出土している。 $1\cdot 3\cdot 5$ は完形である。 1 の壺は横位で、他の 4 点は口縁部を下にした倒置状態で出土した。また、 3 の広口壺には二次的な強い被熱痕がある。

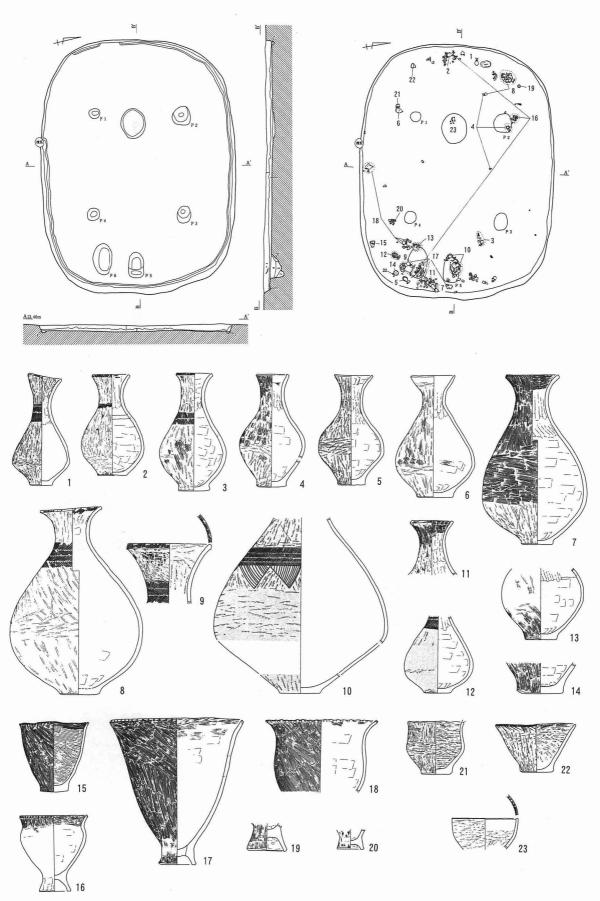
これらの点から、この住居址は焼失住居であると考えられ、出土位置・状態から一括遺棄された蓋然性が 非常に高いものと考えられる。 (桜井真貴)

②下寺尾西方 A 遺跡 Y 5 号住居址 (第2図 井澤ほか2003)

6.14×8.08mのやや大形の住居址であるが、遺構確認面から床面までの深さが19cmほどしか残っていない。しかしながら、床面直上に多くの土器が遺存していた。覆土は基本的に上下2層に分けられ、床面上の第2層からほとんどの土器が出土している。他の弥生時代遺構との重複はない。報告書記載の土器26点のうち、床面直上および床面相当の屋内土坑上から22点、炉から1点が出土している。床面出土土器の器種および数量は壺14点、甕2点、台付甕4点、鉢2点、高坏1点である。土器の出土位置は壁際が多く、西壁(奥壁)際の床面から完形の壺2個体を含む7点(1・2・6・8・19・21・22)が、いわゆる貯蔵穴と思われる屋内土坑周辺の東壁際から12点(3・5・7・9~15・17・20)が出土している。2箇所の纏まりはそれぞれ一括性が高いものと考えられ、また同時性のある資料とも考えられるものである。これに炉上面出土土器23とそのほかの床面出土土器を含めて、住居廃絶時前後の供伴資料と考えられる土器を第2図に掲載した。小形壺8個体と中形壺、大形壺があり、甕は深鉢形のほかに脚台が付くものがある。脚台の破片も出土している。この他の器種として鉢と高坏があり、器種は豊富である。壺は無文のものと肩部(もしくは頸部)に文様帯が1箇所施文されるものからなる。大形壺は図上復元であり胴部下半の形状および口縁部~頸部の形状は明確ではない。高坏は坏部のみであり、脚台の形状は不明である。

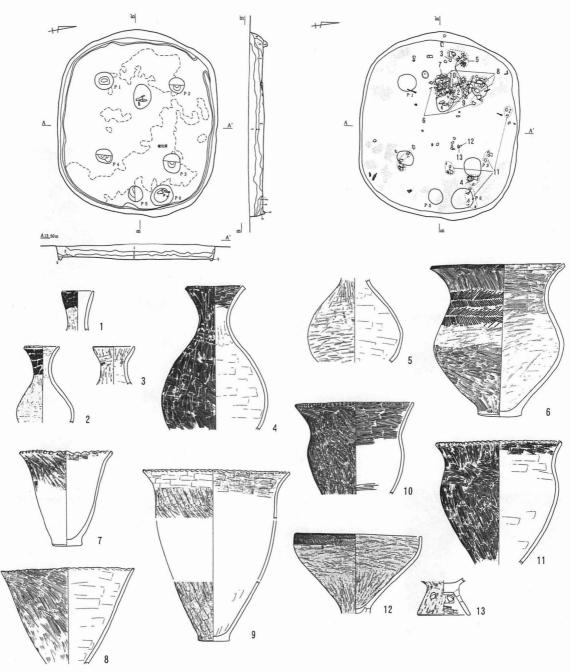
③下寺尾西方 A 遺跡 Y 9 号住居址 (第3図 井澤ほか2003)

この住居址は柱穴1本 (P1) と浅い皿状の土坑 (P6) を全掘調査し、他の柱穴 $(P2\sim4)$ と出入り口施設と見られるピット (P5) は半截による土層観察にとどめている。炉址は中央奥壁寄りに存在するが、掘削調査は行っていない。また、周溝は北西部で一部欠けたものが 1条、平面確認された。確認のみで掘削



第2図 下寺尾西方A遺跡Y5号住居址 〔遺構S:1/120 遺物S:1/8〕

調査は行っていない。住居址の規模は5.74×5.00mの隅丸長方形で、確認面からの掘り込みは51cmを測る。覆土中には住居の壁付近から中心に向かって流れ込むように焼土 (3´層)の堆積が認められ、柱穴の外側で床面に達している。焼土の存在や、遺物出土状況から見て焼失住居である可能性が高い。遺物は炉址や出入り口付近では床面から、その他の場所では比較的高い位置で出土している。ただし、焼土の上下で出土した遺物も接合している。平面的には炉址の周辺およびその西側に多く分布している。図示した土器のうち壺 (1)・広口壺 (6)・甕 (7~10) は炉址付近の床面から、壺 (4)・甕 (11)・台付鉢 (12)・高坏 (13) は、その他の位置の床面から出土している。出土状況は狭い範囲に同一個体の破片がまとまっていることが多く、原位置でつぶれた状況が看取できるが、8・9・11は割れて比較的離れたところの破片同士が接合している。壺 (2・3・5) は床面から6~7 cmほど浮いて出土している。



第3図 下寺尾西方A遺跡Y9号住居址 〔遺構S:1/120 遺物S:1/8〕

このような出土状況から、少なくとも $4\cdot 6\cdot 7\cdot 10\cdot 12\cdot 13$ は一括性が保証され、その他のものも高い一括性が認められると言えよう。 (桜井)

④下寺尾西方 A 遺跡 Y12号竪穴住居 (第4図 井澤ほか2003)

この住居址は柱穴だけでなく周溝についても確認をしたのみで掘り下げをしていない。それにもかかわらず多量の土器が床面から出土していることが判明した。今回の調査地区では最大規模の住居址で8.89×7.72mを測る。炉が2基あり、周溝・柱穴の確認状況から数次の拡張をしたことが想定されている。壺(1~14)、甕(15~21)、鉢(22)のほか環状石斧や板状鉄斧の出土も見られる(18は壺の、20は台付鉢の可能性もある)。炉からは8・11・16のほか大形壺(宮ノ台式末期に通有の羽縄文・沈線区画・並行直線充填の鋸歯文をもち、赤彩を施されたもの)の胴部上位破片がみられる。梯子穴と考えられるピット上面から12が、その周辺から住居址の東半に土器は集中して出土した。床面に張り付いて出土したものは1・4・5・10・12・14・17・19・21である。その場で潰れたような状態で検出されたものが多いが、21はやや離れたところのものが接合し、床から8cm浮いた状態で出土した15は壁際から流れ込んだような状況を示す。17は底部を欠いたまま倒置されていた。21のような台付甕が確実に伴うことからも宮ノ台式でも末葉の様相を示すことが伺われる。また、13にみられる貝田町式土器に淵源をたどることのできる土器の出土は注意されよう。このような器形は千葉県常代遺跡でも知られているが、むしろ見晴台式から山中式にかけて認められる台付鉢に重ね合わせたほうがよいのかもしれない(永井・村木2002)。ただしこれは7cmほど浮いての出土である。

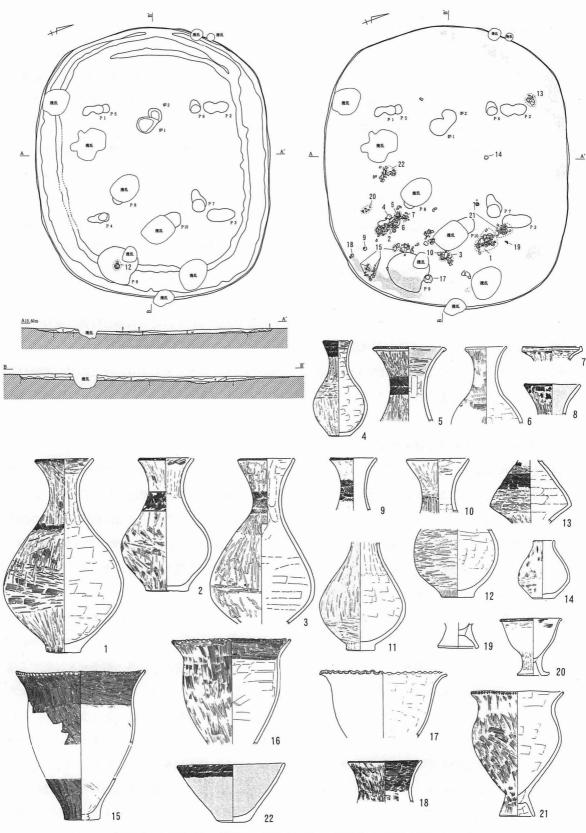
本住居址出土遺物は、確認面から床面までの深さが12cmとわずかということもあり、ほとんどの遺物がこの住居に伴うものである蓋然性が高く、この一括性は高く保証されよう。 (伊丹 徹)

⑤赤坂遺跡第8次調査地点7号住居址 (第5·6図 中村·諸橋2001)

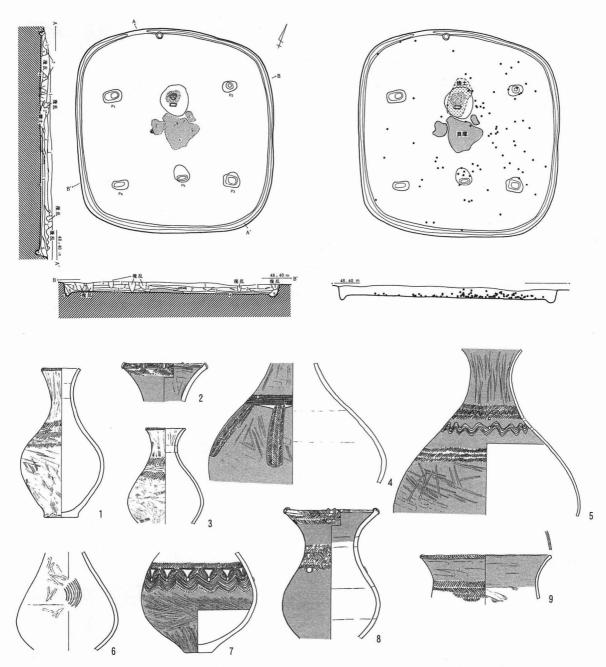
この住居址の規模はさほど大きなわけではなく、赤坂遺跡でも中形の 6.52×6.34 mのものである。また、覆土の堆積も最厚で40cmと深いわけでもないが、テンバコにして100箱分もの土器が出土したという。そして炉から住居址中央部にかけて魚骨・獣骨を多量に含む貝層も検出された。土器の分布は床面直上のものが多く、住居の東側にやや偏るようである。器種は壺($1 \sim 9$)、甕($10 \sim 24$)、鉢($25 \sim 30$)のほか高坏(31)も認められる。甕が異様に多く、大形品も少なくない。特に10は県内でも最大級のものである。また壺にも大形のものが認められるが完形品には恵まれない。

テンバコ100箱分の土器が全て復元されたことを想像するまでもなく、これらの土器が本来の機能をこの住居址内で果たしていたとは到底考えることができない。報告者も述べているようにこれらの遺物は祭祀という行為での一括性、つまり廃棄の一括性の担保とはなりえるものの、使用の一括性・組合せを保証する限りではない。報告者は4細分した土層への帰属をできるだけ詳細に記載しており、今回提示した資料で床面直上出土のものは1・4・6・10~12・15・22・27・29~31、最下層の4層出土は21・25・26である。主体を占める甕のバリエーションは豊かで、口縁部の作りや胴部の調整、器形も様々なものがある。破片では櫛目鎖状文やヘラによる横走羽状文も微量ながら認められるが、脚台は全く見られない。無文の壺も一定量あるが、懸垂文(4)や結紐文(7)をモチーフとしたものや無区画の縄文帯を重ねるものなど意匠は様々である。ある程度の時間幅を考えたほうがよいであろう。脚部の裾に透かしを入れ、肥厚する口縁をもつ深い坏部の特異な高坏(31)は、壺底部に同様の細工を加えるものを含めても類例は少ない。近畿地方ではⅣ様

式の高坏や台付鉢などの脚台部に意匠を加えることがよくみられるがその影響だろうか。また、南関東では 宮ノ台式に顕著な記号文をもつ壺(6)もみられる。



第4図 下寺尾西方A遺跡Y12号竪穴住居 〔遺構S:1/120 遺物S:1/8〕

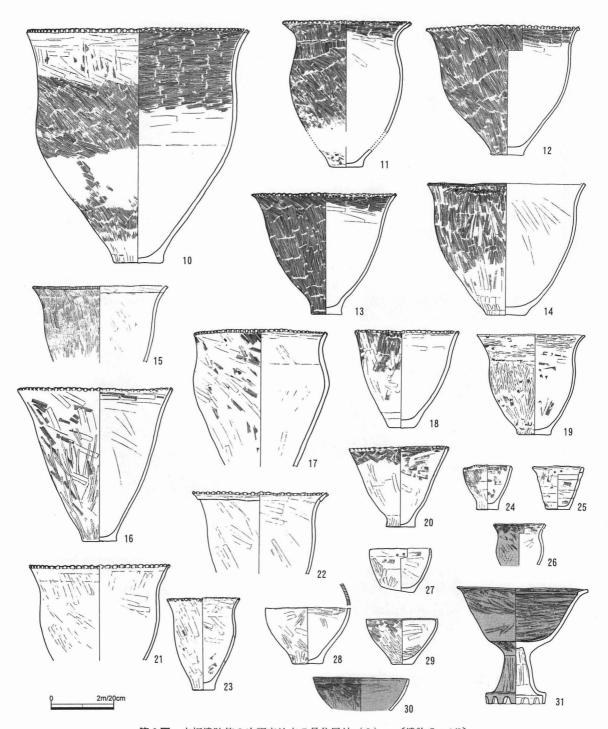


第5図 赤坂遺跡第8次調査地点7号住居址(1) [遺構S:1/120 遺物S:1/8]

貝層における鹿角製笄およびベンケイガイ製貝輪といった非日常性を示す遺物の存在は、いっそう祭祀による一括性の可能性を高めるものではなかろうか。 (伊丹)

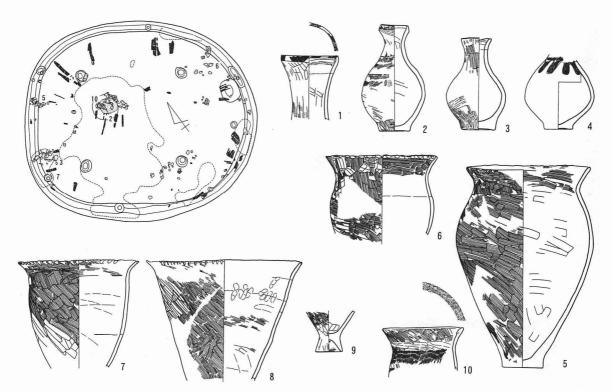
⑥大塚遺跡 Y51号住居址 (第7図 伊藤ほか1991・小宮ほか1994)

本住居址は、楕円形を呈し、4本の主柱穴と梯子穴、それに主軸上の奥寄りに地床炉、入口付近に貯蔵穴を一つ掘り込むという、ごく一般的な形態をとる住居址である。7.43×6.50mを測り、規模の点からも本遺跡の中でごく平均的といえる。主柱穴や周溝が重複して掘られていることから少なくとも2回の建て替えが想定される。本住居址は焼失住居と考えられ、床面上に炭化材などとともに遺物も多く残った状態で検出された。



第6図 赤坂遺跡第8次調査地点7号住居址(2) [遺物S:1/8]

器種としては、壺 $(1 \sim 4)$ 、甕 $(5 \sim 8)$ が中心となる。壺は単純に外反する口縁部をもつ。頸部から胴部にかけては、斜縄文や舌状文を施す例と無文の例とがある。甕は口縁部にキザミをもつものと指頭押捺をもつものとがある。9 は、本来は台付甕であり、胴部が欠損した後に割れ口を磨いて台付鉢として再利用したものと考えられる。10は器形的には甕であるが、外面はハケの後磨かれている。また、LRの縄文帯の上に波状文を施文している。口縁内面にも縄文帯と波状文を施し、内外面ともに赤彩されており、鉢などと捉えた方が良いかもしれない。土器は全面に広がりをみせるが、なかでも炉址内と南西コーナー付近に遺物の集中が認められる。炉からは $2 \cdot 8 \cdot 10$ が出土している。南西コーナー付近の遺物の集中部分で検出され



第7図 大塚遺跡 Y51号住居址 [遺構 S:1/120 遺物 S:1/8]

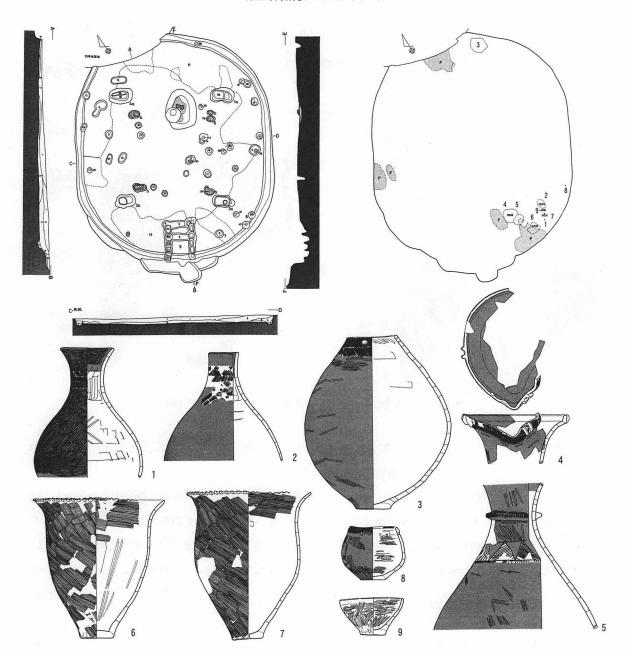
たものは、3・7の他に小形の甕 (口縁部にキザミをもつ外面ハケ調整のもの) がある。いずれもその場で潰れたかのような様相を示すものが多く、離れての接合は認められない。

本住居址は、埋没過程に堆積した層から出土した土器が床面上で検出されたものと接合することから、火災後に人為的に埋め戻すといった行為が推定されるという。従って、短期間での埋没が考えられる。なかでも、炉内で検出された個体と床面直上で検出された個体は、火災時に放置されたままである可能性が高く、この住居に伴うものと思われる。これらのことから、炉内と床面直上で検出された個体は、一括性が高いと考えられる。 (飯塚美保)

⑦観福寺北遺跡21号住居址 (第8図 平子·鹿島1989)

本住居址は、楕円形を呈し、4本の主柱穴と梯子穴、それに主軸上の奥寄りに地床炉を掘り込むという一般的な形態をとる。特徴的なこととしては、ピットが列なった形の出入り口施設をもつことがあげられる。10.68×8.43mを測り、本遺跡のなかでは比較的規模が大きい住居である。主柱穴の内側に、上面に貼り床がされたピットが存在することから、少なくとも2回以上の柱の移動を伴う建て替えがあったことが推測される。また、覆土中には、壁際を中心として焼土が厚く堆積していることから、本住居址は焼失住居である可能性が高いと考えられる。

掲載した土器は、いずれも床面上より出土したものである。器種としては壺 $(1 \sim 5)$ 、甕 $(6 \cdot 7)$ が中心であり、無頸壺とされた8や、椀とされた9などのようなものも出土している。壺は、頸部から胴部にかけては、羽状縄文を施文した個体、羽状縄文と沈線区画の鋸歯文を施文した個体などがある。3は口縁部から頸部が欠損した後、欠損部を擦って再利用したものである。掲載した壺はいずれも赤彩が施されていた。甕は $6 \cdot 7$ ともに口縁部は指頭押捺、外面はハケ調整されている。内面はハケもしくはヘラナデであるが、一



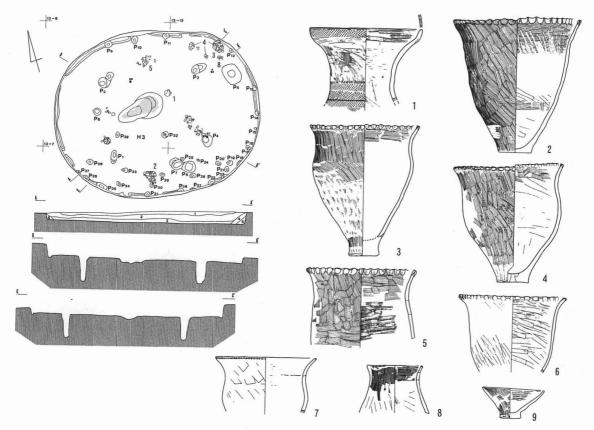
第8図 観福寺北遺跡21号住居址 〔遺構S:1/120 遺物S:1/8〕

部ミガキがなされる個体もある。報告書に掲載された本住居址出土の甕は、いずれも指頭による押捺であり、 キザミは認められなかった。これらの床面直上より検出した土器は、住居址の南東コーナー付近と炉の北側 に集中する傾向が認められる。3は炉の北側から出土し、それ以外は南東コーナー付近からの出土である。

焼土や遺物の出土状態から、床面上から出土した土器はこの住居に伴うものと思われ、一括性が高いと考えられる。 (飯塚)

⑧折本西原-I遺跡3号住居址 (第9図 岡田·水澤編1988)

本住居址は他遺構との重複はなく、 6.7×5.2 mの小判形を呈する。炉は新旧の2基確認されている。壺(1)、甕(2~8)、鉢(9)があり、甕が多い。土器以外には床面から出土した土製円盤が2点、扁平な礫を利用した扁平片刃石斧1点などがある。覆土は最厚で37cm程度であり、自然堆積と判断される。遺物は覆土か

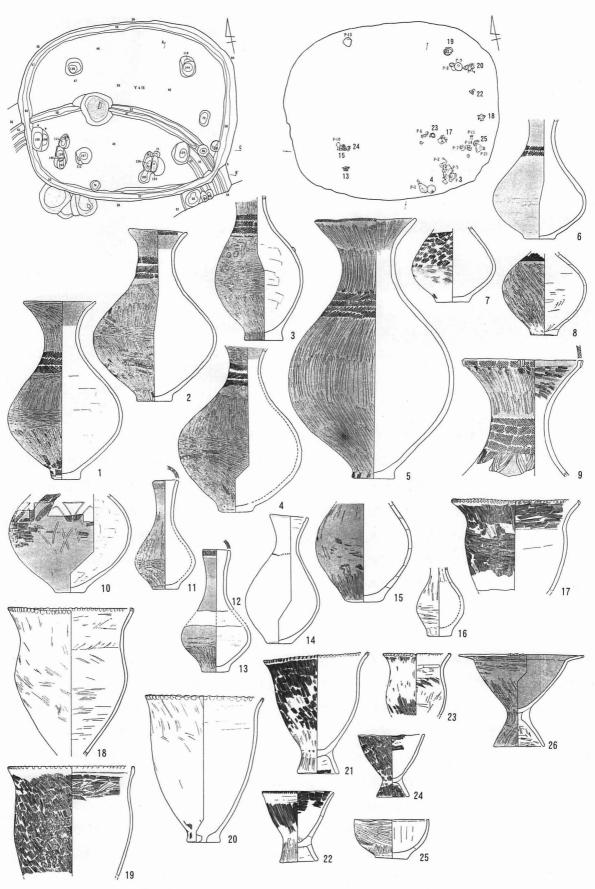


第9図 折本西原-I遺跡3号住居址 [遺構S:1/120 遺物S:1/8]

ら床面にかけ多量に出土している。床面出土とされたものを図示したが、これらのうちほぼ完形の 2 は南壁際、 3 は北東角際からその場で潰れた状況を呈しているものの、 4 は 3 のすぐ西側に 1 m程の範囲で散っている。また、 5 は胴部上半以上の残存、 $6\sim8$ は破片からの復元実測であり、 $1\cdot6$ は覆土中の破片と接合するものである。報告書の出土状況写真を見ると、 $3\cdot4\cdot8$ が出土した住居北東側を中心に覆土中から床面まで遺物が分布しており、埋没過程での投棄行為が見て取れることから、 $2\cdot3$ 以外の土器については住居廃絶後の投棄遺物と理解すべきものだろう。従って、ほぼ完形に復元された $2\cdot3$ も含め、一括性・同時性を保証できるものではない。

⑨折本西原遺跡 Y 4号住居址 (第10図 石井ほか1980)

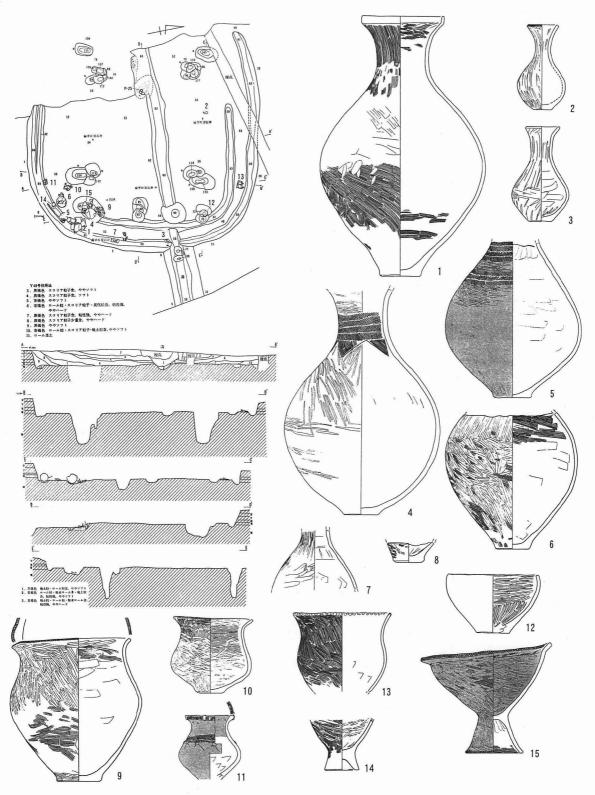
報告されている土器のうち、床面から出土した26個体を提示した。住居址は6.70×5.55mの隅丸長方形を呈し、遺構確認面からの深度は最も残存のよいところで30cmを測る。北西隅は床面に達する程の攪乱を受け、遺物は東寄りから東南側のコーナーに集中して出土した。壺(1~16)、甕(17~24)、鉢(25)、高坏(26)がみられ、石器は「小形ノミ形石斧」(扁平片刃石斧か)、打製石斧や磨石・敲石類、砥石などが出土している。炉の南側には13・15・24などの比較的法量が小さい土器がみられる。この内13の壺胴下半部は、東壁際から出土した口頸部と同一個体であると目されており、そうであれば一個体の破片が約4mの距離を隔てて床面上に遺存していたことになる。土器はほとんどの場合床面上から潰れた状態で出土し、その1/3程度が口縁から底部まで残存している。その他の場合でも、壺は口縁または口頸部を、甕は底部を欠く例が多い。このうち4はほぼ正位の状態で南側壁面近くから出土した。こうした状況から鑑みて、これらの土器は本址の廃絶前後に床面上に遺棄されたのち、埋没したものと考えられる。 (渡辺)



第10図 折本西原遺跡 Y 4 号住居址 〔遺構 S : 1/120 遺物 S : 1/8〕

⑩折本西原遺跡 Y48号住居址 (第11図 石井ほか1980)

本住居址の西側は約1/4を削平されており、残存する南西側の柱穴位置を勘案すれば本来の規模は8.5×7.4 m程と推測される。三重に掘削されている周溝と最低3回以上掘り直された柱穴から、3回以上の拡張ないし建て直しが行われている。



第11図 折本西原遺跡 Y48号住居址 〔遺構 S:1/120 遺物 S:1/8〕

壺($1\sim7$)、甕(13)、広口壺($9\sim11$)のほか鉢(12)、台付鉢(14)、高坏(15)があり、壺類の数が圧倒的に多い。完形品が多く、肩部以上を欠失した壺 6 も欠損部を平坦にしており、継続して使用されたことが想定される。土器以外には鉄鏃 1 点、扁平片刃石斧 4 点が出土している。覆土は $30\sim50$ cm程度残存しており、いわゆる壁際三角堆積も認められ、概ねレンズ状の堆積を示すことから自然堆積と認め得よう。壁際から少量の弱い焼土と炭化材が検出されているが、床面の被熱痕跡は全く認められず、焼失住居ではない。遺物は覆土中からの出土が少なく、床面からの出土が大半である。炉において台ないし支脚として二次利用されたと見られる底部 8 を除けば、ほとんどの完形・半完形土器は横倒しないしその場で潰れた状態で床面の東側、特に南東角付近から集中して出土している。これらは出土位置・状態と覆土中遺物が僅少であることを勘案すれば、廃絶後初期の段階までに一括して埋没している可能性が高く、それが居住時の配置を示さないとしても、一括性は高いと判断される。これらの内、 $4\cdot9\cdot15$ は床面より10cm程度掘り下げられた土坑状の部分から出土しており、報告者は本址より新しい土坑に伴う遺物の可能性も示している。しかし、覆土に特に差異は認められなかったという報告者の所見もあり、特に本址に伴うことを否定するものではない。

3. まとめ

出土土器の器種・数量の豊富な5遺跡10遺構を対象に一括資料としての検討を行った。検討資料は宮ノ台式の中段階以降に偏っているが、壺、甕および鉢や高坏の共伴状況を確認し提示した。今回の資料では、器形や文様の変遷、対応関係に従来の編年観と特に齟齬はないことが明らかであるが、資料としての充実はさらに蓄積すべきであろう。

竪穴住居址における土器の出土状況については、床面上で土器がまとまって出土する場所は炉付近や貯蔵穴周辺の住居址壁際に多いという傾向は、今回の検討対象とした資料でも認められた。しかしまた、住居址の床面上から出土した土器であっても、その場所で潰れたような出土状態の土器と完形に近い土器でありながら離れた位置に分散して出土する土器とがあることも事実である。それぞれそこに遺存することになった経緯が異なっていることが考えられるのであるが、一方住居廃絶後の埋没過程における比較的短い時間幅の中に両者を位置付けることも可能であろう。使用時の一括性を判断できる状況に無くとも、廃棄時の一括性もしくは住居廃絶時の同時性を保証できる資料として提示できれば、編年基準資料や交差年代基準資料として不足ないものと考えられる。 (池田)

引用遺跡に関る文献

井澤 純ほか 2003 『下寺尾西方A遺跡』かながわ考古学財団調査報告157

石井 寛ほか 1980 『折本西原遺跡』横浜市埋蔵文化財調査委員会

伊藤 郭·武井則道ほか 1991 『大塚遺跡』港北ニュータウン内埋蔵文化財調査報告 X Ⅱ

岡田威夫·水澤裕子編 1988 『折本西原遺跡-I』折本西原遺跡調査団

小宮恒雄·武井則道ほか 1994 『大塚遺跡』港北ニュータウン内埋蔵文化財調査報告 X V

中村 勉·諸橋千鶴子 2001 『赤坂遺跡』三浦市埋蔵文化財調査報告書 5

平子順一·鹿島保宏 1989 『観福寺北遺跡·新羽貝塚発掘調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会

参考文献

安藤広道 1990 「神奈川県下末吉台地における宮ノ台式土器の細分」上・下 『古代文化』42-6・7

安藤広道 1991 「相模湾沿岸地域における宮ノ台式土器の細分」『唐古』田原本唐古整理室〇B会

梅崎惠司 1994 「弥生時代西日本の高坏脚部の透孔」『古文化談叢』33

永井宏幸・村木 誠 2002 「尾張地域」『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社

弥生時代研究プロジェクトチーム 2001 \sim 04 「宮ノ台式土器の研究」 $1\sim4$ 『かながわの考古学 研究紀要』 $6\sim9$ かながわ考古学財団

神奈川県内における奈良・平安時代の農具

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

奈良・平安時代研究プロジェクトチームは、今年度から新たな取り組みとして、農具を取り上げることに した。農具は集落遺跡、生産遺跡のみならず官衙跡や寺院跡などからも出土する。また近年県下においては、 低地に所在する遺跡を対象とした調査事例が増加傾向にあり、鉄製のみならずあわせて木製の農具も少しず つ出土量を増やしてきている。

この農具は、生産遺跡と共に、基幹産業として古代社会を基底で支えた農業実態の一端を示すものである。これにアプローチすることは農業生産・技術、農具の形態・使用方法・所有関係など農業全般について、或いは在地社会の集団関係のみならず、広く古代の社会関係をも語ることが可能なものである。そうした意味からこれまでも、高橋一夫、土井義夫、松村恵司、古庄浩明、八賀 晋、黒崎 直、河野通明の諸氏により、さまざまな観点から検討が加えられ大きな成果があげられてきたことは周知のことである。

そこでまず手始めとして、県下の農具の実態を把握するために、全県的に集成を行なうこととした。ただ 今年度は紙数の関係もあるので、地域としては横浜市・川崎市の旧武蔵国、それと木製農具は除外し、来年 度の本紀要に掲載することにした。

その上で、さまざまな切り口でもって、その解明に努めたいと考えている。

例 言

- 1. 本集成は2005年9月現在公刊されている遺跡調査報告書に基づき、横浜・川崎を除く神奈川県内の鉄製農具を集成したものである。
- 2. 報告書で鉄製農具と報告されていても、実測図や写真がなかったり、遺存状態が悪く断片で、プロジェクトチームで 鉄製農具と判 断しかねる場合は除外した。
- 3. 集成表の項目内容は次の通りである。
 - (1) 番号:県西部から市町村毎に遺跡毎に並べて一点一番号とした。
 - (2) 器種名:報告書によっては○状製品など器種名が統一されていないため、本集成では鍬鋤先・鎌・穂摘具と統一して表記した。
 - (3)遺跡名:調査年度や地点にかかわらず、同一遺跡として扱った。
 - (4) 出土遺構:地区・地点別に報告されている場合は、地区名を表記した後に遺構名を入れた。
 - (5) 出土位置:報告書の記載に従ったが、表現を統一した。
 - (6) 遺存状況:実測図面から判断して「完形」、少し欠けている「ほぼ完形」、残存が1/2より多い「欠損」と残存が 1/2より少ない「断片」の四段階で表記した。
 - (7) 法量:鍬鋤先の厚みは耳部が残存している場合は耳部の厚みとした。
 - (8) 遺構時期:報告書に記載が無い場合や古墳~、~中世と記載された遺物は奈良・平安時代前後の時代の遺物である可能性がある。
 - (9) 文献名:記載された書名をあげた。書名前の数字は発行年の西暦下2桁を示す。
- 4. 図版の縮尺は鍬鋤先1/4、鎌・穂摘具は1/3である。

No. 器種	名 遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況		量 (遺構時期	備考	文献名
	H MEWI'LI	一一人是刊的	一一一一	AE IT TANK	長さ	幅	厚み	VEC 113 to 1	CC BIN	人服石
田原市										
1 鎌	永塚北畠		包含層	断片	(4.00)	4.00				86『埋蔵文化財発掘調査報告書』
2 鎌	高田北之前	第Ⅱ地点2住	床直	欠損	(11.00)	2.80		10前		01『高田北之前遺跡第Ⅱ地点』
3 鎌	三ツ俣	6 掘立	覆土	断片	(6.20)	1.80		平安		86『三ツ俣遺跡』
4 穂摘』		6 掘立	覆土	完形	10.00	2.10		平安	15. 12	"
5 穂摘り		3 井戸	覆土	完形	9.40	2.40		平安前期		87『三ツ俣遺跡』
6 鎌	久野多古境	第 I 地点10住 b	bet a con-	ほぽ完形		4.00		9後		04『久野多古境遺跡(第1分冊-第Ⅰ·Ⅱ地点)』
7 鎌	久野多古境	第 I 地点11住		完形	13.90	3.00		9後~10初		
北町										
8 鎌	堂山		包含層	完形	V-2	7				88『カラス山・堂山遺跡』
宮町										
	上 天神谷戸	37住		ほぼ完形	7.20	7.30	1.00	奈良		00『天神谷戸遺跡』
0 鎌	天神谷戸	15住		欠損	(3.70)	2.80	0.30			の「八神音戸遺跡」
1 鎌	天神谷戸	30住		欠損	(5.90)	3.40	0.30			,,
2 鎌	天神谷戸	48住		欠損	(9.60)	3.00		平安前~中		,
宮町	DOIT II	1011.		XIX	(0.00)	0.00	0.00	1 2 10 1		
	. 西大竹小原	07 4 1 97/4		NC LL	(5.00)	0.00	0.00			00 TT-L4-BB BB
4 鎌	西大竹小原	97A1-37住 96A5-15住		断片 断片	(5.00)	2.00	0.60			02『西大竹尾尻遺跡群2資料 I』
5 鎌	西大竹小原				(6.00)	2.00	0.80			,
6 鎌	西大竹小原	99A1-15住 96A4-7住			(13.50)	1.80	0.20		左鎌	
7 鎌	西大竹小原	98A1-4住		欠損 欠損	(14.80)	2.20	0.20		左鎌	02『西大竹尾尻遺跡群3資料 I』
8 鎌	西大竹小原	98A1-4注	_	断片	(7.50)		0.20			"
	四人们小原				(6.40)	3.40	9.1			
9 穂摘身		98A1-21住 99A2-3住		ほぼ完形		1.40	0.20			02『西大竹尾尻遺跡群3資料Ⅱ』
20 穂摘身		96B1-18住		断片	(7.20)	1.80	0.20			ク1 『五上仏日日 集時報 / 次州 m !
21 対入対切フ	元 尾尻西立野 元 尾尻西立野	98B1-18注		完形	22.00	20.50	1.50 2.20			01『西大竹尾尻遺跡群4資料Ⅲ』
23 鎌	尾尻西立野	98B1-13据立		完形	(6.40)	19.80	0.60			"
24 鎌	尾尻西立野	98日-1住		欠損	(6.40)	3.50	1.20			"
	尾 尾 居 正 立 野	97B1-2注 97B1-1住		欠損 欠損	(8.30)	5.00	0.30			,
26 穂摘見		98B1-4住	31	欠損	(7.20)	1.90	0.30			,
7 鍬鋤兒		54住	46.5	断片	(7.20) (10.80)	2.30	(0.80)	036		90『草山遺跡Ⅲ』
8 鍬鋤5		遺構外		断片	(9.30)	1.80		古墳~平安		90【早山退砂皿】
9 鍬鋤兒		遺構外		断片	(8.20)	1.50		古墳~平安		"
30 鎌	草山	No.24地点11住		断片	(7.10)	3.60	0.30	百項~十女		83『草山遺跡No.24地点の調査』
31 鎌	草山	48住		完形	14.80	4.20	0.30	024	31~34の4点が重なって出土	
2 鎌	草山	48住	覆土	完形	19.30	4.40	0.25		31-34074点が里なり(田工	90【早川退跡皿』
3 鎌	草山	48住	覆土	完形	20.20	4.10	0.25			, ,
4 鎌	草山	48住		完形	19.40	4.60				,
5 鎌	草山	51住	12.1	ほぼ完形		4.20	0.23	9前		,
86 鎌	草山	141住		欠損	(17.00) (12.40)	3.10				"
7 鎌	草山	111住		完形	20.60	3.60				,
8 鎌	草山	100住		欠損	(8.80)	2.40				,
89 鎌	草山	100住		断片	(7.10)	2.60	0.25			"
10 鎌	草山	133住		断片	(6.80)	3.10				89『草山遺跡Ⅱ』
11 穂摘』		51住		完形	11.10	2.30				90『草山遺跡Ⅱ』
2 穂摘具		51住		完形	10.50	2.00	0.20			50 [平山遺跡 正]
13 穂摘具		2住		欠損	(8.50)	1.90	0.20			89『草山遺跡Ⅱ』
14 穂摘具		76住		ほぼ完形		2.50				05 [平山退跡 1]

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	長さ	量 (cm 幅		遺構時期	備考	文献名
45	穂摘具	昔山	104住	,	完形	11.10	1.80	厚み 0.20	9%		89『草山遺跡Ⅱ』
	穂摘具		80掘立		欠損	(9.30)	1.70	0.20			05 [平田通助] [1]
47		小南	48住		完形	14.20	3.00		平安前期		97『小南遺跡(No.28)』
48	鎌	秦野下大槻	20C地区遺構外		ほぼ完形		(3.80)	0.00	1 2 110777	写真のみ	74『秦野下大槻』
49	鍬鋤先	下大槻峯	22住		断片	(13.10)	3.20	1.40	平安中期		98『下大槻峯遺跡 (No.30) Ⅱ』
	鍬鋤先	下大槻峯	遺構外		欠損	(8.50)	1.90		古墳~平安		98『下大槻峯遺跡(No.30)Ⅲ』
51	鎌	下大槻峯	60住		欠損	(7.40)	2.60	0.30	平安中期		98『下大槻峯遺跡 (No.30) II』
52	鎌	下大槻峯	62住		完形	18.00	3.30	0.35	古墳末~奈良前		,
53		下大槻峯	108住		断片	(5.50)	2.60	0.30	平安前期	左鎌	,
54		下大槻峯	15土坑		断片	(11.60)	3.70	0.30	古墳~平安		98『下大槻峯遺跡(No.30)Ⅲ』
55	鎌	下大槻峯	遺構外		断片	(4.90)	3.90	0.35	古墳~平安		"
56	鎌	下大槻峯	遺構外		断片	(7.00)	1.80	0.30	古墳~平安		"
		下大槻峯	35住		欠損	(6.90)	2.00	0.30	平安前期		98『下大槻峯遺跡(No.30) II 』
58		神戸・上宿(No.15)	遺構外		断片	(6.10)	2.60		古墳~平安		99『神戸・上宿遺跡(No.15)』
59		上粕屋・川上(No.5)	礫群		ほぽ完形	(15.80)	3.50	0.20	平安		98『上粕屋・川上遺跡 (No.5・6)』
平塚市											
60	鎌	坂戸	第3地点1住	覆土		(10.40)	1.60	0.20	10前	左鎌	90『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』2
		六ノ域	第11地点3T		断片	(10.80)	3.40	0.80			96『南原B遺跡他』
62	鎌	六ノ域	第4地点62住		断片	(6.24)	2.00	0.24			87『真土六の域遺跡Ⅱ』
		六ノ域	第4地点14住		断片	(3.63)	1.92		8後~10後		"
64	鎌	六ノ域	第9地点遺構外		欠損	(13.20)	3.70	0.50			92『真土六ノ域遺跡Ⅲ-第9地点-』
65	鎌	六ノ域	1区7住		断片	(4.40)	2.20	0.30			84 『四之宮下郷 図版』
66	鎌	六ノ域	1区25住	覆土	完形	10.00	1.80	0.20			"
	穂摘具	六ノ域	21掘立		欠損	(5.70)	2.20	0.30			86『真土六の域遺跡』
68		六ノ域	14掘立		完形	11.00	2.40	0.20			,
	鎌?	六ノ域	遺構外		断片	(0.00)	0.00	0.00			O. Proc. Laboure ton. Profile I.
		六ノ域	1区6住	床直	断片	(3.60)	2.00	0.20			84 『四之宮下郷 図版』
71	鎌	山王B	第1地点3住		ほぼ完形		2.65	0.21	10中	A4	87『四之宮山王B遺跡』
72 73	鎌	山王B 山王B	第1地点8住		断片	(8.42)	3.11	0.29	9中·後 10中	左鎌	"
74	穂摘具	山工D 古廿土	第1地点2住		断片	(4.10)	2.86				
75	(地)	天神前	第6地点8住 第3地点2住		完形 ほぽ完形	10.70 15.10	1.96 3.20	0.18	8前		88『諏訪前B·高林寺』 90『梶谷原·高林寺遺跡』
76	乏依	天神前	第3地点11住		欠損	(7.92)	2.30	0.26	8前	左鎌	90 【侘台原・同怀守退跡』
		梶谷原B	第1地点6住		断片	(3.10)	1.90	0.20	8前	/工球	,
78	维	神明久保	第1地点A-2住		断片	(4.10)	2.20	0.20	9		91『神明久保遺跡-第1地区-』
79	錯	神明久保	第1地点C-10住		断片	(3.50)	1.90	0.20	9		91 11中外人休息跡一分1地区一』
80	鎌	神明久保	第1地点C-10日		断片	(3.90)	2.40	0.40			,
81	鎌	神明久保	第1地点C-43ピット		断片	(3.40)	2.00	0.60	10		,
82	鎌	神明久保	第1地点C-遺構外		断片	(4.00)	2.60	0.30			,
83		神明久保	第1地点C-22住		断片	(3.60)	2.20	0.20	10		,
84	鎌	神明久保	第3地区5溝		欠損	(7.40)	3.70	0.30			89『神明久保遺跡-第3地区-』
85		神明久保	第9地点4 · 10住		断片		55	0.00			01『神明久保遺跡』
		神明久保	第3地区6溝		欠損	(8.20)	2.10	0.20	7		89『神明久保遺跡-第3地区-』
87		諏訪前A	第10地点遺構外		欠損	(10.80)	2.80	0.30			92『諏訪前A遺跡他』
88	鎌	諏訪前A	第10地点遺構外		断片	(6.80)	2.50	0.30			/
89	鎌	諏訪町A	2住		欠損	(8.40)	2.90	0.20	8中		98『諏訪町A遺跡発掘調査報告書』
90	鎌	諏訪町A	5住		断片	(7.80)	2.40	0.20	10後		"
91		諏訪前A	1⊠3-G		ほぽ完形		4.00	0.40			84 『四之宮下郷 図版』
92	鎌	諏訪前A	1区108土坑		断片	(4.80)	2.30	0.30			"

No. 器種:	名 遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	法 長さ	量(c 幅	m) 厚み	遺構時期	備考	文献名
02 414114	· 構之内	第1地点A地区26住		ほぼ完形	19.60	21.30	5.00			94『構之内遺跡発掘調査報告書』
93 軟 刺 7	構之内	第4地点4溝		断片	(4.40)	2.20	0.20	The second second		02 『万田遺跡・構之内遺跡』
95 鎌	北金目塚越	8区1005道	覆土	完形	17.70	3.70	0.20			03 『平塚市真田·北金目遺跡群発掘調査報告書3 第3分冊』
96 穂摘』		2区21住	1及上	断片	(5.70)	(1.80)	2.00	ОШ		99『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書1』
97 鎌	大久保	6区9住	竈		(3.70) (11.70)	3.00	0.20	3'T		01『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書2 第2分冊』
98 鎌?	大久保	6区26住	床直	断片	(4.60)	1.80	0.20			01 十条巾具田 · 礼並日夏勁矸光掘調且取口官2 第2月间』
99 鎌	大久保	6区遺構外	覆土	ほぼ完形	17.80	3.30	0.40			,
100 鎌	王子ノ台	13住	復上	なな元ル	22.00	4.20		8後~9初		99『第Ⅱ巻 王子ノ台遺跡 歴史時代編』
	王子ノ台	46住	V 1	10 30 r	10.50	1.50		8中・後		99 第 1 名 工丁 / 日遺跡 歷史時代欄』
102 鎌	十七ノ域	2住	覆土	断片	(5.00)	2.00		7末~8初か		84『真土十七の域遺跡』
103 鍬鋤5		第7地点22ピット	覆土	断片	(9.30)	(2.80)	1.30	1 × - 0101/1-		92『天神前遺跡-第7地点-』
103 郵	天神前	第1地点1井戸	床下	断片	(9.75)	3.90	0.19			88『四之宮天神前遺跡』
105 鎌	天神前	第1地点12住	床直	断片	(8.90)	2.90	0.19		-	00 [四之古八种刖追跡]
			覆土	断片	(6.28)	2.20	0.28			"
106 鎌 107 鎌	天神前 天神前	第1地点8住 第7地点20住	床直	断片	(7.00)	2.25	0.21			92『天神前遺跡-第7地点-』
107 鎌	天神前	第7地点6掘立	覆土	断片	(6.60)	1.70	0.50			92【大仲則退跡一弟7地点一』
108 鎌	天神前	第7地点5溝	覆土	欠損	(7.80)	3.40	0.20			,
110 穂摘』	具 天神前	第7地点5件	復工 覆土	断片	(2.90)	2.10	0.30			"
	長 大仲則 上 七 域	第2地点165ピット	復工	断片	(2.90) (13.10)	(2.70)	0.20			98『七ノ域遺跡-第2地点-』
	出王A	第5地点1住	26.0	断片	(5.70)		0.40			98『七ノ域遺跡―第2电点―』 03『山王A遺跡―第5地点―』
112 鎌			WE I.			4.00		044		03 田土A退跡一弟3地黒一』
113 鎌	東中原F	1住	覆土	完形	12.20	2.00	0.30			86『東中原F』
114 徳摘身	中原上宿	Ⅳ区21住	床下	ほぼ完形	11.50	2.00	0.20	8削		81『中原上宿』
	具 中原上宿	IV区5ピット	7007 1	断片	(5.40)	1.70	0.20			り 「四十分下4世 阿坦」
116 鎌	四之宮下郷	1区3溝	覆土	断片	(12.20)	2.20	0.30			84『四之宮下郷 図版』
117 鎌	四之宮下郷	1区17住	覆土	完形	15.20	3.40	0.40	7		"
	具 四之宮下郷	1区7住	床直	断片	(6.20)	2.50	0.30			,
119 槵摘身	具 四之宮下郷	1区3住	竈	断片	(4.30)	2.10				
120 鍬鋤芽		2住	覆土	断片	(9.20)	(3.20)	0.40			82『向原遺跡 第3分冊』
121 鎌	向原	1住	覆土	欠損	(7.00)	2.00	0.40			,
122 鎌	向原	11住	床直	完形	12.00	3.80	0.20	Maria .	+ 24	,
123 鎌	向原	13住	竈	ほほ完形	8.00	2.50	0.20		左鎌	,
124 鎌	向原	33住	床直	ほぼ完形	9.50	2.00	0.20			,
125 鎌	向原	39住	覆土	断片	(5.20)	1.20	0.20			
126 鎌	向原	42住	覆土	断片	(4.80)	3.00	0.30			,
27 鎌	向原	55住	床直	ほほ完形	16.40	3.60	0.30			OO STATE BUT MEN MEN III
128 鎌	向原	139住	周溝内	断片	(3.00)	1.90	0.30			82『向原遺跡 第5分冊』
29 鎌	向原	153住	床直	完形	16.00	3.20	0.30			,
130 鎌	向原	207住	床直	完形	3.70	2.20	0.30			,
131 鎌	向原	223住	100	断片	(6.70)	3.00	0.30			
132 鎌	向原	遺構外		欠損	(8.50)	2.50	0.30			82『向原遺跡 第6分冊』
33 鎌	向原	遺構外	C.C.L.C.	欠損	(6.30)	2.50	0.30			,
134 鎌	向原	遺構外	700 I	断片	(11.10)	2.90	0.30			OO TOTAL MENT MENT IN
35 穂摘具		126住		ほぼ完形	13.00	2.70	0.20			82『向原遺跡 第5分冊』
136 穂摘身		220住	覆土	完形	11.70	2.20	0.20	A COLUMN TO THE REAL PROPERTY.		OZ EW ET MARK I I
37 鎌	原口	21住	覆土	欠損	(10.00)	2.70	0.30			97『原口遺跡 I』
138 鎌	原口	21住	覆土	欠損	(9.20)	1.70	0.20	Orte		// / / / / / / / / / / / / / / / / / /
39 鎌	中里B	4住		断片	(3.00)	1.40	0.10	8甲	0.01	88『中里B遺跡』
勢原市										
140 鍬鋤タ	上 岡崎・天神下	第Ⅳ地点2住	床直	ほぽ完形	(22.90)	19.50	0.60			02 『岡崎·天神下遺跡 第Ⅳ地点』

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

						法	量 (c	m)		T	
No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況	長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
141	鍬鋤先	下糟屋C地区	第1地点遺構外	包含層	欠損	(8.00)	(9.40)	1.00			02 『成瀬第二地区遺跡群 下糟屋C地区第1地点 下糟屋D地区·丸山E地区発掘調査報告書』
142		天王原	第Ⅲ地点41住	覆土	ほぽ完形	(16.20)	2.90	0.30			96『天王原遺跡発掘調査報告書 第Ⅲ地点』
143		天王原	第Ⅲ地点86住	覆土	断片	(1.80)	(1.40)	0.15			"
	穂摘具	天王原	第Ⅲ地点25住	覆土	断片	(4.50)	1.60	0.20			"
145		弥杉・上ノ台	19住	床直	断片	(5.10)	2.20	0.35			95『弥杉・上ノ台遺跡』
146		弥杉・上ノ台	24住		断片	(7.00)	2.40	0.40			"
147		中坂東	31住		ほぼ完形	(18.00)	3.50	0.30		7	87『比々多遺跡群 遺物編』
厚木ī	Ħ										
148		下古沢駒飼	2住	覆土	断片	(7.50)	3.80	0.60			98『下古沢駒飼遺跡』
149		小野公所	第2地点2住	覆土	ほぼ完形	(18.85)	3.80	0.29			98『小野公所遺跡第2地点』
		温水高坪	第1地点49住	122	完形	19.80	17.00	1.80			96『温水高坪遺跡群』
151		愛甲宮前	第2地区1住		ほぽ完形		3.60	2.50	9後		94『愛甲宮前遺跡第2地区』
		曽野No 1	1住	覆土	欠損	(6.10)	2.30	0.60			99 『曽野Na 1遺跡』
153		及川寺ノ上	第5区2住	床直	欠損	(16.50)	3.80	0.40			96『及川寺ノ上遺跡』
154		及川天台	11住	覆土	断片	(6.70)	3.20	0.30			97『及川天台遺跡』
155		及川天台	13住	覆土	断片	(8.50)	2.20	0.50			"
156	鍬鋤先	及川宮ノ西	10住		断片	(8.70)	1.60	0.60			96『及川宮ノ西遺跡』
157	鍬鋤先:	及川宮ノ西	10住		断片	(8.00)	1.60	1.00	9後	156と同一か	//
	鍬鋤先		遺構外		欠損	(9.80)	2.80	1.40	10-16		75『鳶尾遺跡』
159		鳶尾	29住		断片	(9.20)	3.60	0.60			,
160		鳶尾	43住		欠損	(3.50)	2.10	0.50			,
161		鳶尾	43住		断片	(3.80)	2.90	0.40			,
162 163		鳶尾	43住 43住		断片	(2.70)	(2.50)	0.40			,
164		鳶尾			断片	(4.10)	2.70	0.30			"
165		鳶尾 鳶尾	43住 128住		断片 欠損	(6.80)	3.10 2.90	0.40	9削		"
	穂摘具	鳥尾	116掘立	覆土.	ほぼ完形		2.40	0.50	8~10		"
		峯ヶ谷戸	遺構外	12人	断片	(7.10)	1.70	1.00	8 - 10	中世溝の混入として報告	95『峯ヶ谷戸遺跡』
168		峯ヶ谷戸	27住	覆土.	欠損	(14.30)	3.40		10前	平世体が従入こして 報告	が (
169		峯ヶ谷戸	37住	覆土	ほぼ完形		2.60		10前		,
170		峯ヶ谷戸	37住	覆土	完形	15.60	2.80		10前		,
愛川町		平 / 日 /	TOTAL	112.11	100/12	10.00	2.00	0.20	1000		
171		半原屈中原	遺構外		断片	(5.80)	2.80	0.30		<u> </u>	00『半原屈中原遺跡』
清川村		一十水油干水	J.图1件7下		I ROLL	(3.00)	2.00	0.50			00 1十家伍千家追跡』
		Term	The second second second			1 (a aa)	1				Pale North H. 70/. 1
172		馬場	No 6地区遺構外		11-011	(8.60)	3.60	0.30	a. V.		95『宮ヶ瀬遺跡群』V
		表の屋敷	No 7地区9住	覆土	断片	(9.50)	2.60	1.40	9前		97『宮ヶ瀬遺跡群』 XIII
城山田									- i		
	鍬鋤先		第4地区1住	床直	ほぽ完形		21.00		10後		89『法政大学多摩校地城山地区風間遺跡群発掘調査報告書』
175		風間	第4地区1住	東竈	欠損	(15.80)	3.70		10後		"
176		風間	第4地区1住	床直	欠損	(12.70)	2.50	0.30	10後		"
相模原	原市										
177	鎌	谷原	4住	覆土	ほぼ完形	(16.80)	3.60	0.20	9後~10前		72『谷原』
	穂摘具	相原二本松	2住	覆土	ほぼ完形	(10.50)	2.10	2.00			79『相原二本松遺跡発掘調査報告書』
179	鍬鋤先	相原田ノ上	13住	覆土	完形	11.20	12.50	0.60	10~14前		80『相原田ノ上遺跡発掘調査報告書』
180		相原田ノ上	13住	覆土	欠損	(14.00)	3.50	0.60	10~14前		,
181	鎌	相原森ノ上	遺構外		完形	8.00	8.10	0.60			01『相原森ノ上遺跡』

-61-

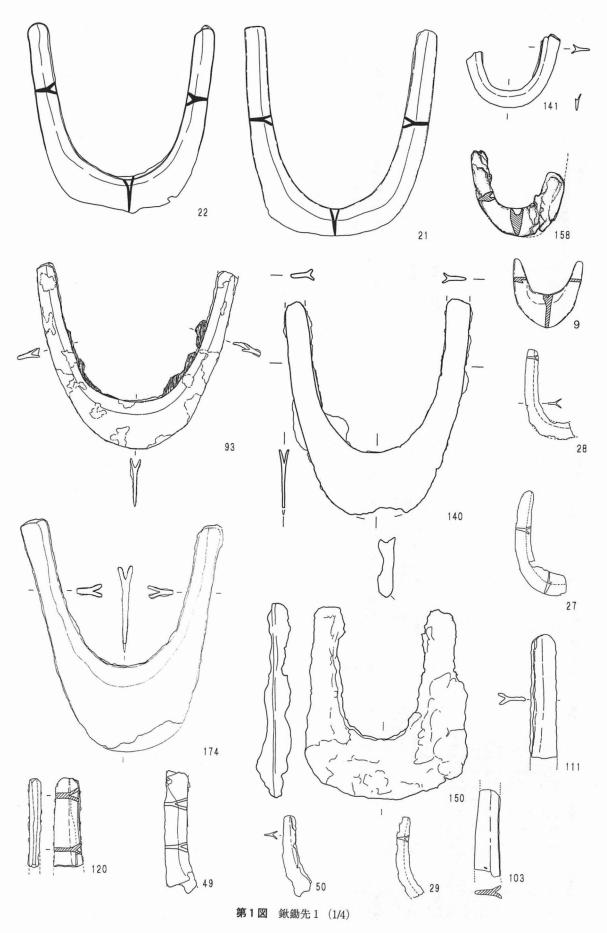
M	即延力	(ttr_L \sh.4#t	ULLALBE	VB-#4020	法	量(ci	m)	\# 4# n+ #0	## ##	-t-+h &
No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置		長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
182		矢掛・久保	18区25住	床直	欠損	(8.80)	2.30	0.40	11		89『矢掛・久保遺跡の調査』
183		矢掛・久保	18区遺構外	覆土	完形	7.50	(6.20)	0.50			*
184	鎌?	田名稲荷山	13住	床直	断片	(1.90)	(2.40)	0.25	10前		86『田名稲荷山遺跡』
185		田名塩田原地区	12住		完形	19.90	4.20	0.30	平安		93『田名塩田原遺跡群田名塩田原遺跡(資料編)』
186		田名塩田原地区	18住			(12.10)	4.00	3.00	平安		"
	鍬鋤先	田名花ヶ谷戸地区	1住		ほぼ完形	9.20	8.30	1.40	平安		"
188		当麻	第1地点6住	床直	欠損	(7.10)	1.50	0.30			77『当麻遺跡 上依知遺跡』
189		当麻	第1地点9住			(10.00)	3.60	0.60			"
190	鎌	当麻	第1地点9住			(11.00)	2.50	0.60			"
191	鎌	当麻	第3地点26住	床直	断片	(3.90)	1.90		9~10前		"
	穂摘具	当麻	第1地点2住		ほぽ完形		1.60	0.20			"
193		大島下台	1住			(18.30)	3.50	0.30	9中		04 『平成16年相模原市文化財年報』
194	鎌	相模原市No.69	1住		ほぽ完形		3.80	0.80	9		00『相模原市埋蔵文化財調査報告24』
195		中村	B地区1住		完形	20.20	3.50	0.40	平安		87『中村遺跡』
196		中村	B地区1住	467	断片	(2.60)	1.90	0.25	平安		"
E間i	Ħ										
197	鎌	米軍キャンプ座間地区内	1住	床直	完形	19.40	3.32	0.50	9前	1	00 『米軍キャンプ座間地内遺跡発掘調査報告書』
		平和坂	5住		ほぼ完形	(9.80)	2.30		9後~10前		00『平和坂遺跡』
和ī		CR.	15.34								
199	鎌	下和田下ノ原	Bトレンチ		断片	(4.50)	2.60	0.30			91『下和田下ノ原遺跡』
200	鎌	下鶴間甲一号	Ⅲ地区7住	覆土	欠損	(7.30)	(3.30)	0.15	古墳後~奈良		91 『下鶴間甲一号遺跡』
201	鎌	下鶴間甲一号	Ⅲ地区7住	床直	欠損	(7.50)	(2.30)		古墳後~奈良		"
202	鎌	深見神社南	2住		断片	(5.70)	(2.20)	0.25	8後~9前		91 『深見神社南遺跡』
203	鎌	台山	4住	覆土		(13.00)	2.60		10後		85『台山遺跡』
204	鎌	大塚戸	10住	覆土	完形	16.20	3.00	0.35	10前		94『大塚戸遺跡B地点・C地点』
205	鎌	大塚戸	10住	覆土	断片	(6.10)	2.90	0.35	10前		"
技瀬 下				1.15			- 122	1. 12	77.0		
206	鍬鋤先	宮久保	1号集積地点		断片	(15.70)	2.90	1.50	奈良~平安		90 『宮久保遺跡Ⅲ』
207	鎌	宮久保	15住		断片	(6.40)	3.80	0.30			"
208	鎌	宮久保	28住		断片	(7.10)	1.60	0.20			"
209	鎌	宮久保	56住		欠損	(8.40)	3.60	0.20	8後		"
210	鎌	宮久保	60住			(12.80)	3.90	0.50	8後	V	"
211	鎌	宮久保	63住	床直		(11.20)	4.40	0.20	8後		"
212	鎌	宮久保	63住	床直	欠損	(9.10)	4.40	0.30	8後		,
213		宮久保	82住	床直	欠損	(7.70)	3.10	0.30	8後		,
214		宮久保	107住		欠損	(6.70)	3.40	0.30	9後		"
215	鎌	宮久保	124住		断片	(5.30)	3.20	0.30	10前		"
216		宮久保	124住	床下	断片	(2.60)	1.90	0.25	10前		"
	穂摘具	宮久保	20住		ほぼ完形		2.10		8前		,
	穂摘具	宮久保	35住		ほぼ完形	(11.20)	1.60	0.20			"
	穂摘具	宮久保	41住		断片	(4.60)	2.00	0.20	8前		,
	穂摘具	宮久保	56住	床直	欠損	(9.30)	2.10	0.30	8後		,
	穂摘具	宮久保	56住		断片	(6.70)	1.60	0.30			,
	穂摘具	宮久保	56住		断片	(2.70)	2.10		8後		,
	穂摘具	宮久保	101住		断片	(8.30)	2.00	0.20			,
		宮久保	106住		断片	(4.20)	1.90	0.20	9前		,
		宮久保	111住		ほぼ完形		2.10	0.30	0後		,

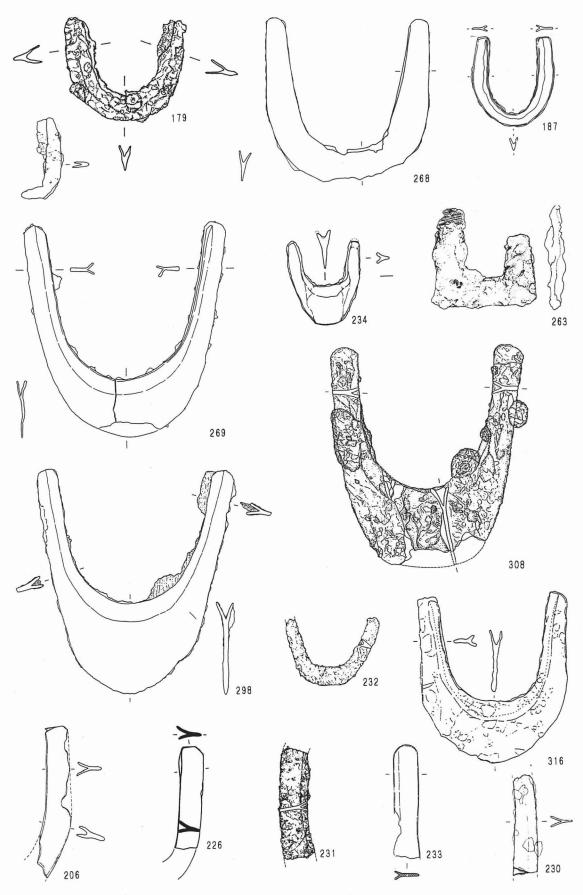
No	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	净为化油	法	量 (c	em)	遺構時期	備考	文献名
No.	210000000000000000000000000000000000000	退奶石	山工退佣	田工四直	退什仏沉	長さ	幅	厚み	退佛吁别	加考	又 版石
老名	名市										
226	鍬鋤先	上浜田	6住	ピット	断片	(11.00)	2.30	1.40	9前		79『上浜田遺跡 本文編』
227		上浜田	90住		欠損	(8.00)	2.00	0.30	8前		"
228		上浜田	90住	竈	完形	16.80	3.40	0.40	8前		"
229	鎌	上浜田	95住	覆土	ほぼ完形	(17.20)	3.60	0.30	8後		,
230	鍬鋤先	本郷	SOW地区2住	床直	断片	(6.90)	2.20			231と重なって出土	88『海老名本郷 (V)』
231	鍬鋤先	本郷	SOW地区2住	床直	断片	(11.60)	3.00				,
	鍬鋤先	本郷	SOE地区遺構外		ほぽ完形	(8.00)	(9.50)	0.70	奈良~平安		89『海老名本郷 (VII)』
	鍬鋤先	本郷	KE地区4住		断片	(11.80)	2.50	0.40	10後		,
	鍬鋤先	本郷	KOE- I 地区遺構外		完形	9.20	7.60				95『海老名本郷 (XI -2)』
	鍬鋤先	本郷	TRC地区20住	床直	断片	(10.40)	2.50	0.20			96『海老名本郷 (XIV)』
236		本郷	DO地区 3住	覆土	完形	10.80	2.10	0.30	8後		88『海老名本郷 (Ⅱ)』
237		本郷	MPN地区13住		完形	14.00	3.20	0.30	平安		"
238	鎌	本郷	OS地区1溝		欠損	(22.00)	6.70		平安~中世?		,
239		本郷	SOE-Ⅱ地区30住	周溝	断片	(8.30)	3.00				87『海老名本郷 (Ⅲ)』
240		本郷	SOE-Ⅱ地区41住	77	断片	(6.50)	2.70		平安		"
241		本郷	SOE-Ⅱ地区54住		断片	(6.20)	3.70			V	"
242		本郷	KOE地区36住	覆土	完形	18.90	5.00	0.22	平安		87『海老名本郷 (IV)』
243		本郷	SOE-Ⅲ地区3住		断片	(7.20)	(2.60)		平安		89『海老名本郷(Ⅶ)』
44	鎌	本郷	RC地区2住		断片	(13.60)	(2.60)	0.20	奈良~平安		"
45		本郷	RC地区5住	覆土	断片	(4.20)	2.60		奈良~平安		"
46	鎌	本郷	RC地区6住	竈	断片	(6.70)	2.30		奈良~平安		"
47		本郷	KA地区27住		ほぽ完形	(16.50)	3.80	0.20	10前		95『海老名本郷 (XI -1)』
48		本郷	KA地区60住		完形	17.10	3.00	0.20			"
49		本郷	KA地区60住		ほぽ完形	(17.20)	3.20	0.20	10前		"
50		本郷	KOE-I地区27住		断片	(4.40)	2.20				95『海老名本郷 (XI -2)』
51		本郷	KOE- I 地区19土坑		断片	(2.50)	1.80				"
52		本郷	KOE- I 地区遺構外		断片	(2.30)	1.80	0.40			,
53		本郷	TRC地区遺構外		断片		2.80	0.20			96『海老名本郷 (XIV)』
	穂摘具	本郷	MPN地区9住		欠損	(8.70)	1.90		平安		88『海老名本郷(Ⅱ)』
	穂摘具	本郷	SOE-II 地区18住	竈	ほぽ完形	13.20	2.10		平安		87『海老名本郷(Ⅲ)』
	穂摘具	本郷	SOE-Ⅱ地区18土坑		断片	(5.10)	2.00		奈良~平安		,
		本郷	KOE地区6住		断片	(3.20)	(2.00)		平安		87『海老名本郷 (N)』
	穂摘具	本郷	KOE地区36住		完形	9.10	1.60		平安		,
	穂摘具		SOW地区2住	床直	欠損	(8.20)	2.30				88『海老名本郷 (V)』
		本郷	RC地区5住		断片	(4.20)	2.90		奈良~平安		89『海老名本郷(WI)』
		本郷	KE地区32住	覆土	ほぽ完形	(9.70)	1.70		8後~9前		91『海老名本郷(Ⅷ)』
	穂摘具		KE地区2溝	覆土	ほぼ完形		2.00	0.20	平安後期		"
	鍬鋤先?		1住			(11.00)	10.80	1.50			94『海老名市望地遺跡』
64	H -	本郷中谷津、本郷池端			断片	(7.40)	3.30	不明			99『本郷池端中谷津遺跡』
65		本郷中谷津、本郷池端			ほぽ完形		3.40				93『本郷中谷津遺跡第8次調査』
		本郷中谷津、本郷池端			ほほ完形		2.40		9後~10前	marks and	98『本郷中谷津池端遺跡』
		国分尼寺関連	4住	覆土	完形	22.00	18.80	1.40	9	写真のみ	89『相模国分尼寺関連遺跡 第1次調査発掘調査概報』
		大谷真鯨	4住	床直	ほぼ完形	(17.60)	17.00	4.60			92『大谷真鯨遺跡』
		大谷向原	33住		ほほ完形		21.30	1.20			92『大谷向原遺跡』
70		大谷向原	6住		断片	(4.80)	4.10				,
71		大谷向原	7住			(19.40)	4.30				,
272		大谷向原	7住		断片	(6.90)	1.50	0.25			"
73	鎌	大谷向原	12住		断片	(2.70)	2.10	0.20	9前		"

No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遺存状況		量(ci		遺構時期	備考	文献名
				HALLE	A COUNTY OF THE PARTY OF	友さ	幅	厚み			
274		大谷向原	18住		断片	(5.00)	1.70 2.70	0.10	9前		92『大谷向原遺跡』
275		大谷向原	22住		完形	18.50		0.25			"
276		大谷向原	22住		完形	18.60	3.30	0.15			
277		大谷向原	57住	197	完形	12.60 (7.00)	1.80	0.20			,
278		大谷向原	62住		断片		2.70				"
279	録	大谷向原	62住		断片	(4.10)	4.15 2.60	0.20	8前	the state of the s	,
280		大谷向原	64住		断片	(8.40)		0.20			
281		大谷向原	82住		断片	(4.90)	(2.30)	0.20			"
282		大谷向原		1907		(6.00)		0.25			,
283		大谷向原	89住	18.3	断片		1.60			I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	
284		大谷向原	90住	- Mari	欠損	(11.10)	2.20	0.20			,
285		大谷向原	91住		断片	(5.30)	1.90	0.10			,
286		大谷向原	91住	1 100	断片	(7.00)	1.90	0.10			,
287		大谷向原	95住	-	断片	(5.40)	2.50	0.10			,
288		大谷向原	141住		断片	(3.10)	(2.25)		9後~10前		,
289		大谷向原	遺構外	(4)	完形	17.60	2.75	0.20			,
290		大谷向原	遺構外		断片	(5.60)	2.60	0.20	0.1/-		,
		大谷向原	64住		ほぼ完形		1.70	0.10			//
292		大谷市場	9住	覆土	欠損	(9.20)	4.00	0.30			03『大谷市場遺跡発掘調査報告書』
293		大谷市場	10住	覆土	欠損	(8.80)	3.60	0.30			,
294		大谷市場	32住	覆土	欠損	(6.80)	3.00	0.20	7後		"
茅ヶ山	奇市										
295	鎌	上ノ町	12住	覆土	欠損	(7.90)	(1.90)	0.30	8前		03『上ノ町遺跡』
296		西方A	33住	覆土	ほぼ完形	(15.60)	3.00	0.50			03『下寺尾西方A遺跡』
297		西方A	12掘立	177	断片	(4.40)	2.00	0.30	8前		"
寒川田					1106	100	7,11		Water I	*	
		倉見才戸	8土坑	覆土	ほぼ完形	(22.70)	20.50	1.80	7後~8前	T	01『倉見才戸遺跡第4次調査発掘調査報告書』
接沢ī		启元4 戸	01.96	12.1.	VAVA JUIJ	(20.10)	20.00	1.00	TIX ON		01 1 名允才广及欧州47人的主允州的土北口自。
		In	Lan	Laur I	Let Let also me	1/11 00)	(0.00)	(0.50)			or Petrypole L. (I. II. 200 de til the de Alexa (Ir. II.
	穂摘具		1住		ほぼ完形		(2.00)	(0.50)	Sec. 577.		95『藤沢市文化財調査報告書 第30集』
300		大庭築山	401住	床直	完形	14.50	2.00	0.40			71『藤沢市文化財調査報告書 第16集』
301		川名清水	704A住	周溝	欠損	(9.70)	2.80	0.20	8		00『藤沢市川名清水遺跡発掘調査報告書』
302		西部212地点	4住	床直	断片	(2.60)	(2.60)	0.25			92 『藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書 西部213地点遺跡』
303		西部212地点	13住		欠損	(8.60)	(3.50)	0.30			,
304		西部212地点	27住		完形	8.80	2.70	0.30	平安		*
305		西部215地点	遺構外	- 1	欠損	(9.00)	4.00	0.20			83 『藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書 西部215地点遺跡』
306		大源太	34住		完形	15.20	3.30	0.30			84『大源太遺跡の発掘調査』
307		長後上ノ原	2住		欠損	(8.50)	(2.80)		9後~10		99『藤沢市長後上ノ原(No.372)など遺跡発掘調査報告書』
	鍬鋤先		遺構外		ほぼ完形		20.50	1.20			80『池の辺』
309		池の辺	72住	篭	欠損	(8.30)	2.70	0.25	1. 25		"
		池の辺	2住	竈	完形	9.50	1.90	0.20			*
311		若尾山	11住	88	欠損	(14.10)	3.30	0.35	7後~8前	W 3	98『若尾山(藤沢市No.36)遺跡 藤沢市立大道小学校内地点』
312	鎌	若尾山	11住	ust.	ほぼ完形		3.70		7後~8前		*
313	鎌	若尾山	25住	覆土	欠損	(8.30)	2.20		7後~8前		"
314	鎌	若尾山	25住	覆土	断片	(3.20)	(3.40)	0.30	7後~8前		"
鎌倉市	त्तं										
		台山藤源治	遺構外		完形	16.90	3.40	0.30	奈良~平安	左鎌	85『台山藤源治遺跡』
315										Factor FF HT	The transmit of the county
315		由比ヶ浜中世集団墓地	遣 構外	-(L - 10-	完形	18.20	15.60	1.20	SHI		96『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書(第1分冊・古代編

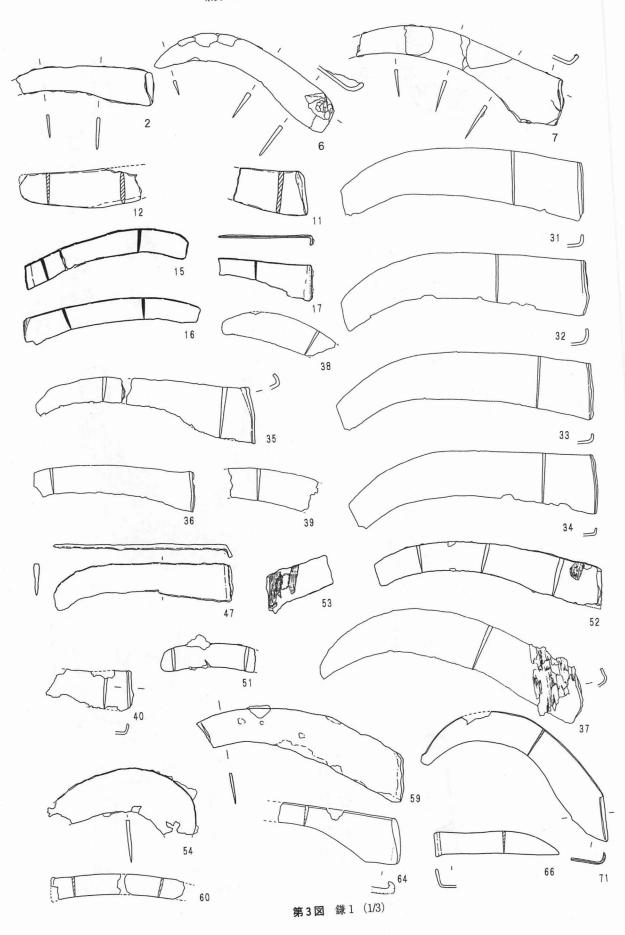
-64 —

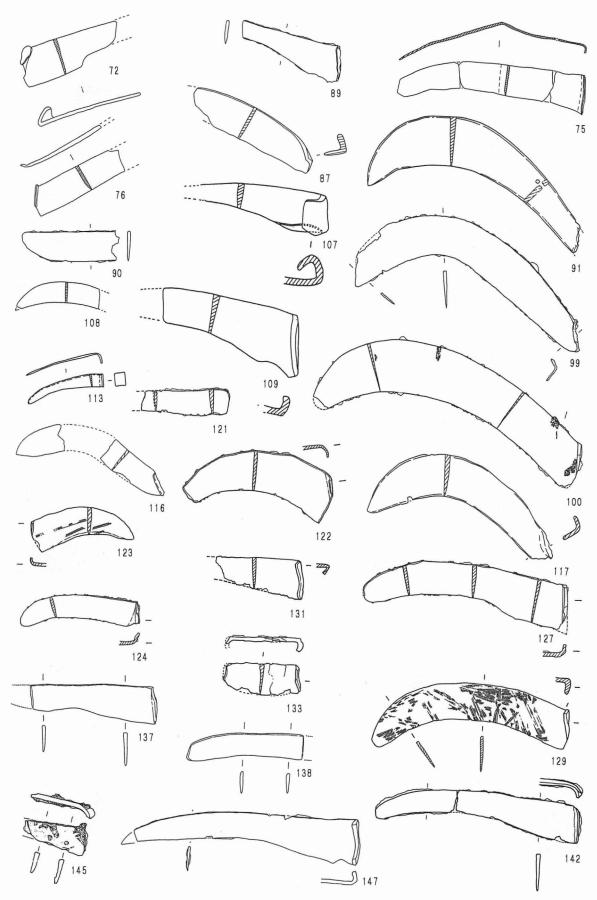
N-	即種力	· 电D士力	山上海株	山上片墨	净产作油	法	量(cr	n)	V.中.4林 n土 廿0	烘土	女共々
No.	器種名	遺跡名	出土遺構	出土位置	遵 仔 (不) (汇)	長さ	幅	厚み	遺構時期	備考	文献名
318		由比ヶ浜中世集団墓地	1住		完形	16.30	1.20	0.33	8前		97 『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書<第一次調査>(第1分冊・古代編)』
319	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地	19ピット		欠損	(14.70)	3.00	0.30	8後~9前		96『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書 (第1分冊・古代編)』
320	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地			断片	(6.20)	2.90	0.40	8中以降		,
321	鎌	由比ヶ浜中世集団墓地			完形	15.00	1.90	0.34	8前		"
322		由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		断片	(8.20)	2.20	0.40	8前~10		,
323		由比ヶ浜中世集団墓地			断片	(4.90)	3.20	0.60	8後~9		"
		由比ヶ浜中世集団墓地			完形	14.10	2.00	0.31	8		"
325		由比ヶ浜中世集団墓地			欠損	(6.60)	1.10	0.30			"
		由比ヶ浜中世集団墓地			完形	10.10	1.60	0.20	9前		"
327	穂摘具	由比ヶ浜中世集団墓地	遺構外		完形	10.20	1.80	0.20	8後~9		"
逗子ī											
328	鎌		No 4地点1溝		断片	(7.50)	2.30	0.20			『池子遺跡群VⅢ』
329			No 4地点1溝		断片	(5.10)	(2.60)	0.20			"
330			No 9地点遺構外		欠損	(8.60)	(2.90)		奈良~平安		『池子遺跡群V』
331	鎌	池子	No 9地点遺構外		欠損	(8.20)	(2.50)	(0.15)	奈良~平安		"
横須貧	賀市										
332	鎌	コウロ	1住	覆土	ほぽ完形	15.00	2.60	0.20	9以降		97 『横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
333		コウロ	1住	覆土	欠損	18.80	3.60	0.30	9以降		"
334	鎌	内原	J地区3住	覆土	断片				古墳後~平安	写真のみ	03『長井台地遺跡群 内原遺跡』
335	鎌	内原	J地区5住	覆土	断片				古墳後~平安	写真のみ	,
336	鎌	小荷谷	1竪穴状	覆土	完形	16.50	3.90	0.23	古墳後~平安		94 『小荷谷遺跡』
337		上吉井南	4住	床直	完形	17.00	3.50	0.50			97『吉井・池田地区遺跡群 I 』
	鎌	上吉井南	4住	床直		(12.00)	3.50	0.50	平安		//
339	鎌	上吉井南	遺構外		断片	(3.90)	2.90	0.20	平安		"



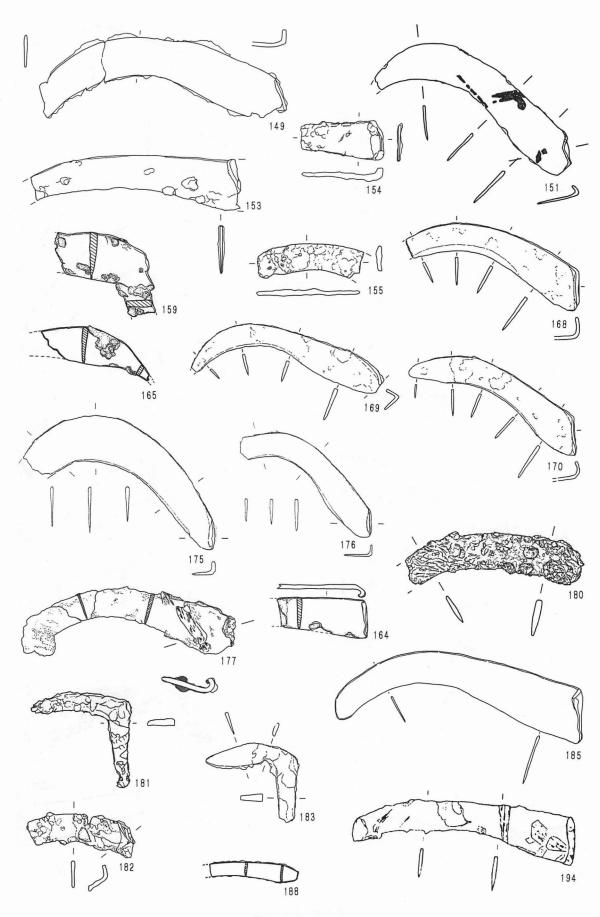


第2図 鍬鋤先2 (1/4)

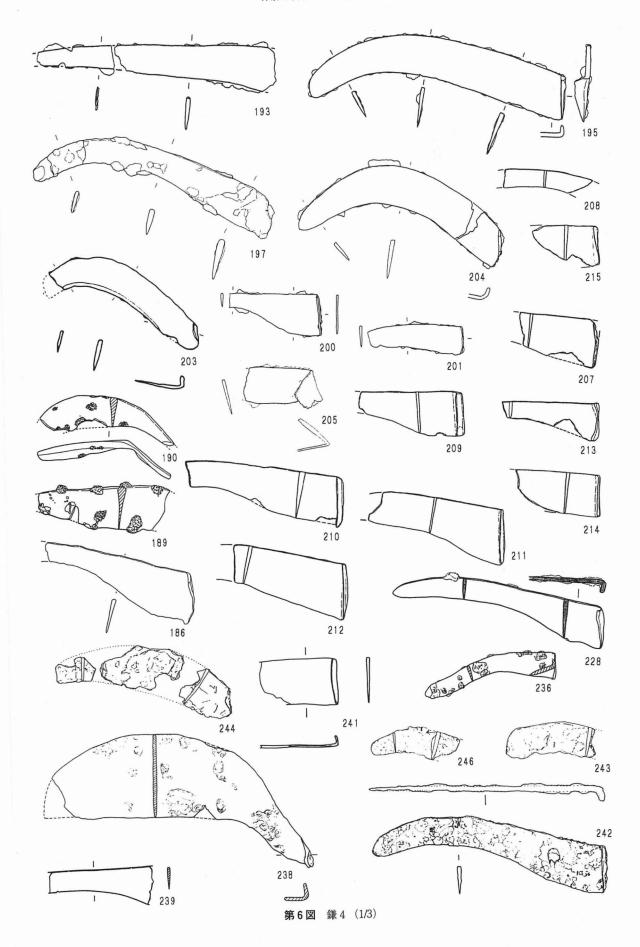


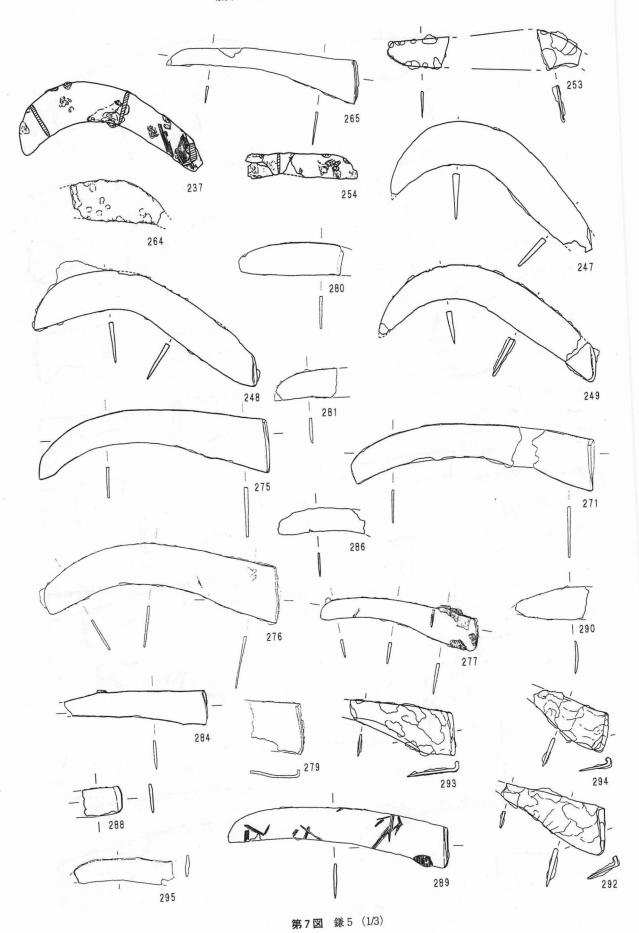


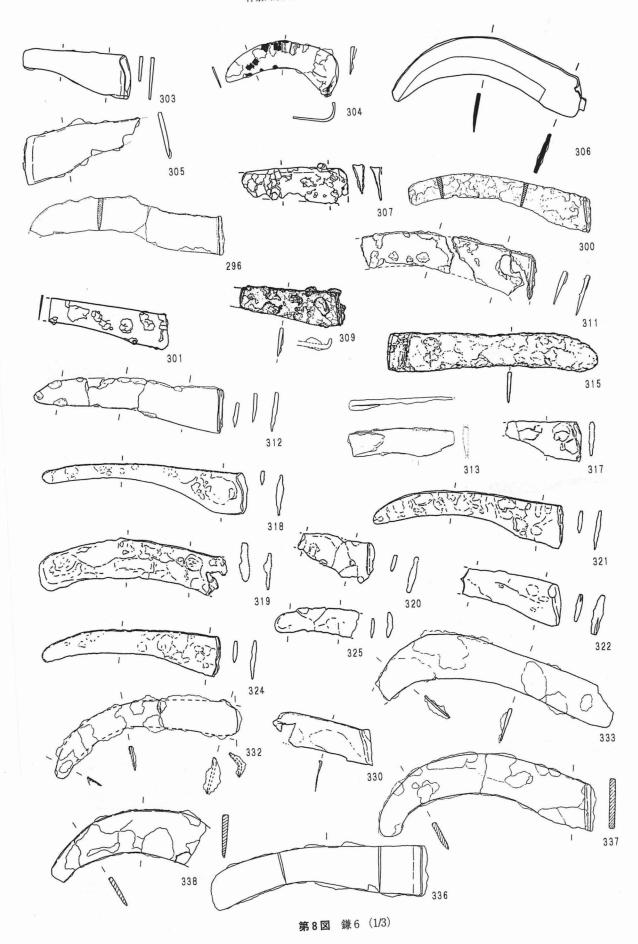
第4図 鎌2 (1/3)

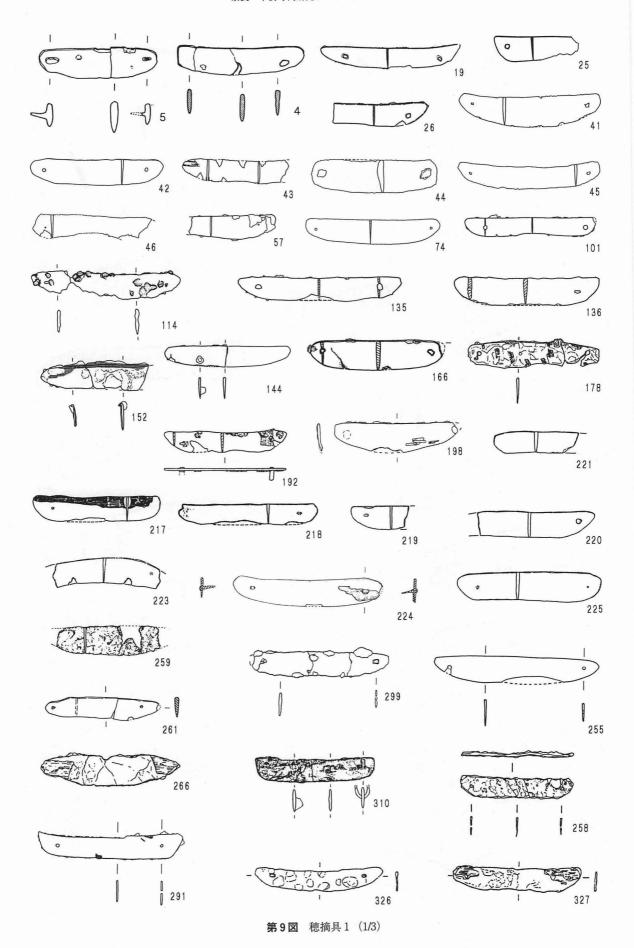


第5図 鎌3 (1/3)









神奈川県内の「やぐら」集成(4)

- 「やぐら」出土の土器・陶磁器類について-

中世研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトでは、平成14年度から、中世の神奈川を特色づける遺構である「やぐら」の共同研究を行っており、これまで基礎的なデータの集成を主に行ってきた。14年度は発掘調査が実施された「やぐら」に関する調査データの集成を行い、15年度は上行寺東やぐら群を中心とする横浜市南部地域の「やぐら」群を対象に、分布状況、形態的特徴、出土遺物等から検討を加えた。昨年度は「やぐら」から出土する遺物の検討の端緒として、石塔類のデータ収集を行った。今年度は当初、昨年度収集したデータを元に、石塔類の分布やあり方について検討を行う予定であったが、その前に「やぐら」から出土する遺物の基礎的なデータ集成が必須と考え、今年度は「やぐら」出土の土器・陶磁器類についてデータを集成することとした。

来年度以降、これらのデータを元に「やぐら」出土遺物の特徴や、出土遺物から見た「やぐら」の様相について検討を加えていきたいと考えている。

なお、今回データ収集対象とした調査事例の中には、平成14年度集成以後に発行された報告書に基づく者 や、前回集成で遺漏があったものも含まれている。これらについては新たに遺跡(調査)番号、文献番号を 付し、補遺として末尾に掲載した。

「やぐら」出土土器・陶磁器類集成表 例言

- 1. 本集計表は2005年12月現在公刊されている発掘調査報告書に基づき、「やぐら」及び「やぐら」に類する遺構から出土した土器・陶磁器類を集成したものである。
- 2. 発掘調査報告以外の、分布調査、資料紹介等で報告されているものは除外した。
- 3. 一覧表は横浜市、鎌倉市、横須賀市、逗子市、三浦市、葉山町の順に作成した。
- 4. 遺跡番号は平成14年度紀要(「やぐら」集成 (1))および平成16年度紀要(「やぐら」集成 (2))と同じ番号を付している。2005年1月以降に報告書が刊行された調査例および遺漏分は新たな番号を付している。
- 5. 文献番号は後出の文献一覧と対応する。
- 6. 出土遺構名は報告書記載の遺構名に従った。
- 7. 出土遺物の種別・器形名称は原則として統一しており、報告書と異なる場合がある。しかし、限定が困難な場合、報告書の記載に準じて標記しているものもある。
- 8. 明らかに中世の所産ではない古代以前、近世以降の出土遺物については割愛した。
- 9. 年代は報告書の記載に準じた。報告書に具体的な年代の記載がないものについては、図面・写真からの推定したものもある。
- 10. 出土点数は報告書に数量の記載があるものはその合計数、ないものは図示されているものを計数した。このため、必ずしも統一的な基準による出土量(数)を表してはいない。

中世研究プロジェクトチーム

第1表 「やぐら」出土土器・陶磁器類一覧表

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号	
釜利谷やぐら群	7号窟	かわらけ1		1	
	第3号やぐら	かわらけ 6	15世紀後半		
順戸町やぐら群	第4号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ1	15世紀後半以降		
金龍院やぐら群)	第5号やぐら	瀬戸窯折縁深皿1、筒形容器1、常滑窯甕 1、かわらけ4	14世紀後半~15世紀後半	2	
	第9号やぐら	常滑窯甕1	15世紀後半		
- 4-	1号窟	瀬戸窯甕錆釉擂鉢2・灰釉鉢1・皿1、常滑 窯甕3、かわらけ21、瓦質三宝1・土風呂1	15世紀·16世紀	3	
	2号窟	青磁大皿1、青白磁梅瓶1、瀬戸窯灰釉折腰 皿1、かわらけ2	15世紀	3	
	19号やぐら	古瀬戸灰釉巴文瓶子1、鉄釉仏花瓶1、灰釉 鉢または皿1、常滑窯壺1、甕1、捏鉢2、 かわらけ17	14世紀中頃~16世紀初頭 以降		
	20号やぐら	常滑窯玉縁口縁壺1、鉢1、かわらけ6	14世紀代、15世紀後半以 降		
	21号やぐら	景徳鎭窯青白磁蓋1、常滑窯捏鉢1、かわら け8	14世紀後半~16世紀前半		
	22号やぐら	古瀬戸灰釉劃花文瓶子1、常滑窯玉縁口縁壺 4、常滑窯壺1、甕1、かわらけ48	14世紀中頃~16世紀初頭		
	23号やぐら	常滑窯片口鉢1、瓦質火鉢1、かわらけ11	14世紀後半~15世紀前半		
	41号やぐら	白磁碗1、かわらけ1	14世紀中頃~後半		
	9号やぐら	古瀬戸縁釉小皿1、常滑窯甕7・片口鉢1、 備前擂鉢1、かわらけ15	14世紀後半~16世紀初頭		
	10号やぐら	龍泉窯青磁小皿1、古瀬戸灰釉端反小皿1、 常滑窯甕4、山茶碗窯系捏鉢1、羽釜1、か わらけ12	14世紀後半~16世紀初頭		
上行寺東やぐら群	12号やぐら	かわらけ 2	15世紀前葉~中葉		
	13号やぐら	かわらけ3	15世紀中頃~後半		
	24号やぐら	常滑窯玉縁口縁壺2、かわらけ7	14世紀後半~15世紀前半	4	
	17号やぐら	古瀬戸灰釉三耳壺 1	15世紀初頭	-	
	18号やぐら	からわけ4	15世紀後半	• ,	
	43号やぐら	古瀬戸灰釉菊花文瓶子1、古瀬戸灰釉水注1	14世紀後半~15世紀前半		
	1号やぐら	古瀬戸鉄釉肩衝き茶入1	14世紀後半~15世紀前半		
	14号やぐら	龍泉窯系連弁文青磁碗1、古瀬戸縁釉皿1、 山茶碗窯系片口鉢1、常滑窯甕1、かわらけ 4			
	26号やぐら	かわらけ 2	14世紀後半		
	33号やぐら	かわらけ3	15世紀後半		
	34号やぐら	灰釉古瀬戸瓶子1・鉄釉花瓶片1・鉄釉蓮弁 文香炉1・灰釉広口壺1・灰釉鉢1、常滑窯 鳶口壺2・不識(広口壺)1、玉縁口縁壺 1、かわらけ15	14冊紀字費~15冊紀初頭		
	35号やぐら	古瀬戸灰釉劃花文広口壺1・鉄釉合子身1・ 灰釉尊形花瓶1・直縁大皿2、常滑窯甕、瓦 器花瓶・火鉢	14世紀前半~15世紀前半		
	36号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ1、瓦器火鉢	14世紀後半~15世紀中頃		

神奈川県内の「やぐら」集成(4)

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献 番号	
	37号やぐら	中国製白磁碗1、古瀬戸灰釉袋物1、燭台片 1・灰釉直縁大皿1、白かわらけ1、常滑窯 片口鉢1・鳶口壺1・甕5・片口鉢、瓦器火 鉢2、かわらけ16	13世紀第3四半期~15世	2	
上行寺東やぐら群	38号やぐら	常滑窯片口鉢1、瓦器火鉢1、中国製鉄釉器 台1、かわらけ3	15世紀~16世紀前半	4	
上行守果やくら研	39号やぐら	古瀬戸灰釉瓶子1・緑釉小皿1・卸皿1、常 滑窯甕3、羽釜瓦器火鉢4、かわらけ14	14世紀初頭~16世紀初頭	4	
	40号やぐら	古瀬戸灰釉袴腰形香炉・灰釉筒形香炉・卸皿・灰釉直縁大皿、常滑窯片口鉢1・甕6、かわらけ9			
	1号やぐら	かわらけ99	15世紀後半~16世紀前半		
小法上举命かる野	6号やぐら	かわらけ3	15世紀後半~16世紀前半	-	
六浦大道やぐら群	8号やぐら	かわらけ 9	15世紀後半~16世紀前半	5	
	15号やぐら	かわらけ1	15世紀後半~16世紀前半		
六浦北部遺跡	第9号横穴	かわらけ3、常滑系蔵骨器1		6	
六浦三艘地区やぐら 群	第2号やぐら	かわらけ	17世紀初頭	7	
	第4号やぐら	かわらけ4	14世紀前半~中葉		
	第9号やぐら	かわらけ 5	14世紀前半~中葉		
	第13号やぐら	瀬戸窯香炉1、かわらけ2	14世紀前半~中葉		
	第14号やぐら	かわらけ3	14世紀初頭~前半	8	
	第15号やぐら	かわらけ2	14世紀中葉		
	第17号やぐら	かわらけ1	14世紀後半以降		
	第19号やぐら	かわらけ2	14世紀後半		
十二所稲荷小路遺跡	1号窟	常滑窯甕1、かわらけ	14世紀前半~中葉		
内やぐら	2号窟	かわらけ1	*	9	
	1号窟(前面)	かわらけ2、瓦1			
	2号窟(前面・玄 室)	瀬戸窯灰釉片口鉢・鉄釉擂鉢、かわらけ2、 瓦2		10	
霧ヶ沢やぐら群	3号窟	瀬戸窯鉄釉瓶1、瓦2			
	4 号窟	常滑窯甕、かわらけ17	14世紀	11	
	3号窟西側	かわらけ3、瓦13			
光触寺旧境内遺跡内 やぐら	4 号窟	かわらけ4	14世紀後半	12	
光触寺橋やぐら	1号やぐら	かわらけ 7	14世紀中葉	13	
	1号やぐら	常滑窯甕片5、かわらけ10	15世紀末~16世紀初頭		
明石谷やぐら群	3号やぐら	常滑窯甕片3、かわらけ3	15世紀末~16世紀初頭	14	
	1 号窟	常滑窯甕3、かわらけ1	14世紀後半	15	
	1号やぐら	かわらけ11、平瓦1、丸瓦2	14世紀中葉~15世紀中葉		
明石谷東やぐら群	2号やぐら	瀬戸窯直淵大皿1	16世紀	16	
	1~3号窟・前面 遺構	瀬戸窯灰釉水注1・碗1、瓦質器、かわらけ 25	11.	17	
	2号窟前面	瀬戸窯行平、かわらけ	15世紀代~近世以降	18	
	1号窟	かわらけ8	14世紀後半~15世紀前半	10	
ジカ座駅跡内やくら - 2	2 号窟	龍泉窯系青磁鎬連弁文碗1、瀬戸窯鉄釉天目 碗1、かわらけ4	14世紀後半~15世紀前半	19	
	3号窟	瀬戸窯灰釉折縁鉢1・卸皿1、備前窯擂鉢 1、瓦質器1、かわらけ13	14世紀後半~15世紀前半		

中世研究プロジェクトチーム

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
公方屋敷跡内やぐら	第2平場	青磁連弁文碗1・碗1、瀬戸窯灰釉折縁鉢 1・入子、常滑窯甕・片口鉢、山茶碗窯系片 口鉢、かわらけ4617、かわらけ質小壷1	14世紀後半~15世紀前半	19
宅間ヶ谷やぐら群	1号窟	かわらけ2、瀬戸窯灰釉瓶子1、常滑窯片口 鉢2、瓦質手焙り1、瓦1	14世紀後半	20
	やぐら上平場	常滑、かわらけ		3.44
報国寺遺跡内やぐら	de la	かわらけ 1	16~17世紀?	21
宅間谷西第2やぐら	1号やぐら	常滑窯大甕2、かわらけ32、瓦器土風呂1	14世紀前半~15世紀後半	22
群	3号やぐら	常滑窯甕8、かわらけ2	14世紀末~15世紀前半	23
ンクロロナ GD Yes 北 、 A Yes	第1号やぐら	かわらけ13、常滑窯甕2、鉄釘1	14世紀前半	
浄明寺釈迦堂ヶ谷遺 跡	第2号やぐら	瀬戸窯鉄釉陰花文水滴1、備前窯擂鉢1、かわらけ43		24
瑞泉寺周辺遺跡内や	1号窟	瀬戸窯灰釉碗1、常滑窯甕、かわらけ29	15世紀中葉	0=
ぐら	2号窟	かわらけ 1		25
紅葉ヶ谷南やぐら群	第1号やぐら	白磁皿1、瀬戸窯縁釉皿2・直縁大皿2・折縁深皿1、常滑窯甕8・片口鉢1、かわらけ83・かわらけ質燭台1、蓋1、滑石製石鍋1、瓦	13世紀~15世紀後半	26
	第2号やぐら	瀬戸窯天目茶碗1、瓦質火鉢1、かわらけ4	15世紀前半~後半	
	1号やぐら	瀬戸窯志野釉皿1、灰釉小壺1、かわらけ1 7、瓦器香炉1、火鉢1	15世紀後半~16世紀代	27
	3号やぐら	瀬戸窯灰釉平碗2、かわらけ5	14世紀後半~15世紀後半	
覚園寺総門跡東やぐ ら群		龍泉窯系青磁皿1・碗1、瀬戸窯灰釉直縁大 皿1・瓶子1・他2、常滑窯甕4、山茶碗窯 系片口鉢1、かわらけ8、	15世紀	28
	5号やぐら	瀬戸窯灰釉折縁皿 2、常滑窯甕 2、かわらけ 4	14世紀前半~後半	29
	1号やぐら	瀬戸窯灰釉輪花入子1、瓦質火鉢2、かわら け4	13世紀末~14世紀中葉	
会下山西やぐら群	2号やぐら	青白磁鉢1、白磁碗1、瀬戸窯灰釉鉢1、山 茶碗窯系片口鉢1、伊勢系土鍋1、かわらけ 7、瓦器1	13世紀末~14世紀前半	30
天王寺跡やぐら	1号窟	白磁碗1・不明1、龍泉窯系青磁連弁文碗2、碗4、青白磁1、褐釉壷2、瀬戸窯灰釉 折縁皿2・鉄釉瓶子1・鉄釉仏華瓶2・灰釉 水注1、常滑窯甕3・片口鉢1、瓦質器3、かわらけ295、土師質手焙り1、瓦1		31
	2号窟	龍泉窯系青磁1、瀬戸窯製品1、常滑窯甕 5、瓦質器1かわらけ36、		
天王寺跡やぐら	窟	青白磁碗1、瀬戸窯灰釉筒型容器1・瓶子 1・折縁皿1・常滑窯片口鉢1・甕1、瓦質 器燭台脚1・火鉢1・香炉1、かわらけ23		32
3. 180 19	平場	龍泉窯系青磁碗1、瀬戸窯灰釉製品1・折縁 皿(転用)1、常滑窯甕2、かわらけ57	14世紀~15世紀	32
上众英皮 11. 冲吐	1号やぐら	瀬戸窯灰釉腰折皿1・碗、常滑窯壷1・甕 3・片口鉢1、瓦質器2、かわらけ20、瓦1	14世紀?	33
大倉幕府北遺跡	2号やぐら	青白磁梅瓶1、瀬戸窯灰釉碗2・卸皿1、常 滑窯甕2、かわらけ21、瓦1	14世紀?	
大倉幕府北やぐら群	1号やぐら	白磁四耳壺 5、瀬戸窯折縁皿1・盤1、美濃 系山茶碗1、渥美窯甕26、備前窯擂鉢2、常 滑窯甕96・片口鉢2、かわらけ710、瓦質火 鉢7、丸瓦1、平瓦2	13卅紀後坐~15卅紀初頭	34
	2号~5号やぐら	かわらけ235	13世紀後半~15世紀	

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献 番号
杉本城跡内やぐら	1号窟	常滑窯製品		35
インイト・外入助 (1) (1 つ	2号窟	かわらけ411	14世紀中葉~末	33
杉本寺南やぐら		かわらけ		36
	1号窟	白磁碗1、龍泉窯系青磁皿3・華瓶1、瀬戸窯灰釉仏華瓶1・灰釉瓶子1・鉄釉鉢1、常滑窯甕42・片口鉢1、渥美窯甕2、瓦質器5、かわらけ249、瓦2		Į.
	2号窟	瀬戸窯製品3、常滑窯甕33・片口鉢3、山茶 碗窯系片口鉢、備前窯擂鉢、瓦質器1、かわ らけ39		
	3 号窟	常滑窯甕4、かわらけ45		
杉本寺周辺遺跡内や ぐら	4 号窟	青白磁水注1、瀬戸窯灰釉折縁皿1・黒釉天 目碗1・長石釉天目碗1・灰釉擂鉢1・鉄釉 擂鉢1・壺類、常滑窯甕91・片口鉢3、備前 窯擂鉢1、瓦質器9、かわらけ600、瓦1		37
	5 号窟	白磁1、龍泉窯系青磁1、瀬戸窯灰釉折縁皿 2・灰釉卸皿1・灰釉茶入1・鉄釉仏華瓶 2、常滑窯甕36・片口鉢4、かわらけ529、瓦 2、瓦質器		
	窟前溝(1,2号窟 間)	瀬戸窯灰釉折縁皿3・灰釉製品1、常滑窯甕 14・片口鉢3、東海系鍔釜1、伊勢系土鍋 1、瓦質灯明皿1・瓦質器3、かわらけ157		
	窟前溝(3,4号窟 間)	瀬戸窯灰釉皿1、常滑窯甕2・片口鉢2、かわらけ45、瓦1		
	1号やぐら	常滑窯甕12、瓦質火鉢3、かわらけ4	14世紀後半~16世紀初頭	
-1 6 71	2号やぐら	かわらけ127、伊勢系鍔釜 1	14世紀後半~15世紀	
	3号やぐら	青磁連弁文鉢1、常滑窯片口鉢1・甕9、かわらけ22	14世紀後半~15世紀前半	
	5号やぐら	古瀬戸広口有耳壺1、常滑窯甕片6、かわらけ8	15世紀~16世紀	i e
	6 号やぐら	白磁口禿皿1、瀬戸窯天目茶碗1・小壺1、 常滑窯甕1、かわらけ200	14世紀前半~15世紀前半	1)
西御門東やぐら群	7号やぐら	青磁連弁文碗2・皿2・盤1・他7、白磁口 禿皿1、瀬戸窯折縁深皿1・折縁皿1・卸皿 3・皿または鉢1・盤1・壺または瓶1・柄 付片口1、常滑窯甕65・広口壺1・鉢16、備 前窯擂鉢2、山茶碗窯系鉢1、かわらけ6526、 瓦質火鉢10・土釜1		38
	8号やぐら	瀬戸窯灰釉皿片1、かわらけ95	15世紀後半~16世紀	
	9号やぐら	青磁碗1・連弁文碗1・皿1・香炉1・酒会 壺蓋1・硯滴1・他3、白磁皿19、青白磁小 壺1・梅瓶1・他1、染付瓶1、舶載系陶器 片5、瀬戸窯平碗1・天目茶碗1・緑釉皿 1・卸皿1・直縁大皿2・皿1・瓶2・擂鉢 1、常滑窯甕・壺83・片口鉢4、かわらけ 2348、瓦質火鉢2・獣足1・香炉1	resection and the second and the sec	
	10号やぐら	青磁連弁文皿1・皿2、瀬戸窯天目茶碗1・ 縁釉皿3・瓶子2・擂鉢1、常滑窯甕1・片 口鉢6、山茶碗窯系片口鉢1、備前窯擂鉢1、 かわらけ58、瓦質火鉢5・脚台2・土釜1	14世紀初頭~15世紀後半	39
名越山王堂跡	やぐら状遺構	龍泉窯系青磁酒会壺3、仏華瓶1、鎬連弁文 碗1、青白磁仏華瓶1、白磁口兀皿1・仏華 瓶2・小壺1・蓋1、瀬戸窯鉄釉筒形茶入 1・灰釉折縁鉢1・灰釉卸皿1、常滑窯甕 12、亀山窯甕3、かわらけ68、滑石製鍋1		40

中世研究プロジェクトチーム

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
	第1号やぐら	かわらけ76	14世紀中葉	41
	1号やぐら	瀬戸窯灰釉四耳壷1・灰釉仏花瓶2・入子1・ 天目茶碗1、常滑窯甕10・捏鉢1、かわらけ 647	13世紀中葉~後半、14世 紀前半	42
	2号やぐら	瀬戸窯壺2、かわらけ11	14世紀中葉	
	3号やぐら	瓦器香炉蓋1·土鍋1、かわらけ22、滑石製 石鍋1	14世紀中葉	
	4号やぐら	かわらけ14	13世紀末~14世紀前半	
山王堂東谷やぐら群	6号やぐら	瀬戸窯天目茶碗1·灰釉壺1、常滑窯甕1·片口鉢1、瓦質火鉢1・脚台1、かわらけ14、平瓦1	15世紀代	43
	7号やぐら	青磁蓮弁文碗1・束口碗1、瀬戸窯小鉢1、 常滑窯甕2、かわらけ3	13世紀後半~15世紀代	44
	8号やぐら	瀬戸窯壺1、常滑窯広口壺1・甕1、かわら け199、瓦質火鉢1・風呂1、平瓦1	13世紀初頭·15世紀前半	
	9号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ29	14世紀末~15世紀前半	
	11号やぐら	瀬戸窯瓶子1点、常滑窯片口鉢2・壺2・甕 11、かわらけ171	14世紀前半	45
八雲神社境内		龍泉窯系青磁坏1、常滑窯壷1・甕5、かわらけ23、瓦1	13世紀末~14世紀	46
弁ヶ谷東やぐら群	第1号やぐら	常滑窯大甕 1	14世紀初頭~14世紀中頃	47
	1号やぐら	瀬戸窯天目碗1・擂鉢1、常滑窯壷1、かわらけ5	17世紀前葉	48
	2号やぐら(玄室)	瀬戸窯天目碗1、常滑窯甕2、かわらけ4、 瓦質器1	14世紀後葉~15世紀前	
	2号やぐら(前庭部)	青白磁梅瓶1、青磁酒会壷蓋1、青磁碗1、 黒釉壷1、瀬戸窯折縁皿1、常滑窯甕5、瓦 質器4、かわらけ7、瓦2	葉、16世紀後半〜17世紀 前葉	
	コ字区画遺構(上 段遺構)	かわらけ14、瓦質器		
新善光寺跡内やぐら	コ字区画遺構(中 段遺構上層)	かわらけ4		
	コ字区画遺構(中 段遺構)	かわらけ8	14世紀後葉	
	コ字区画遺構(中 下段遺構)	かわらけ34	e V	
	コ字区画遺構(下 段遺構)	白磁四耳壷1、常滑窯片口鉢1、かわらけ 7、瓦1	14世紀前半~中葉	
	第1号やぐら	青磁折縁皿1・連弁文碗2・皿8・盤1、白磁碗1・皿2、青白磁皿2、瀬戸窯灰釉折縁皿 1・灰釉平碗1、灰釉卸皿1、鉄釉香炉1、 常滑窯甕6・壺1、かわらけ8	13世紀中頃~15世紀中頃	49
	第2号やぐら	白磁碗1、青白磁皿1、瀬戸窯灰釉折縁深皿 1、鉄釉広口壺1、常滑窯甕2、かわらけ3	14世紀前半・15世紀前半	
弁ヶ谷遺跡やぐら群	1号窟	白磁入子1、瀬戸窯灰釉折縁鉢1・灰釉直縁 大皿1、常滑窯甕、備前窯擂鉢1、瓦質器 1、かわらけ14	Carlo	50
弁ヶ谷やぐら群	第1号やぐら	瀬戸窯縁釉皿1、灰釉卸皿1、かわらけ6、 瓦質火鉢1・土風呂1	14世紀後半~15世紀後半	-51
巨晄土叶中のから野	第1号やぐら	かわらけ18	15世紀後半~16世紀初頭	52
長勝寺跡内やぐら群	3号やぐら	かわらけ片 2		53

神奈川県内の「やぐら」集成(4)

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
長勝寺跡内やぐら群	5号やぐら	瀬戸窯壺1、常滑窯甕2、かわらけ4	16世紀前葉~中葉	53
	6号やぐら	志野鉄絵皿片1、かわらけ2	16世紀後半	
	8号やぐら	常滑窯甕片1		54
	11号やぐら	龍泉窯系青磁香炉1、瀬戸窯擂鉢1、常滑窯 瓶1、かわらけ2	13世紀末~16世紀	
	13号やぐら	かわらけ1		
	14号やぐら	龍泉窯系青磁鉢1、かわらけ2	14世紀·16世紀後半	
	15号やぐら	瀬戸美濃擂鉢1、かわらけ2、瓦質土釜1	14世紀末~16世紀前半	
	16号やぐら	かわらけ 6	16世紀後葉	
	第2号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1・筒香炉1、常滑窯甕1、かわらけ4		55
	第4号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1、常滑窯片口鉢1、瓦1	14世紀	1
	第3号やぐら	かわらけ1		56
帰源院下やぐら群	第6号やぐら	白磁皿1、青磁鉢1、かわらけ1		
	第3号やぐら	かわらけ片		
	第6号やぐら	龍泉窯系青磁鎬連弁文碗1、褐釉壺1、黒釉壺1、黄瀬戸小皿1、常滑窯甕3・捏鉢1、かわらけ7、瓦質火鉢1、土師質火鉢1	13世紀~15世紀	57
工作符号型士 60 / 10 / 10	第3号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1、かわらけ1		58
西管領屋敷南やぐら 群	第5号やぐら	瀬戸窯灰釉鉢1、常滑窯甕1		
行	第3号やぐら	かわらけ1		56
	1号窟・前面平場	かわらけ4		59
	5 号窟墓壙	常滑窯甕1、かわらけ24	15世紀	
	5 号窟	常滑窯甕1		
	6号窟	常滑窯片口鉢2、かわらけ15、滑石製鍋1	14~15世紀	
	6号窟方形土坑1	瀬戸窯鉄釉天目碗、かわらけ206	14世紀	
正法寺遺跡	7号窟	瀬戸窯擂鉢、常滑窯甕、かわらけ33、在地系 土鍋1	15世紀	
X	8 · 9 号窟	かわらけ1	15世紀	
	10号窟	白磁口兀皿1、かわらけ2、瓦質器火鉢1、 瀬戸窯擂鉢1	15世紀~近世	
	11号窟	龍泉窯系青磁鎬連弁文碗1、瀬戸窯灰釉折縁 皿1、かわらけ3	8	
尾藤谷やぐら群	第1号やぐら	瀬戸窯鉄釉壺1、常滑窯甕1、瓦質火鉢1、 かわらけ4	15世紀代	60
	第2号やぐら	白磁皿1、瀬戸窯折縁深皿1・直縁大皿1、 常滑窯甕2、かわらけ14	15世紀代	
	第3号やぐら	羽釜1、瓦質火鉢1、かわらけ6	15世紀代	
	第4号やぐら	青磁連弁文碗1・雷文帯碗1・鎬蓮弁文碗、白磁皿1・八角坏1、瀬戸窯天目茶碗1・灰釉小鉢1・灰釉折縁皿1・灰釉平碗2・鉄釉碗1・鉄釉四耳壺1・褐釉壺1・灰釉緑釉皿1・灰釉卸皿2・灰釉柄付片口1・灰釉深皿1・灰釉燭台1、常滑窯片口鉢2・擂鉢2・甕4、瓦質碗1・火鉢9・香炉1、土鍋2、かわらけ178	13世紀後半~15世紀後 半・16世紀	
	第5号やぐら	白磁皿1、青磁人物像燭台1、瀬戸窯灰釉折緑皿1·灰釉鉢1·灰釉端反碗1·灰釉平碗1、常滑窯甕5、かわらけ29	13世紀後半・15世紀代	

中世研究プロジェクトチーム

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
尾藤谷やぐら群	第6号やぐら	龍泉窯系青磁鉢2、瀬戸窯錆釉擂鉢1、常滑 窯片口鉢2・甕3・壺1、かわらけ19	14世紀後半~15世紀代	60
	第8号やぐら	かわらけ19	14世紀中期~15世紀代	
多宝寺跡やぐら群	第11号やぐら	黒釉広口壷、瀬戸窯小壷、常滑窯壷、かわらけ		
	第12号やぐら	かわらけ		61
	第14号やぐら	常滑窯壷、かわらけ		
	19号やぐら	瀬戸窯灰釉四耳壷・卸皿	13世紀末~14世紀前半	
史跡巨福呂坂内やぐ	1号窟	かわらけ7、常滑窯甕、瓦質器、玉石	15世紀後半~16世紀前半	62
5	2号窟	かわらけ34、瀬戸窯灰釉盤3、玉石	15世紀後半~16世紀前半	62
華光院跡やぐら群		かわらけ35、瓦質器 1	15世紀前半	63
	上部平場遺構	瀬戸窯灰釉平碗1、かわらけ3、銅銭3		
無量寺ヶ谷やぐら群	第1号やぐら	白磁口兀皿1、青磁連弁文碗2・碗1、青白磁碗1、褐釉劃花文壷1、瀬戸窯鉄釉天目碗2・灰釉平碗2・卸皿1・小壷1、常滑窯片口鉢3・甕2、瓦質器手焙り6・灯明台1、かわらけ104		F
	第2号やぐら	青磁連弁文碗2、青白磁梅瓶1、瀬戸窯灰釉 鉢3・盤1・碗3・入子1、常滑窯片口鉢 1・甕3、渥美窯小壷1、かわらけ10、瓦質 器灯明台1		64
	第3号やぐら	瀬戸窯灰釉折縁皿1・水注1、常滑窯片口鉢 1・甕6、かわらけ12	15世紀~16世紀後半	
	第4号やぐら	青白磁皿1、常滑窯甕1、かわらけ53、白かわらけ12、瓦質器	14世紀中葉~15世紀前半	
佐助ヶ谷遺跡内やぐ ら	1号やぐら	瀬戸窯灰釉水注1・折縁深皿2・鉢1・卸皿 1、常滑窯甕6・片口鉢4、瓦質器4、かわ らけ5		65
	2号やぐら	常滑窯片口鉢1、かわらけ1	14~15世紀	
佐助2丁目やぐら群	1 号窟	龍泉窯青磁碗1、瀬戸窯鉄釉茶入、常滑窯甕 2、備前窯擂鉢1、かわらけ619片、	14世紀	66
	1号窟	常滑窯壷1		
	2号窟	かわらけ12		
	3号窟	かわらけ 7		
	4号窟	かわらけ3		
	5号窟	かわらけ2	A-	
	7号窟	かわらけ14		-
松谷寺やぐら	8号窟	かわらけ 6	13世紀末~14世紀前半	67
	11号窟	常滑窯壷1、かわらけ4、瓦	1	
	12号窟	かわらけ4、瓦		
	13号窟	かわらけ 6		1
	やぐら群前面平場	山茶碗系片口鉢1、かわらけ18、早島式土器1		
	1号溝	かわらけ23		
	表採	かわらけ2		
	1号窟	瀬戸窯鉄釉仏華瓶1	14世紀前半	68
佐助ヶ谷遺跡内やぐ ら	2号窟	白磁水注1、瀬戸窯灰釉四耳壷2・灰釉折縁 鉢1、常滑窯壷3・小甕1・甕・片口鉢、東 播系片口鉢1、瓦質器1、かわらけ7		69

神奈川県内の「やぐら」集成(4)

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
笹目遺跡内やぐら	1号窟	龍泉窯系青磁鉢1、白磁皿1、瀬戸窯鉄釉瓶子1・灰釉折縁皿4・鉢1、常滑窯鳶口壺 1・片口鉢1・甕5、備前窯擂鉢1、かわらけ17		70
	2 号窟	青磁碗2・盤1、瀬戸窯鉄釉水注1・灰釉卸皿2・鉢1、常滑窯甕7・片口鉢2、備前窯擂鉢1、瓦質器2、かわらけ106		10
	1号窟	常滑窯壷1、かわらけ4	14世紀	
	2 号窟	龍泉窯系青磁皿 2 ・香炉 1 、瀬戸行平 1 、かわらけ 1	14世紀	÷
長寒去壺めがた 群	3 号窟	龍泉窯系青磁皿?1、緑釉壷?1、かわらけ 1、伊勢系鍔釜1、瓦質器2	14世紀	71
長楽寺南やぐら群	4 号窟	白磁皿1、青白磁梅瓶1・香炉1、龍泉窯系 青磁花瓶1・小杯1・皿1・水盤1、磁州窯 鉄釉瓶子1、均窯鉄釉花盆1、褐釉花盆1、瀬 戸窯灰釉広口壷1・入子1・折縁皿3・折縁 鉢1・香炉1・仏華瓶1・卸皿2・盆1、常 滑窯片口鉢1・甕6、瓦質器1、かわらけ10	14~15世紀	/1
	第1号やぐら	かわらけ4	15世紀中葉~後葉	72
極楽寺やぐら群	第1号やぐら	常滑窯甕7、かわらけ59	15世紀後半	73
immedia of 1 2 ml	第1号やぐら	瀬戸窯碗形鉢1、常滑窯甕6、かわらけ128	14世紀後半~17世紀	74
	1号窟	かわらけ 2	i p	75
極楽寺旧境内遺跡内 やぐら	2号窟	かわらけ 2		
715	1号やぐら	常滑窯壺 1	13世紀後半	76
真言院北やぐら群	第1号やぐら	瀬戸窯四耳壺片1、常滑窯甕5・片口鉢1、 かわらけ30、平瓦2	15世紀初頭~後半	77
極楽寺前やぐら	1号窟	瀬戸窯灰釉香炉・卸皿、常滑窯甕2、瓦質器 1、かわらけ101、瓦4	14世紀後半~15世紀	78
極楽寺近世やぐら		かわらけ 2		79
極楽寺西ヶ谷東側や	第1号やぐら	常滑窯甕3・壺2、瓦質火鉢1、かわらけ10	14世紀中葉~後葉、15世 紀中葉~後葉	80
ぐら群	第1号やぐら	常滑窯甕4、かわらけ9、瓦質釜4	15世紀後半~16世紀	81
極楽寺旧境内遺跡内	1 号窟	瀬戸窯灰釉製品3、常滑窯甕586、かわらけ49、瓦2	14世紀末~15世紀	82
やぐら	2号窟	常滑窯甕875、かわらけ85	14世紀末~15世紀	
子守神社砦遺跡		常滑窯甕3、かわらけ13	14世紀~近世	83
	1号やぐら	かわらけ 2	14世紀前半	84
川名森久地区遺跡群	2号やぐら	かわらけ19	14世紀後半~15世紀初頭	
	第1号やぐら	かわらけ 5	15世紀前半	85
和田山やぐら群	3号やぐら	かわらけ21	16世紀代	86
陣屋谷戸やぐら群	第7号やぐら	常滑窯甕73	13世紀後半	87
正禅寺やぐら群	5・6号やぐら	かわらけ34、瓦質器 1	15世紀初頭~前葉	88
正観寺やぐら群	1号やぐら	かわらけ1	16世紀後半	89
長坂やぐら群	第10号穴	瀬戸窯柿釉瓶子片1、常滑窯小形壷1、かわらけ2	13世紀後半~14世紀前半	90
長坂宮ノ前やぐら群	第1号やぐら	常滑窯甕1、かわらけ4	16世紀後半~末	91
	1号やぐら	常滑窯壺3、かわらけ2	14世紀初頭~前半	92
薬王寺やぐら群	2号やぐら	常滑窯壺1、かわらけ4	14世紀前半~中	
木工サー (り叶	4やぐら	かわらけ3	14世紀後半~15世紀代	

中世研究プロジェクトチーム

遺跡名	出土遺構	出土遺物	年代	文献番号
	第2号やぐら	常滑窯甕5、かわらけ58	16世紀~17世紀	
	第3号やぐら	瀬戸窯仏花瓶1、かわらけ81	13世紀~17世	
八坂やぐら群	第5号やぐら	かわらけ4	16世紀代	93
	第1号やぐら	かわらけ1		
100.45	第2号やぐら	かわらけ1	17世紀後半	
仲川やぐら群	仲川やぐら	龍泉窯系青磁稜花皿1	15世紀後半~16世紀	94
げんじが谷やぐら群	第2号やぐら	常滑窯甕肩部 2		٥٦
V) N C N A Y Y S AF	第4号やぐら	瀬戸·美濃大窯鉄釉擂鉢片 1	parties	95
	第1号やぐら	かわらけ16	16世紀前半	
正覚寺やぐら群	第2号やぐら	青磁連弁文碗 1	13世紀後半~14世紀前半	96
H some see	第3号やぐら	瀬戸窯鉄釉擂鉢1、常滑窯甕1、かわらけ1	13世紀後半、16世紀前半	
逗子市小坪 6 丁目や ぐら群	2号穴	かわらけ8	16世紀代	97
竹の谷戸やぐら	1号やぐら	瀬戸窯小壺1、かわらけ3	15世紀中頃以降	98
和田やぐら群	1号穴	かわらけ細片		99
用ロナナックと並	1号やぐら	かわらけ3	15世紀~17世紀代	100
間口またやぐら群	4号やぐら	瀬戸窯灰釉燭台1、かわらけ6	15世紀~17世紀代	100

「やぐら」出土土器・陶磁器一覧表 参考文献

- 1. 東国歴史考古学研究所 1998 「釜利谷やぐら群」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
- 2. かながわ考古学財団 2000『瀬戸町やぐら群・横穴墓』かながわ考古学財団調査報告86
- 3. 東国歴史考古学研究所 1998「上行寺東やぐら群」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』調査研究報告第15集
- 4. 上行寺東やぐら群遺跡調査団 2002『上行寺東やぐら群遺跡発掘調査報告書』
- 5. 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 1987 『六浦大道やぐら群』
- 6. 岡崎文喜他 1982 『六浦北部遺跡』
- 7. かながわ考古学財団 2000 『六浦三艘地区やぐら群』かながわ考古学財団調査報告99
- 8. 永井正憲他 1986『番場ヶ谷やぐら群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
- 9. 十二所稲荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1992「十二所稲荷小路遺跡内やぐら」『平成2年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 10. 十二所稲荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1990「十二所稲荷小路遺跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 11. 十二所稲荷小路遺跡内やぐら発掘調査団 1990『十二所稲荷小路遺跡内やぐら』
- 12. 東国歴史考古学研究所 1998「光触寺旧境内遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』 東国歴史考古学研究所調査研究 報告第15集
- 13. かながわ考古学財団 2001 「光触寺橋やぐら・大江稲荷跡所在やぐら群」 『かながわ考古学財団調査報告』 113
- 14. かながわ考古学財団 2001「一心院跡所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』112
- 15. 東国歴史考古学研究所 1998「明王院門前遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
- 16. かながわ考古学財団 2003 『明石谷やぐら群・明石谷東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告154

神奈川県内の「やぐら」集成(4)

- 17. 公方屋敷跡内やぐら発掘調査団 1990「公方屋敷跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 18. 公方屋敷跡内やぐら発掘調査団 1991「公方屋敷跡内やぐら」『平成元年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 19. 公方屋敷跡内やぐら発掘調査団 1993「公方屋敷跡内やぐら」『平成3年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 20. 宅間ヶ谷やぐら群発掘調査団 1991「宅間ヶ谷やぐら群」『平成元年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 21. 東国歴史考古学研究所 1994 「報国寺遺跡内やぐら発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所調査研究報告』第1集
- 22. かながわ考古学財団 2001 「宅間谷西第2やぐら群」 『かながわ考古学財団調査報告』 114
- 23. かながわ考古学財団 2002 『宅間谷西第2やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告137
- 24. 浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡発掘調査団 1989『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』
- 25. 瑞泉寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団 1991「瑞泉寺周辺遺跡内やぐら」『平成元年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 26. かながわ考古学財団 2000「鎌倉城(二階堂紅葉ヶ谷)所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』88
- 27. かながわ考古学財団 2001「覚園寺総門跡東やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』115
- 28. 東国歴史考古学研究所 1998「No331遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第 15集
- 29. かながわ考古学財団 2002 『覚園寺総門跡東やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告138
- 30. 二階堂会下やぐら群発掘調査団 1987 『会下山西やぐら発掘調査報告書』
- 31. 東国歴史考古学研究所 1996 「天王寺跡やぐら」 『中世石窟遺構の調査』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第7集
- 32. 東国歴史考古学研究所 1998「天王寺跡やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
- 33. 大倉幕府北遺跡発掘調査団 1999『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』
- 34. かながわ考古学財団 2004『大倉幕府北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告162
- 35. 杉本城跡内やぐら発掘調査団 1991「杉本城跡内やぐら」『平成元年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 36. 報国寺境内やぐら群発掘調査団・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団 1988 『報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内 やぐら発掘調査報告書』
- 37. 東国歴史考古学研究所 1996「杉本寺周辺遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告 第7集
- 38. かながわ考古学財団 2004 『西御門東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告181
- 39. かながわ考古学財団 2004『西御門東やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告187
- 40. 山王堂跡発掘調査団 1990『名越·山王堂跡発掘調査報告書』
- 41. かながわ考古学財団 2000 『鎌倉城 (大町3丁目) 所在やぐら』かながわ考古学財団調査報告89
- 42. かながわ考古学財団 2001『山王堂東谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告117
- 43. かながわ考古学財団 2002『山王堂東谷やぐら群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告140
- 44. かながわ考古学財団 2004『山王堂東谷やぐら群Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告182

中世研究プロジェクトチーム

- 45. かながわ考古学財団 2004 『山王堂東谷やぐら群V』かながわ考古学財団調査報告186
- 46. 東国歴史考古学研究所 1994「中世山腹墓所遺跡の調査 No302遺跡内やぐら(八雲神社境内)発掘調査報告書」『東 国歴史考古学研究所調査研究報告』第8集
- 47. かながわ考古学財団 2000『弁ヶ谷東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告94
- 48. 新善光寺跡やぐら発掘調査団 1988『新善光寺跡やぐら発掘調査報告書』
- 49. かながわ考古学財団 1999『鎌倉城 (No87) 所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告74
- 50. 弁ヶ谷遺跡やぐら群発掘調査団 1991「弁ヶ谷遺跡やぐら群」『平成元年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』
- 51. かながわ考古学財団 2000『弁ヶ谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告98
- 52. かながわ考古学財団 1999 『長勝寺跡 (No88) 所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告71
- 53. かながわ考古学財団 2001 『長勝寺跡内やぐら群』かながわ考古学財団調査報告116
- 54. かながわ考古学財団 2004 『長勝寺跡内やぐら群Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告174
- 55. 円覚寺境内西やぐら群調査団 1983『円覚寺境内西やぐら群発掘調査報告書』
- 56. 神奈川県立埋蔵文化財センター 1984 『西管領屋敷やぐら群』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 6
- 57. 神奈川県立埋蔵文化財センター 1985 『帰源院下やぐら群』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 9
- 58. 西管領屋敷南やぐら群調査団 1984 『西管領屋敷南やぐら群発掘調査報告書』
- 59. 東国歴史考古学研究所 1999「正法寺遺跡 | 『中世石窟遺構の調査Ⅲ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第22集
- 60. かながわ考古学財団 1999『尾藤谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告64
- 61. 多宝律寺遺跡発掘調査団 1976 『多宝律寺遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
- 62. 東国歴史考古学研究所 1999「史跡巨福呂坂内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅲ』 東国歴史考古学研究所調査研究報告 第22集
- 63. 鎌倉市教育委員会 2003 「華光院跡やぐら群」 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書」 19
- 64. 鎌倉市教育委員会 1992「無量寺跡 (No196)|『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』 8
- 65. 佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団 1997『佐助ヶ谷遺跡内やぐら』
- 66. 東国歴史考古学研究所 1996「佐助 2 丁目やぐら群」『中世石窟遺構の調査』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第7 集
- 67. 東国歴史考古学研究所 1998「松谷寺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15 集
- 68. 東国歴史考古学研究所 1998「松谷寺やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集
- 69. 佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団 1991「佐助ヶ谷遺跡内やぐら」『平成元年度度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴 う発掘調査報告書』
- 70. 笹目遺跡内やぐら発掘調査団1990「笹目遺跡内やぐら」『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査 報告書』
- 71. 東国歴史考古学研究所 1998「長楽寺南やぐら群」『中世石窟遺構の調査Ⅱ』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15 集
- 72. かながわ考古学財団 1999『極楽寺やぐら群 (No128)』かながわ考古学財団調査報告72
- 73. かながわ考古学財団 2000『極楽寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告90

神奈川県内の「やぐら」集成(4)

- 74. かながわ考古学財団 2000『極楽寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告93
- 75. 東国歴史考古学研究所 1995「極楽寺旧境内遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査 II』 東国歴史考古学研究所調査研究 報告第15集
- 76. 神奈川県教育委員会 2002 「鎌倉市極楽寺 1 丁目23の平成11年度急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告』 44
- 77. かながわ考古学財団 2003 『真言院北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告156
- 78. 東国歴史考古学研究所 1996「極楽寺旧境内遺跡内横穴墓」『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第7集
- 79. 鎌倉市教育委員会 1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1
- 80. かながわ考古学財団 1999『一升桝遺跡(No293) 所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告73
- 81. かながわ考古学財団 2000『一升枡遺跡所在やぐら群』かながわ考古学財団調査報告100
- 82. 東国歴史考古学研究所 1996「極楽寺旧境内遺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査』東国歴史考古学研究所調査研究報告第7集
- 83. 子守神社砦遺跡発掘調査団 2000『子守神社砦遺跡発掘調査報告書』
- 84. 川名森久地区遺跡発掘調査団 1996『藤沢市川名森久地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』
- 85. かながわ考古学財団 2001『和田山やぐら群遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告119
- 86. かながわ考古学財団 2003『和田山やぐら群遺跡Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告148
- 87. かながわ考古学財団 2000『陣屋谷戸やぐら群遺跡』かながわ考古学財団調査報告84
- 88. かながわ考古学財団 2004 『正禅寺やぐら群』 かながわ考古学財団調査報告173
- 89. かながわ考古学財団 2004『正観寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告177
- 90. 長坂やぐら群発掘調査団 1981 『横須賀市長坂やぐら群の調査』
- 91. かながわ考古学財団 2003『長坂宮ノ前やぐら群』かながわ考古学財団調査報告144
- 92. かながわ考古学財団 2004 『薬王寺やぐら群』 かながわ考古学財団調査報告176
- 93. かながわ考古学財団 1997『池子遺跡群Ⅳ』かながわ考古学財団調査報告26
- 94. かながわ考古学財団 1999『池子遺跡群 Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告43
- 95. かながわ考古学財団 1999「逗子市げんじが谷横穴墓群及びやぐら群」『平成10年度三浦・逗子・横須賀市内急傾斜地 崩壊対策事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告62
- 96. かながわ考古学財団 2002 『正覚寺やぐら群遺跡』かながわ考古学財団調査報告132
- 97. 急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1997 『逗子市小坪5丁目やぐら群の第2次調査』
- 98. かながわ考古学財団 2003『竹の谷戸やぐら』かながわ考古学財団調査報告145
- 99. 三浦市急傾斜地区埋蔵文化財調査団 1989 『三浦市和田やぐらの第3次調査』
- 100. かながわ考古学財団 2004『間口またやぐら群』かながわ考古学財団調査報告172

中世研究プロジェクトチーム

第2表 神奈川県内「やぐら」集成一覧(集成遺漏分)

番号	遺跡名	所在地	基数	立地	調査年月日	備考	文献 番号
126	浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡	鎌倉市浄明寺字釈迦堂621番	2	崖裾	IX FOR IUX/II.	斜面中腹を造 成した平場に 面する	

※新番号付与

第3表 神奈川県内「やぐら」集成一覧(2003年4月以降刊行分)

番号	遺跡名	所在地	基数	立地	調査年月日	備考	文献番号
		鎌倉市大町3丁目1378番、1381 番3	3	崖裾	2002年12月26日~ 2003年2月6日		189
37	山王堂東谷やぐら群	鎌倉市大町 3 丁目1338番	1	崖裾	2003年9月1日~ 9月29日		190
		鎌倉市大町 3 丁目1339番	1	崖裾	2004年6月30日~ 7月12日		191
127	西御門東やぐら群	鎌倉市西御門1丁目22番1、23番、25番1、2	9	崖裾	2001年7月5日~ 8月1日·10月19日~10月24日·11月8日~11月19日、2002年7月15日~ 8月12日·12月2日~12月2日~12月25日、2003年2月7日~3月31日	1	192
		鎌倉市西御門 1 丁目31番	1	崖裾	2003年8月29日~ 9月8日·9月29日 ~10月23日		193
128	旗立山やぐら群	三浦郡葉山町堀内40、41-1	2	崖裾	2004年6月14日~ 6月29日		194
129	矢作第2やぐら群	三浦市初声町和田3324~3326番	5	崖裾	2004年3月11日~ 3月26日	W - 1	195

※37は追加、他は新番号付与

文献

- 188. 浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡発掘調査団 1989『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』
- 189. かながわ考古学財団 2005『山王堂東谷やぐら群Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告182
- 190. かながわ考古学財団 2005『山王堂東谷やぐら群Ⅳ』かながわ考古学財団調査報告184
- 191. かながわ考古学財団 2005『山王堂東谷やぐら群V』かながわ考古学財団調査報告186
- 192. かながわ考古学財団 2005『西御門東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告181
- 193. かながわ考古学財団 2005 『西御門東やぐら群Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告187
- 194. かながわ考古学財団 2005『旗立山やぐら群』かながわ考古学財団調査報告183
- 195. かながわ考古学財団 2005『矢作第2やぐら群』かながわ考古学財団調査報告188
- ※文献番号は前回(『研究紀要10 所収』) 番号から続く

近世民家の集成(3)

近世研究プロジェクトチーム

はじめに

県内の近世民家の集成の第3回目である。前2回は本プロジェクトチームがまとめた「県内の近世遺跡集成表」に基づいて、横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市の順に実施してきたが、今回は紙面の都合上小田原市、相模原市、綾瀬市の3市を対象とした。

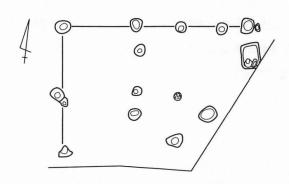
なお、すでに集成を終えた市において、報告されているにもかかわらず見落としていた事例や近年刊行された報告書に記載されている事例があることが明らかとなった。今後もこのようなケースが出てくると思われるが、それらについては補遺で扱うことにする。

凡例

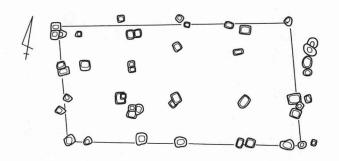
- ・資料Naは近世民家の集成(1)からの続き番号である。
- ・遺構名は報告書の記載に基づく。
- ・建物の縮尺は1/100とし、スケールを省略したが、規模の大きいものについては適宜縮尺を変え、図面ごとにスケールを示した。
- ・梁間、桁行の間数は単に柱穴の数ではなく、柱間距離から概略割り出した1間の梁間及び桁行寸法で換算した数値を示している。
- ・坪数は梁間×桁行の面積を、現行の一坪3.3m2で除したものである。
- ・建物の機能・構築時期については、報告書の記載に準じているが、母屋と付属建物の別が明確なもの、出土遺物から時期が推定できるものについては記載した。

資料No.	60	遺跡名	名 御組	長屋	置遺跡第	≶Ⅱ 判	也点				所	在地	小	田原市南	町		
遺構	名	1号	掘立柱建	建物士	止 構築	产場所	近 丘	陵縁辺	から	5低地·	への利	多行部	5			- 54	
規	模	梁間	4.5	m	桁行		6.6 n	n	3	\times 4	間	面積		$29.7\mathrm{m}^2$	坪数	á	9坪
柱穴の	形状	隅丸方?	形、長方形	柱間	引距離	梁	1	.1~1.6	m	桁	1.5	~1.9 r	n	主軸方位	N-90	O°-E	
出土:	遺物							付属旅	設								
建物の	機能	弓矢	・鉄砲力	7足車	圣の居住	主棟		構築時	排	18世	紀~	19世紀]				118
備	考																y
			4	C		0) (2))						

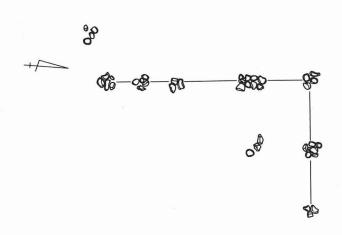
資料	No.	61	遺跡名	3 御組	.長屋	遺跡第	育Ⅱ 地	点					所	在地	小田原市南	町		
遺	構	名	2号	屈立柱建	建物址	構等	楽場 所	fБ	陵	縁辺から	5低均	也へ	の移	多行部				
規		模	梁間	3.5 m	n~	桁行		5 n	n	2~	× .	3	間	面積	m²	坪数		坪
柱7	マの形状 円形・楕円形主体 柱間距離 梁								.6、	1.9 m	桁		1.2	~1.9 r	n 主軸方位	N-8	3°-E	
出	土道	貴物			7 15	973			付	属施設				1.5				
建物	勿の	機能	弓矢	・鉄砲力	万足轁	の居住	生棟		構	築時期	18	世紀	纪~]	19世紀				
備		考	南側	及び東側	則は調	查区	外に新	売いて	(V)	る可能	生あ	ŋ、	1 5	} 掘立	柱建物址より	もやや	古い	



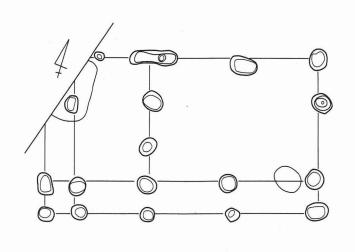
資料	No.	62	遺跡名	当 御組	長屋	遺跡第	其Ⅱ其	也点				所	在地	小田原市南	町	
遺	構	名	3号	掘立柱建	建物均	上 構等	产場 戸	斤 丘	陵縁辺か	ら低	地~	への利	多行部	76 12 4		9.
規						6 m	1.5	×	3	間	面積	19.8 m ²	坪数	6坪		
柱刀	主穴の形状 方形、長方形					即離	梁	1.	3、2.0 m	桁		1.7	~2.7 n	n 主軸方位	N-83°-	-E
出	土道	量物							付属施設	1						
建物の機能 弓矢・鉄砲方足軽の居住棟							構築時期	1	8世	紀後	半~19	世紀前半	7.0	151		
備								響か								200



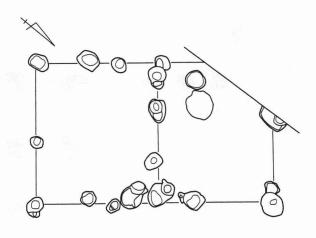
資料	No.	63	遺跡名	小田	原城	三の対	L藩校	集成	館	第Ⅲ地点	Ĩ,	,	所	在地	小田原市本	町		Chi
遺	構	名	1号码	楚石建物	加址	構等	产場所								-			9,
規		模	梁間	3.9	m	桁行		6.6 r	n	2	× :	3	間	面積	m ²	坪数		坪
柱グ	柱穴の形状 柱間距離 梁							1	.7、	1.9 m	桁		1.6、	2.0	n 主軸方位	N-1	3°-W	
出:	土道	貴物							付	属施設)i	
建物	建物の機能								構	築時期	19	世系	己前-	半以陷	<u> </u>		a par	- = '
備										礎石は2	Ocm 7	前後	その原	扁平な	河原石3~9	9個かり	らなる	ă,



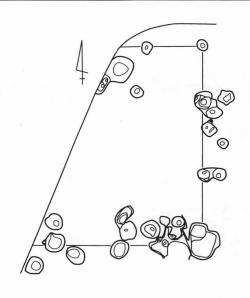
資料	No.	64	遺跡名	3 中村	遺跡								所	在地	相	模原市上額	鳥間	1 14
遺	構	名	1号	掘立柱建	建物址	構等	连場 列	f 台	地	裾部								5 31 5
規								6.7 n	n	1.5	×	3	間	面積		23.5m^2	坪数	7.1坪
柱グ	柱穴の形状 円形、楕円形 柱間距離 梁							1.	.2,	2.2 m	桁	i	2.1	~2.41	n	主軸方位	N-8	0°-E
出:	土道	量物				*			付	属施設	西	到	及び国	有側に	庇有	言り		
建物の機能 母屋									構	築時期	中	世	末~沿	丘世前	半		r,	- K
備		考	報告	mの3	3×4	4間の建	物址	とさ	れてい	るが、	西俱	削と南側は作	付属施訂					



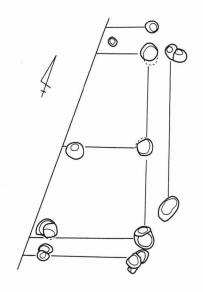
資料	No.	65	遺跡名	4 中村	遺跡							d	所:	在地	相模原市上	鶴間	
遺	構	名	3 号	掘立柱延	建物均	上 構等	产場 凡	Fi .	台地	裾部			ē tij		s Septimity		1 1 10
規								6.6	m	2	×	3	間	面積	25.7 m ²	坪数	7.8坪
柱グ	柱穴の形状 円形主体 柱間距離 梁							1.7、	2.2 m	桁		4	2.2 r	n 主軸方位	N-4	5°-W	
出:	土道	量物	瀬戸	・美濃系	《擂 傘	卜 等			作	属施設							7 8 1 81
建物の機能 母屋							-11	棹	築時期	江	戸	時代前	前期頃				
備 考 江戸時代中期頃に廃絶													7.9		Marie 1		



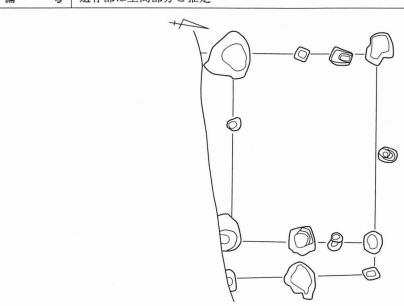
資料	NI.	CC	遺跡名	y 1111-	请	+	_				===	/. +th	担措百士し	左右 月日	1711
貝科	INO.	66	退奶化	5 中介:	1.退政	1					РЛ	在地	相模原市上	賜 间	
遺	構	名	4号	屈立柱延	建物均	止 構築	楽場 F	近 台地	也裾部						
規		模	梁間	4.2	2 m	桁行		5.1 m	2~	× 3	間	面積	m ²	坪数	坪
柱グ	つが	形状	円形	主体	柱	間距離	梁	1 24	2.1 m	桁	1.5	~2.0 r	n 主軸方位	N-0°	
出	土道	貴物			1	-bill		1	付属施設			2.9			
建物	建物の機能 物置または小屋						1	構築時期				V			
備	10	考	調査	区外に対	正びっ	ておりま	全体	は明ら	かでない		lige	41.5	JET I I		1

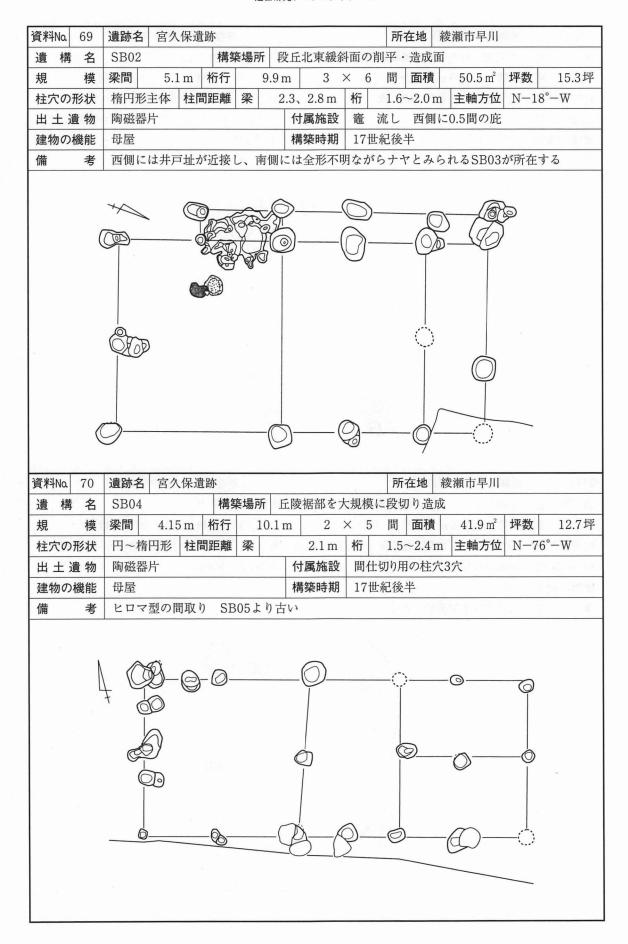


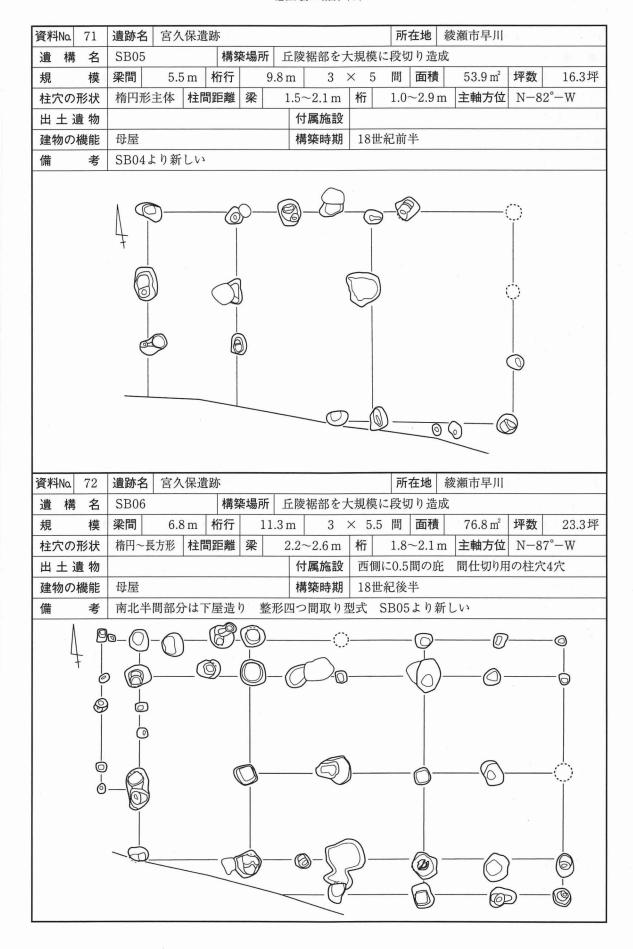
資料	No.	67	遺跡名	五社	神社	遺跡					所	在地	綾瀬市早川	100		110
遺	構	名	1号	屈立柱建	建物均	上構等	产場戸	近 丘陵	定縁辺部の	段均	刀り造成					
規		模	梁間	4.9	m	桁行	3	.0~ m	2	× :	1~間	面積	m ²	坪数		坪
柱方	柱穴の形状 円形主体 柱間距離 梁								2.5 m	桁		2.6 r	n 主軸方位	N-6	9°-E	- 53
出:	土 遺	動物						1	付属施設	北	·南・	東側に	庇 間仕切り	用の枠	主穴 1万	ナ
建物	建物の機能 母屋								 等 等 時 期	18	世紀代					
備		考	,a =									2				-50

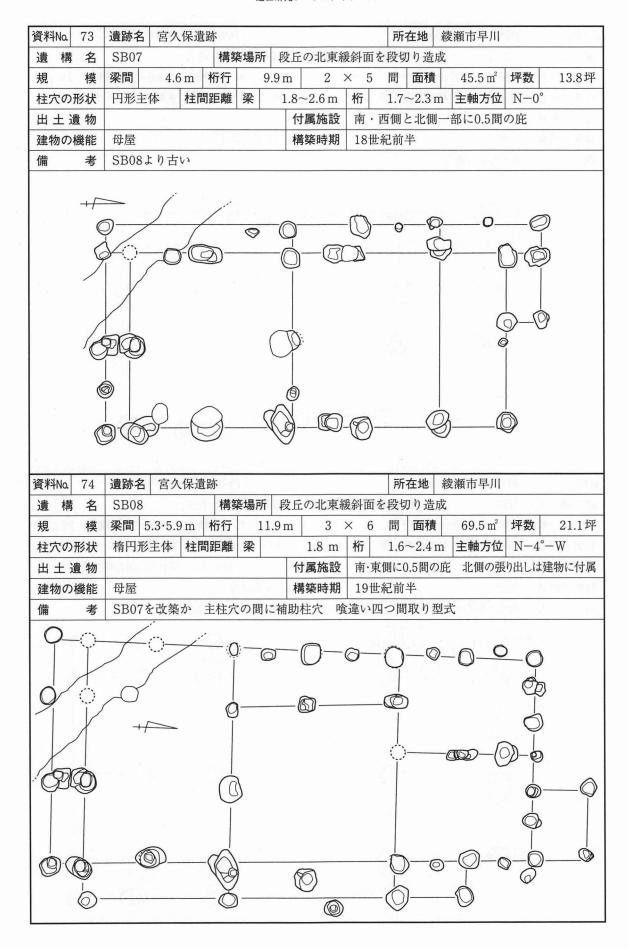


資料	No.	68	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡					所	在地	綾瀬市早川	10		, i =
遺	構	名	SB0	L		構夠	连場 F	近 北	側緩斜面	の段」	丘上の肖	可平面	1			
規		模							2	×	3~ 間	面積	m ²	坪数		坪
柱グ	主穴の形状 不整形 柱間距離 梁						2.	6、2.9 m	桁		2.11	n 主軸方位	N-1	0°-W		
出	土 遺	動物	陶磁	器片僅少	>				付属施設	東	側に0.5	間の店	Ē	X	h th	
建物	建物の機能 母屋								構築時期						Q2 - 41	
備		考	遺存	部は土間	引部分	子と推発	定									- 1

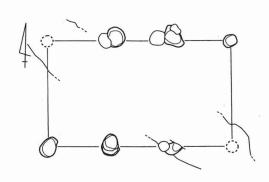




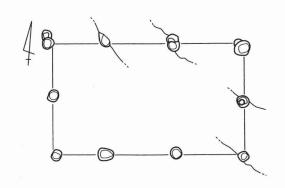




資料	No.	75	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡					所	在地	綾瀬市早川		
遺	構	名	SB09)		構等	产場戸	斤 段	丘の北東統	爰斜面	で段	刃り造	成		fe e
規		模	梁間	2.8	3 m	桁行	4	1.85 m	n 2	× 3	引 間	面積	13.6 m ²	坪数	4.1坪
柱グ	さの タ	形状	不整	円形	柱間	冒距離	梁		2.8 m	桁	1.35	~1.9	m 主軸方位	N-8	7°-E
出:	土谴	量物							付属施設						7 / 121
建物	勿の材	幾能	ナヤ						構築時期						To the
備		考	主軸	方位が直	「交す	-るSB	07 K	付属							1

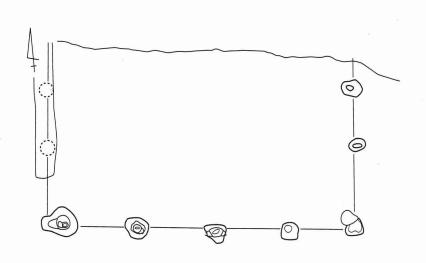


資料	No.	76	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡						所	在地	綾瀬市早川		1.47
遺	構	名	SB10)		構等	连場 F	近 段日	この北東紀	缓斜回	面を見	没切]り造成	Ž		, n ja.
規	1	模	梁間	2.95	5 m	桁行		5.1 m	2	×	3	間	面積	15.0 m ²	坪数	4.6坪
柱グ	さの J	形状	円・オ	惰円形	冒距離	1.35	·1.55 m	桁]	1.4	~1.9 m	主軸方位	N-8	6°-E		
出:	土 谴	動物						f	付属施設							
建物	勿の材	幾能	ナヤ					ħ.	構築時期							7 TEE
備		考	建物	の配置が	BS	B0813	付属	7								8.1

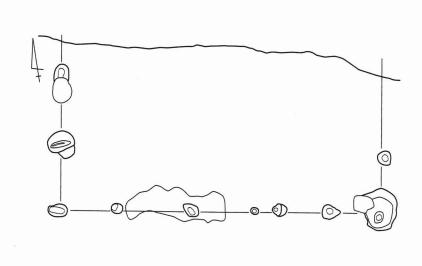


資料No. 77	遺跡名 宮久保遺跡	所在地 綾瀬市早川
遺構名		斜面を段切り造成
規模	深間 4.6 m 桁行 8.15 m 2 ×	
柱穴の形状		桁 1.9~2.2 m 主軸方位 N-17°-W
出土遺物	付属施設	西側と南側一部に0.5間の庇 間仕切り用の柱穴3穴
建物の機能		17世紀中半
備考	4/E	112/011
資料No. 78 遺 構 名 規 模 柱穴の形状 出 土 遺 物	梁間 8.25 m 桁行 11.3 m 3.5 ×	所在地 綾瀬市早川 斜面を段切り造成 5 間 面積 93.2 m² 坪数 28.3 坪桁 1.4~3.0 m 主軸方位 N-74°-E 電
建物の機能	母屋構築時期	The second secon
備考	西側は一部調査区外 平面形は変則的	

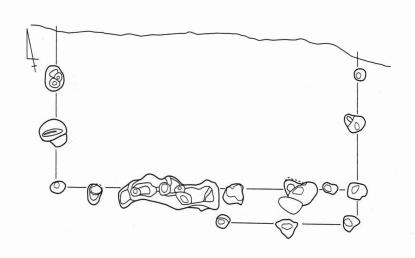
資料	No.	79	遺跡名	宮久	、保遺	跡					所	在地	綾瀬市早川		11.00
遺	構	名	SB14		- 0	構築	产場戸	斤 段	丘の北東約	爰斜证	面を段り	リり造	戎		
規	- ,	模	梁間	8.2	2 m	桁行	4	.4~ n	4	× .	5~ 間	面積	m²	坪数	坪
柱グ	つが	形状	楕円形	注体	柱間	冒距離	梁	1.7	5~2.4 m	桁	1.55	2.2 1	n 主軸方位	N-7°-E	
出:	土 遺	量物							付属施設					- 1	
建物	物の物	幾能	母屋						構築時期					5.80	* 5
備		考	西・南	「側を 段	と切り	して	おり、	建物	は東側が	正面の	の南北村	東と推	定	4	×



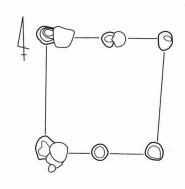
													t		
資料	No.	80	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡					所	在地	綾瀬市早川		1.74
遺	構	名	SB15	5		構領	连場 F	所 段』	上の北東統	爰斜百	面を段り	リり造り	戊		1 30
規		模	梁間	8.5	5 m	桁行	4	.5∼ m	4	×	5~間	面積	m²	坪数	坪
柱刀	さの?	形状	円~長	楕円形	柱間	『距離	梁	1.4	~2.0 m	桁		1.8 r	n 主軸方位	N-7°-E	
出	土道	量物						1	寸属施設						
建物	勿の	幾能	母屋					į į	構築時期						
備		考	SB14	より新	しく	、東^	1.21	nずれ	て構築され	れて	おり、質	建替え	と判断される		10



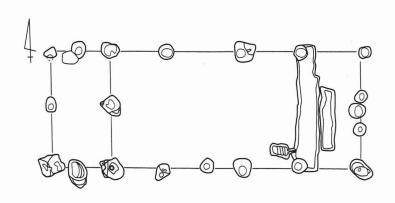
資料	No.	81	遺跡名	宮久	、保遺	t跡					所	在地	綾瀬市早川		
遺	構	名	SB16			構等	E場 F	所 段日	正の北東総	最斜面	面を段り	り造	成		S. 3.
規		模	梁間	7.9	9 m	桁行	3	.4~ m	4	× !	5~間	面積	m ²	坪数	坪
柱汀	主穴の形状 円~不整形 柱間距離 梁					0.7	~1.5 m	桁		1.5 1	m 主軸方位	N-7°-I	E		
出	土油	貴物	7 17 NO. 1 10 100 100 100 100 100 100 100 100 1					1	寸属施設	南位	側 2 間 2	分に0.	5間の庇	17,00	
建物	勿の	の機能 母屋						ŧ.	構築時期					o ' - '	L. t. jil
備		考	SB15	SB15の北西側に僅かにずれて構築されており、建替えと推定											



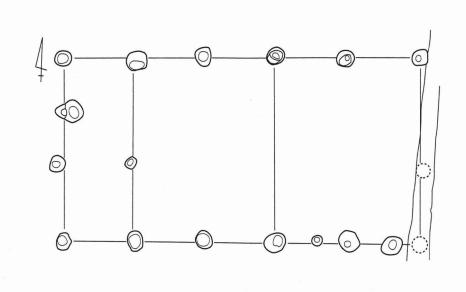
資料	No.	82	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡					所	在地	綾瀬市早川		
遺	構	名	SB17	7		構夠	产場 所	ī SB	14~16の	東側線	約 6 m			- 15	
規		模	梁間	3.2	l m	桁行	2.9	3.1 m	2	× 2	間	面積	9.3 m ²	坪数	2.8坪
柱グ	主穴の形状 円~楕円形 柱間距離 梁					75	3.1 m	桁	1.5	~1.6	m 主軸方位	N-8	8°-W		
出	土道	量物	Ř. i.e.					1	付属施設						
建物	勿の材	機能	能ナヤ						構築時期						Control of
備		考	梁間	は2間ツ	欠きか	女ち						3			, =-



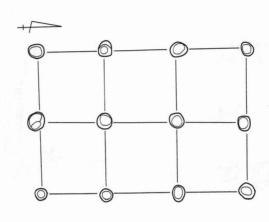
資料	No.	83	遺跡名	宮久	、保遺	跡						所	在地	綾瀬市早川	100	21.1%
遺	構	名	SB18			構等	E場	万 SE	314~160	東側	約6	m				- 14 1
規		模	梁間	3.1	m	桁行		6.6 m	2	×	1	間	面積	20.5 m ²	坪数	6.2坪
柱グ	でのが	形状	円~楕	肾円形	柱間	引距離	梁		1.5 m	桁			1.5 r	n 主軸方位	N-8	8°-W
出:	土道	量物							付属施設	西伯	則に	1 間	間の庇	梁に平行し	て長方	形の溝2本
建物	物の材	幾能	ナヤ						構築時期				>			16 79
備		考	SB17	の建替	え・	拡張								11 1		



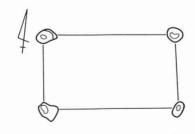
					4.5										
資料	No.	84	遺跡名	宮 宮久	、保遺	t跡					所	在地	綾瀬市早川		
遺	構	名	SB19	9		構等	连場 F	折 段上	この北東総	爰斜面	を段切	り造成			
規		模	梁間	4.8	3 m	桁行		9.4 m	3	× 5	5 間	面積	45.1 m²	坪数	13.7坪
柱グ	さの J	形状	円形主体 柱間距離 梁					1.4	~2.0 m	桁	1.	8·1.9 r	n 主軸方位	N-8	6°-E
出:	土遺	動物						ſ	付属施設	間位	生切り,	用柱穴	1穴		1 L - F 5-
建物	勿の材	幾能	母屋					*	構築時期				4		W 1 - W
備		考	建物	配置等な	らま	上側が〕	E面	と推定							3" 4



資料	No.	85	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡						所	在地	綾	瀬市早川	1.5	77.5
遺	構	名	SB20)		構夠	产場 列	f SB1	19の北海	约 4	m						£25
規		模	梁間	3.3	l m	桁行		5.5 m	2	X	3	間	面積		17.1 m ²	坪数	5.2坪
柱グ	ての ナ	形状	円~柞	育円形	柱間	引距離	梁	1.7	~1.9 m	1	行	1.7	~1.9	m	主軸方位	N-0°	-1 - 7
出:	土道	貴物		1 1		. 11		作	才属施 認	Ž						. 4	1 4 1
建物	勿の材	機能	ナヤ					楫	講築時 期	3						(8)	o HW
備		考	総柱	式建物									14.4		- 75	1	



資料	No.	86	遺跡名	宮 宮久	、保遺	跡					所	在地	綾瀬市早川		43-15
遺	構	名	SB21			構夠	产場所	f SB	19の西約	2 m	1.0				5 So &
規	J.	模	梁間	2.0) m	桁行	3.5	3.6 m	1	× 2	間	面積	$7.1 \mathrm{m}^2$	坪数	2.2坪
柱方	主穴の形状 楕円形主体 柱間距離 梁					107	2.0 m	桁	1.7	5·1.8 r	n 主軸方位	N-8	3°-E		
出:	土道	量物						1	付属施設		-				- 1 t. Ht
建物	物の材	幾能						1	構築時期					10	Strong t
備		考	梁間に	は2間ツ	欠きた	女ち					ei v		A planting		



研究紀要11

かながわの考古学

発 行 日 2006 (平成18)年3月10日

発 行 財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

tel (045)- 252- 8661 fax (045)- 262- 8162

http://www.planet.pref.kanagawa.jp/city/koukogaku/zaidan.htm

印 刷 野崎印刷紙器株式会社

KANAGAWA NO KÔKOGAKU

Vol. 11

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Palaeolithic Studies: Palaeolithic Remains in Kanagawa Prefecture (5): After Layer L3
Project Team for Jômon Period Studies: Change of the Jômon Culture in Kanagawa Prefecture (W): An Example in the earliest Late Period. An Aspect of the Shômyoji-Type Pottery Period, Part 1: The Corpus of Main Sites and Examples of collectively unearthed artifacts ————————————————————————————————————
Project Team for Yayoi Period Studies: A Study of the Miyanodai-Type Pottery (5)
Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr. Naotada Akaboshi, A Pioneer of Archaeological Research in Kanagawa Prefecture (3): A Report of Materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note"
Project Team for Nara-Heian Period Studies: Farm Implements of the Nara-Heian Period in Kanagawa Prefecture. 57
Project Team for Medieval Age Studies: The Corpus of "Yagura" (horizontal loam-cut cave burial chamber of the Kamakura period) in Kanagawa Prefecture (4): Potteries, Ceramics from "Yagura"
Project Team for Early Modern Age Studies: The Corpus of Common Houses in the Early Modern Age (3). ————————————————————————————————————

March, 2006

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan